

スコータイ
王國

に乗じて、一二三八年、北部東埔寨の都スコータイを略取し、一二五七年に至つてスコータイ王國を建設した。其の第一代の王スリ・インタラ・チットヤは東西に國土を擴張し、更に泰族の南紹王國は蒙古の忽必烈に滅され、その住民の多數が續々南下し來住するに及びスコータイ王國の國勢は隆々として繁榮した。

スコータイ第二代バン・ムアング王(一二七五年迄在位)は天逝し、その弟ラムカムヘン(一二七五—一三二七年)が第三代王位に在つた時代はスコータイ王國の全盛期で治世四十二年、ランタナイ及バヤオの二小獨立國と東埔寨に隸屬したチャントブンを除く泰國土の大部分を其の所領と爲し、國威四隣を壓するの觀があつた。王は文武に秀いでた名君で、同族の隣國と親交を結びたるのみならず、一二九四年、元の朝廷を訪ひ之と親善關係を結び、一三〇〇年再び支那に渡航して數多の技術者を招致し、今日の泰文字の原型をなす字母を整頓し、大砲を鑄造し、ソワンカローク焼なる窯業を創めたのは王の功績であると謂はれて居る。その子ルタイ(一三二七—一三四七年)が第四代王として位を嗣いだすが、一三三〇年ベギユの侵寇により、タヴォイ及テナセリムの領地を奪はれた。第五代たる其の子タムマラチャ・ルタイ(一三四七—一三七〇年)即位の頃より國威衰へ、王の晩年、藩侯ウートンが勢力を得て國の大半を支配し、一三五〇年遂にアユチャ王朝を建設するに及び第六代タムマラチャ二世(一三七〇—一四〇六年)に至りて、さしも隆盛なりしスコータイ王國も茲に終焉を告ぐるに至つた。

二、中古、アユチャ王朝

アユチャ王朝を建設したウートンはラマ・テイボデイ一世と稱し今日の盤谷より二十哩北方アユチャに王居を奠

め、王朝四百年の基礎を作り、威を四隣に輝かした。彼れの生地も父も今日之を知ることが出来ない。唯、彼れはスコータイ王國のスワンプミの一藩侯から身を起し、漸次聲望を聚めて、その勢威を遠近に揮ふた。一三五〇年、二十七歳にして都をアユチャに築き五十七歳にして世を去つた。彼の事蹟に就ては語るべき史實はなく、唯、神祕的快傑として史上その名を留めてゐるに過ぎない。當時の泰國領土はアユチャ、ロップリー、スパン、ラタナブリー、ペチャブリー、ナコン・シータマラート、シンゴラ、チャントブン、テナセリム、タヴォイの各地を含み、更に東埔寨からマラッカ地方までも歸屬させてゐたと傳へられてゐる。

アユチャ王朝は一三五〇年ウートンが王朝建設を宣してから、一七六七年に至るまで前後四百十七年、凡そ三十五代も續いたが、この間、緬甸や東埔寨と國運を賭して大戰を交へ、王位篡奪の内亂も亦た幾度か繰返された。

山田長政

快傑山田長政が泰國に於て勇名を轟かしたのは、此アユチャ第二王朝の祖にして第二十二代ソングタム(一六一〇—一二八年)から、第二十四代アットヤ・ウーング(一六二九—一三〇年)の時代に至る間のことである。第二十五代の王プラサット・トング(一六三〇—一五六年)は元とカラホーム(軍部大臣)の顯職にあつたが、彼れが第二十三代のジエータ王(一六二九年)を弑して王位を奪はうとした時、長政は大義に従ひアットヤ・ウーング親王を擁立したのでカラホームは一時、長政の言に同意して親王を立てたが、其の後、長政をナコン・シータマラート(六昆)總督に任命して巧みに之を首都より遠ざけ、親王を殺して遂に王位を篡奪し、アユチャ第三王朝の祖となつた。

長政は赴任早々、ナコン・シータマラート一帯を鎮定して善政を布き、領民の尊敬と信頼とを得たが、プラ・サット・トング王は舊ナコン・シータマラート總督を煽動して反亂を起さしめ、次で人を遣りて長政を毒殺せしめた。

日本人町の
衰頹

長政の死後、プラサット・トングは日本人に對して過酷なる彈壓政策を執りたる爲め、首都に殘留した邦人は王と葛藤を生じ、一六三〇年十月二十六日（寛永七年九月二十一日）の雨季に、突如として日本人町は四千の泰兵の夜襲を受け、力戰奮闘したが終に敗退し、邦人の殆んど總ては四散分離し、多くは東埔寨に遁れた。爾後も僅かの邦人が殘留した模様であるが、寛永十三年五月十九日の鎖國令に因りて後續者なく、昔日の繁榮活躍は全く、其の影を絶つに至つた。ケムペルの記録に由ると一六九〇年（元祿三年頃）まで木村半左衛門と云ふものがアヌチャ日本人町に生存してゐたし、又延寶四年六月十一日附、交趾廣南在住の谷村四郎兵衛なる者から、伊勢國松坂角屋七郎次郎に宛て書翰の一節に、『同地日本人皆果て只二人のみ残りたる爲方なき様推量せられ度、然れども存命の驗迄に大北絹一疋並黒紬一疋進上仕候云々』と記してあつた。

英佛東印度
會社の對立

アヌチャ王朝中、最も異彩を放つたのは第二十八代プラナライ王（一六五七―一六八八年）である。彼れは伯父スリソウタム・マラーチャを殺して王位を繼承するに及び、英國東印度會社の請に依り一六六一年貿易所を再開した。其の後、英人は王を強要してメーナム・チャオピャ河を封鎖して、皮革貿易所獨占權及び泰國最初の治外法權を獲得した。是に於て王は英人との通商を喜ばず、葡人を歓迎せず、結局、佛人と提携せんと考へた。會々佛國よりモット・ラムベール（一六六二年）及パリュュー等が宗教的侵略の意圖を以て多教の宣教師を伴ひ來朝した。一六七三年、ルイ十四世及び羅馬法王の信書が到達したので、泰佛の國交は漸次緊密化した。一六七五年希臘人コンスタンチン・パウロンが英船に乘組み來朝し、泰國政府に傭聘せられ外國貿易監督官となつた。パウロンは、私貿易を庇護して英國東印度會社と感情の疎隔を來たしたるため佛國人と結托するに至つた。一六八五年、ルイ十四世の使節シユバ

リエ・ド・シヨームも來朝して宗教及び通商上の重大權利を獲得し、更に佛國東印度會社は通商の自由、従業員の治外法權、プケット島の錫鑛獨占、シンゴラ領有等の權益を掌握した。之に由つて英國東印度會社とパウロンとは益々感情上の溝渠深刻化した。佛國は之を好機となし一六八七年ルーベールを使節とし、多數の商人及び宣教師と共に軍艦三隻、商船四隻、兵千五百、職工三百を送り、權益擁護に努めた。斯くて盤谷及びメルグーには佛國兵駐屯し、英國東印度會社と正に一觸即發の開戦氣運が漲つた。パウロンは、ルアング・ウキチャイエンに昇り、累進して宰相の印綬を帯ぶるに至り、全國基督教化の危険は益々濃厚となつた。是に於て憂國の志士各所に蜂起し、終にプラ・ペトラーチャーなるもの象軍隊を率ゐ、強力なる排外黨を結成して首領となり一六八八年遂にパウロンを處刑し、佛兵を追放し、泰國人及び外人の基督教徒を迫害彈壓した。同年プラナライ王の崩御と共に、プラ・ペトラーチャー（一六八八―一七〇三年）は登位して第二十九代の王となつた。後にパウロン妻子は宮廷に召出されて登用された。

斯くて佛人の野望は水泡に歸し、泰國の貿易及び國力發展は一時停頓した。翌年再び基督教布教の自由は許されたが、佛國は十九世紀に至るまで全く政治的野心を現はさなかつた。其の後、和蘭人は佛人に代つて、獸皮及び錫の獨占權を得たが、一七〇五年業績不振なるの故を以てアヌチャ及ナコン・シータマラート商館を閉鎖した。

一七三三年、ペトラーチャー王の孫にして、第三十代プラチャオ・スア（一七〇三―一七〇九年）の次子、タムマラーチャー二世（一七三三―一七五八年）が大兵數萬を動かして、兄たる第三十一代王ブミンタラチャー（一七〇九―一七三三年）を逐ひ、第三十二代王として登極するや、稀に見る善政を布き國民は太平を謳歌した。然るに、王の歿するや、緬甸

緬甸の泰侵
略

は執拗に泰國を侵寇するに至り、太平に酔うた國民は防備を嚴にし來襲に備へたが、一七六七年二月、緬甸の大軍南北兩面より進撃し來り首都を包圍した。十四箇月間の泰軍の防戦、力闘も遂に效なく翌年四月七日落城し、市街は慘憺たる大虐殺、大破壊が行はれ掠奪焼却され、典籍記録は烏有に歸し、アユチャ最後の王第三十六代ポロモラーヂヤ一五世(一七六二—一七六七年)は行衛不明、王族重臣以下數萬人は虜はれ、アユチャ王朝は四一七年にして没落した。

三、近代、チャックリー王国

アユチャ王朝が滅亡する前年、王の逆鱗に觸れ城下を去つた軍臣タクシンは、アユチャ城が緬甸の大軍に包圍されてゐるとき、手兵五百を率ゐて泰國の東方、東埔寨の國境附近に出陣してゐたが、落城を聞くや電光石火の如くアユチャに進撃し、新銳の兵を鼓舞して疲勞せる緬甸の大軍を撃破し、一舉にして首都を奪回した。

斯くて國內の秩序恢復に努め、一七六七年六月には、チャンタブンを占領して周圍の兵を糾合し、十月には五千の大兵を百隻の軍船に分乗せしめ、トンブリー(今の盤谷西岸地區)を奪回して緬甸軍を一掃し、新都を此地に奠めた。初め彼れは前王朝の遺族遺臣を優遇し、アユチャ王朝再興の意思を抱いてゐたが、自己の聲望が高まるにつれ、意を翻して自ら一七六八年王位に即きピヤ・タークと稱した。時に三十五歳。父は名もない地方の一守長に過ぎない支那人出身であると謂ふ。

ターク王は其の後一七七七年頃から病を得て精神に異狀を來たし、國內再び動亂の巷と化した。この機に乗じ一七八二年三月、ナイ・ブンナークなるもの反旗を翻へし、續いて討伐に向うたピヤ・サンカブリーも亦た、反亂を起し、

タクシンの
武功

現王朝の始
祖

首都の主要部を占領した。重臣チャックリーは會々東埔寨討伐に赴いたが四月、首都に凱旋し、ターク王を除き、ピヤ・サンカブリー其の他を誅し、國內を平定して、一七八二年六月十三日即位し、ソムデット・プラ・ポロマ・ラーチャー・プラプッタ・ヨート・ファーと稱した。これが現王朝の始祖でラマ第一世である。王は純粹の泰人でピヤ・タークとは血統上何等の關係がない。王居をトンブリーより對岸盤谷に遷した。

當時、緬甸は泰國征服の野望を抱き屢々入寇して干戈を交へ、一方東埔寨や馬來半島諸侯との紛争も絶えなかつたが、第一世は在位二十七年にして一八〇九年九月七日崩御し、その子プラ・プッタ・ロートラー嗣ぎ、ラマ第二世となるや緬甸軍を撃破し、東埔寨を屈服せしめ一八一八年には葡萄牙使節シルヴェラと通商條約を結び、更に一八二二年には英國東印度會社の使節と修交を結び英泰貿易を開く等、王朝の礎を固めた。

一八二四年七月、位を其の子に讓る。即ちソムデット・プラ・ナーング・クラオとしてのラマ第三世である。王は在位二十七年の間、諸外國に對し終始敬遠主義を採り、新興泰國の發展を多少阻害した感があつたが、時の大勢には抗し得ず、一八二六年六月、印度政府とケダ州その他に關する協約を結び、印度政府は泰領ケダ州に於て經濟的優越權を設定し、同時にケランタン及トレンガヌに於て、商業上貿易上何等の妨害禁止的事項を爲さざる事を約した。又一八三三年に北米合衆國はエドマンド・ロバートを、一八五〇年にバレストラーを派遣し條約締結に努めたが、時機尙早として使節は空しく歸國した。然るに堅忍不拔の精神を有する英國は一八五五年、時の香港總督ジョン・バウリングを派遣し、英泰修好及び通商條約締結に成功し、同年四月十八日調印せられ、翌一八五六年四月五日批准交換を完了した。翌年、佛・米・丁・荷・蘭・獨その他の諸國は各々此の英泰條約を基として通商條約を結び、泰國は遂に

對外條約

國際場裡に乘出すに至つた。

ラマ第三世は一八五一年四月崩御し、其の弟チャオファール・オング・ヤイ位を嗣ぎ、ラマ第四世モンクット王と稱した。王は幼時より久しく僧籍に在つたので佛典の造詣深く、英語に堪能であり且つ星學にも通じてゐた。進歩主義の明君であつたので一八五一年から一八六八年迄、在位僅に十七年に過ぎなかつたにも拘らず、歐洲人を雇傭して各方面の施設に改善を加へ、一八五七年八月には使節を英國に特派して英泰親善を緊密にし、其の他、内外の施政に意を用ひた。之より曩き、一八一四年以來、東埔寨は純然たる泰の附庸國であつたが、一八六三年更に正式の條約を以て此關係を明確にした。然るに、この條約締結數箇月前、東埔寨は佛國政府と東埔寨保護權承認の條約を結んでゐた爲、一八六七年巴里に於て泰國は佛國の一八六三年締結の泰東條約は無効たるべきことを承認した。由つて之と共に東埔寨に於ける佛國の保護權が確立された。一八六八年ラマ第四世死し其の子位を繼ぎ、ラマ第五世チュラロンコン皇帝と稱した。

四、英主チュラロンコンの治蹟

泰國が英佛勢力壓迫の中に在りてよく獨立の榮譽を保持し來り、今日の泰國家の基を築いたのは英主チュラロンコン皇帝の統治よろしきに據つたのである。

ラマ第五世の治蹟

帝は一八五三年九月二日盤谷に降誕、一八六八年十一月十一日戴冠し、ソムデット・プラパラメンドル・マハー・チュラロンコンと稱し國家多難の際、年僅に十六歳を以て王位に即いた。チャックリー第五代の皇帝なるが故にラ

マ第五世といふ。第五世は外よく英佛の壓迫に耐へ獨立の榮譽を維持し、内よく東西の文化を融和し以て國民の福祉を増進した。幼時より歐風の教育を受けしを以て、其の思想は益々進歩的であつて、名は東洋の專制國に君臨すると雖も、實は輿論に基ける立憲君主の倂があつた。第五世は熱心なる佛教徒にして、その民に臨むや慈悲忍辱主義を發揮し、第一世の時編纂したる東埔寨語文字佛教三藏經典を泰語文字にて印刷し、汎く之を頒布してその研究を獎勵した。一八九八年一月英人ベッピーが印度ビプラワコートに於て佛骨を發掘するや、印度政府は一部を泰國皇帝に寄贈した。第五世は日本が佛教隆盛の國と聞き我國に分骨寄贈を申越された。明治三十三年六月十一日、我が佛骨奉迎使大谷光演、日置黙仙、藤島了穩、前田誠節の一行が泰國に到着するや、第五世は國使に準じ、之に鄭重なる待遇を與へ、奉迎使等無事歸朝の後、佛骨奉安所たるべき名古屋覺王山日蓮寺の建築用材を寄附せられた。

奴隸廢止

第五世は一八七一年春、爪哇へ、又同年冬、英領印度を訪ひ、先づ東洋の大勢を視察し、一八八九年奴隸廢止の令を發布した。抑も奴隸制度たるや、泰國古代よりの因襲であつて、歴代諸王の之に對する斷案を下す能はざるものがあつたが、第五世の英斷は泰國史上特筆大書すべき一事件であり、これが爲めに北部老撾地方に一揆の發生を見るに至つたが幾許もなくして平定した。

紀元二世紀の頃、ラーオの一支族が、チェングマイを首都となし漸次勢力を得、その領土はソワンカローク以北、上泰の全部と西はサルペン河、東はメーコン河畔に達する地を保有してゐたが、不羈獨立の精神を缺き、緬甸の盛なるや之に服屬し、泰の勢力強大となるや亦た、之に従ひ、ソワンカローク、スコークタイ、アユチャ朝に至る數世紀の間屢々反しては征討せられたが、後年緬甸が英領となるに及んで、漸く泰に隸屬して純然たる泰の領土として政令を

布くに至つたのは第五世の時代である。

一八八七年六月廿六日の清佛條約は、東京トシキの北境をソンコイ河上流まで劃定した事で、其の以西は不定であつたが、英國は一八九三年六月、泰と條約を結び、泰にメーコン河左岸のチェンケンを與へて同岸のチェントンとチェンセンの一部を得た。但し此條約は公表されてゐない。英國は一八九六年清國の雲南・四川兩省に關して、佛國と條約を結ぶ機會を以てメーコン流域なる佛國の保護領安南と緬甸との間に、双方侵略する能はざる湄南流域大平原、即ち泰なる中立地帯を設くる原則を定めて一八九六年一月十五日其の宣言に調印した。是に於て泰國は暫く外患の憂なく、専ら内治の改善に努力することを得た。

ラマ第五世の外遊

一八九七年三月二十五日第五世は盤谷を出發、歐洲旅行を試み、親しく各國元首主權者を歴訪して優遇を受け、多くの新知識を齎らして満足の裡に同年十月歸盤された。其の後各方面の向上改革は著々として進行し、國內を分ちて郡縣の制を布き、國防は洋式を採用し財政を整理し、宮中府中の別を明らかにし其の他司法・教育・警察・土木・交通・産業の方面にも全力を注ぎ、多くの歐米人を雇傭して之が指導に當らしめ改善を企圖した。努力の效空しからず、佛國は一九〇七年三月、シエーム・ラプ及バットンボンの地を代償として、英國は馬來領土ケダ、ケランタン、トレンガヌ三州を代償として、何れも治外法權の撤回を爲すに至つた。

五、暹佛事件

一八八七年(明治二十年)の秋以來、泰は屢々佛國からメーコン河以東の土地割讓を要求せられた。その理由たる

安南軍の侵入

や、此地方は嘗て安南及び柬埔寨の所領であつて、兩國は既に佛國勢力の下に置かれたる上は該地方も亦佛領たらざるべからずと謂ふのである。泰は之に答へて、メーコン河流域地たるや王朝創設者が安南、柬埔寨人種を驅逐して以來、引續き領有してゐたものであると。斯く各々自説を主張して譲らなかつたが、一八九二年のコーラット鐵道布設の舉は佛國政治家を一層刺戟して、遂に其の翌年(明治二十六年)三月一日を以て佛國は權利行使に就き必要な行動を執ることを宣言し、茲に武力に訴ふるに至つた。同年四月初旬、安南軍はメーコン河畔コーング、サタング・トレンジの二地を占領し、六月三日にはカームモウンよりルアング・ブラバング一帯の下老糧地方を奪略した。此の時に泰は事件を國際仲裁に附せん事を提議したが佛國は之を肯んぜず、會々六月三日泰領キエング・チエックに於て佛國士官グロスグリンが殺され、佛國は之を以て犯人は泰人にて泰國の同地方守備隊長ブラヨートの使喚に因るものであるとなし、糾問する所があつた。泰政府は若し此の事實が確證せらるゝに於ては、賠償に躊躇せざる旨を明言したが、當時佛國は商議以外何物かを獲得せんとする折柄であつたから、佛國東洋艦隊は西貢に集中し、泰灣東海岸に沿ふ諸島を占領し、次で七月初旬には湄南河口の封鎖を實施した。

斯かる間に在盤佛國公使バビーと泰國外相デヴァウァングセ親王との間に幾多折衝を重ねたが、成案を得る能はず、時に七月十三日の夜、佛國砲艦アンコンスタン及コメットの二隻は突如、河口の要塞と砲火を交へ其の際、水先案内として佛艦の傭ふた商船ジャン・バチスト號は、砲彈に中りて將に沈没せんとした。之を見た泰の要塞兵は躍り出で、急にジャン・バチスト號に乗り移り物品を掠奪し、白象の國旗を其の檣上に掲げて船體を鹵獲した。既に夜も晩く彼我咫尺を辨ぜざるに至つたが、佛國の砲艦二隻が水先船を失ひ、加ふるに水陸の砲撃に會して痛く苦んだが、

佛艦二隻は水先船なくして盤谷に向つて進入し、砲門を開き之を脅かしつゝ溯航突進した。此の戦に佛國側は水兵三名を失ひ二名を傷け、泰國側は八名の死者と四十一名の負傷者を出した。斯くて佛艦は曩に盤谷に碇泊せる砲艦ルエタンと合した。七月廿日佛國は最後通牒を送り、今回の事件に就き（一）メーコン東岸に於ける安南及び東埔寨兩國の權利承認（二）償金三百萬法の支拂（三）事件惹起の泰國官吏の嚴刑、を以てした。政府は該事件を仲裁々判に附せんことを再言したが、佛國側は肯んぜず、七月廿七日佛國公使パビーは三隻の砲艦と共に盤谷を引揚げ、メーナム河口沖コー・シー・チャン島に退き湄南河口封鎖を宣言し、廿九日には東海岸の封鎖を實行した。この實力封鎖には泰國は如何ともする能はず、遺憾乍ら英國公使の忠言を容れ最後通牒を無條件にて承認し、メーコン河以東の地を佛領となし、メーコン河西岸二十五軒以内及びバッタンボン、シエムラープ地方には武装を施さざる事を約して落著した。以上が一八九三年十月十三日の暹佛事件顛末である。

佛國海軍の實力封鎖

暹佛事件の結果として泰に於ける佛國勢力の伸張は緬甸及び馬來領土を有する英國に鋭敏なる刺戟を與へ、遂に一八九六年一月十五日の英佛宣言及び一九〇四年四月八日調印の倫敦に於ける英佛宣言となり、泰に對する英佛兩國の政治上の地位を確定した。

六、ラマ第六世の治政

第五世は在位四十三年の長きに亙り、近代泰國家建設の事業を終へたるかの觀があつたが、一九一〇年十月二十三日、五十八歳にて歿し、其の子マハー・ワヂラウツド位を継ぎラマ第六世と稱した。

第六世は英國にて教育を受けし爲、兎角親英政策に傾き勝であつたが、藝術的才能に恵まれ、自ら筆を執つて小説や翻譯を試みる程で、文藝を保護する念が深かつた。世界大戰には聯合國の一員として參戦し、能くその義務を完了し幾多の功績を擧げた。

皇族御差遣

第六世の即位戴冠式は明治四十四年（一九一一年）十二月舉行され、各國元首の代表者參列し泰國空前の盛儀であつた。我が皇室よりは伏見宮博恭王殿下、軍艦伊吹、淀を從へ參列せられ、歐米各國からも、皇族や大使を特派して此の盛典を祝福した。第六世は意を専ら内政の改革整理に努め、豫て惡税の非難高かつた賭博や富籤の兩税を廢止し、地租を整理し、湄南河灌漑の大工事に着手して米作増進を圖り、更に曆の改正、海軍協會の設立、國民教育の改善、公衆衛生の施設など見るべきもの頗る多く、一九一八年七月一日、盤谷、プライ（彼南の對岸）間の國際直通列車の開通を見るに及び泰の文化は著しく進展した。一九一九年に新入頭税法を公布し、一九二一年九月には暹米通商航海條約を締結し完全に治外法權を撤廢した。續いて十月一日には小學校令を公布して強制就學主義に據る義務教育の普及に努め、一九二二年一月には半島直通線を、九月には北方線を改良し、更に財政委員會を設置して一國財政の運用に資した。十月には極東赤十字協會總會を盤谷に開催し、次で翌年には盤谷郊外に癩病療養院を設け、肺結核豫防事業を開始し、更に公衆病院を設け、十二月にはウドン・ノンカイ間の飛行郵便を開始した。

條約法典の改正制定

斯くて第六世の治績は内外施設の萬般に亙り、一九二四年には日暹通商航海條約を始め各種法典の改正又は制定となり、日・米・蘭その他、各國飛行機の來訪等内外共に多端となつた。第六世亦親しく海峽植民地や馬來半島を視察し、將來の治世上に多くの期待を有せられたが、一九二五年十一月二十六日、在位十五年にして歿した。

七、新舊對立時代

一九二五年十一月、ラマ第六世の弟プラチャ・デイボック即位してラマ第七世と稱した。十六歳の時、英國に學び、同國の陸軍士官學校を卒へ、更に佛國陸軍大學を卒業した。泰人で陸軍大學を卒へしは第七世を以て嚆矢とする。即位の初、財政を整理し、進んで皇室費を半減し、綱紀の肅正に意を用ひ、多數傭外人を淘汰整理する等治績大に擧つたので民心は第七世の徳政に信頼する所があつた。

歐洲教育に人となつた第七世の思想は、決して封建的のものではなく、國民に参政權を與へざるべからずとの高邁なる理想の下に、私かに外國憲法を究め、欽定憲法の起草に著手しつゝ、一方樞密院委員會を改革して重要法案の諮問機關とし、更に國家最高政策決定機關として新たに最高諮議院を創設した。併し、この最高諮議院の顧問官は、最高級の皇族四名乃至六名を以て定員となし、内閣諸大臣も九名中六名まで皇族であるといふ實情なりし爲め、形式は君主專制でも實際は皇族專制に近く、其の上、重要官吏の登用などに情實の措置が甚だ多く、豫てから皇族專横に不満を抱いてゐた文武少壯官吏の反感は、次第に醗酵され、革新要望の熱はいやが上にも昂められて往つた。時に皇族中の首席で陸海軍の元帥であり更に内務大臣の要職を占め、最高諮議院顧問官の筆頭である皇異母兄ナコンソワン親王が保守派の代表者と目されてゐた爲め革新を要望せる一派は斷乎、直接行動に依つて守舊思想の皇族を排除し、皇帝に強請して立憲政治を布くべしとの改革意見を抱懷する徒輩が漸く擡頭し、遂に保守派と革新派との對立を激化し、風雲急を告ぐるに至つた。

革命の原因

八、革命と立憲政體

歐洲大戰後世界を襲つた經濟界の不況は、遂に泰國をも席捲し、泰國唯一の重要物産である米は之が爲め、輸出不振、米價低落の慘狀を呈し、政府の歳入缺陷と國民生活の不安とは、國を擧げて脅威の渦中に投ぜられた。この結果、事業の中止、政費の節約、官吏の罷免、新稅増稅等、國民に取りては悲觀と不満ばかりで、皇族政治に對する鬱積した反感は之がため今にも爆發せんとする形勢となつた。

一九三二年四月六日の紀元節に當り、恰も現王朝建設滿百五十年祝典が、首都盤谷に於て舉行され、二百萬^{バィツ}の巨資を投じて盤谷と其の對岸トンブリーとを結ぶ湄南河の架橋ラマ第一世紀念橋は此の日に開通式を行ふた。

國民革命

然るに三箇月後即ち一九三二年(昭和七年)六月二十四日の拂曉、立憲政治を要望する國民革命は遂に爆發した。陸軍大佐ピヤ・パホン以下、陸海軍の少壯將校を主體とし、之に司法部その他の青年文官の一派と、二十年前に革命を起した殘黨とが合流して、新たに人民黨を組織し遂に蹶起した。

彼等の行動は頗る敏活に行はれ、夜半から行動に著手し、未明には皇族を拉致拘禁したのであるが、先づ近衛師團長ピヤ・セナ・ソクラーム少將を強要して、陸海軍部の各長官竝に各團隊長等を急遽召集せしめ、行動参加を要請した。而して他の部將の承諾を得たが、容易に應じなかつたセナ少將を、革命の血祭に射撃して負傷せしめた。未明警視總監にも蹶起の主旨と新政府の設立を通告し、次で内務大臣ナコンソワン親王の邸宅を包圍した。茲で彼我銃火を交へたが、負傷者を出さず、親王は革命軍の手に捕へられ、アナンダ・サマコン宮殿に監禁され、續いて各皇族や

警視總監も亦た逮捕監禁された。急報に接するや皇帝の異母兄カムペンベツト親王は武部長官を伴つて停車場に駆けつけ一路南に急行すること六時間、ホアヒン離宮に参内し急變を皇帝に報告した。折柄、皇帝は泰國に臨む離宮に暑を避けつゝ、聽ては立憲政治を布くべき欽定憲法の草案作成に餘念が無かつた。皇帝のこの草案が今少し早いか、若くはこの主旨が國民一般に布告されてゐたならば、或は革命も起らなかつたであらう。それは兎も角、瞬時にして首都の實権は革命派に掌握され、新政府の樹立を宣言すると共に、皇帝に宛てて公式要請文を送達した。

新政府の樹立

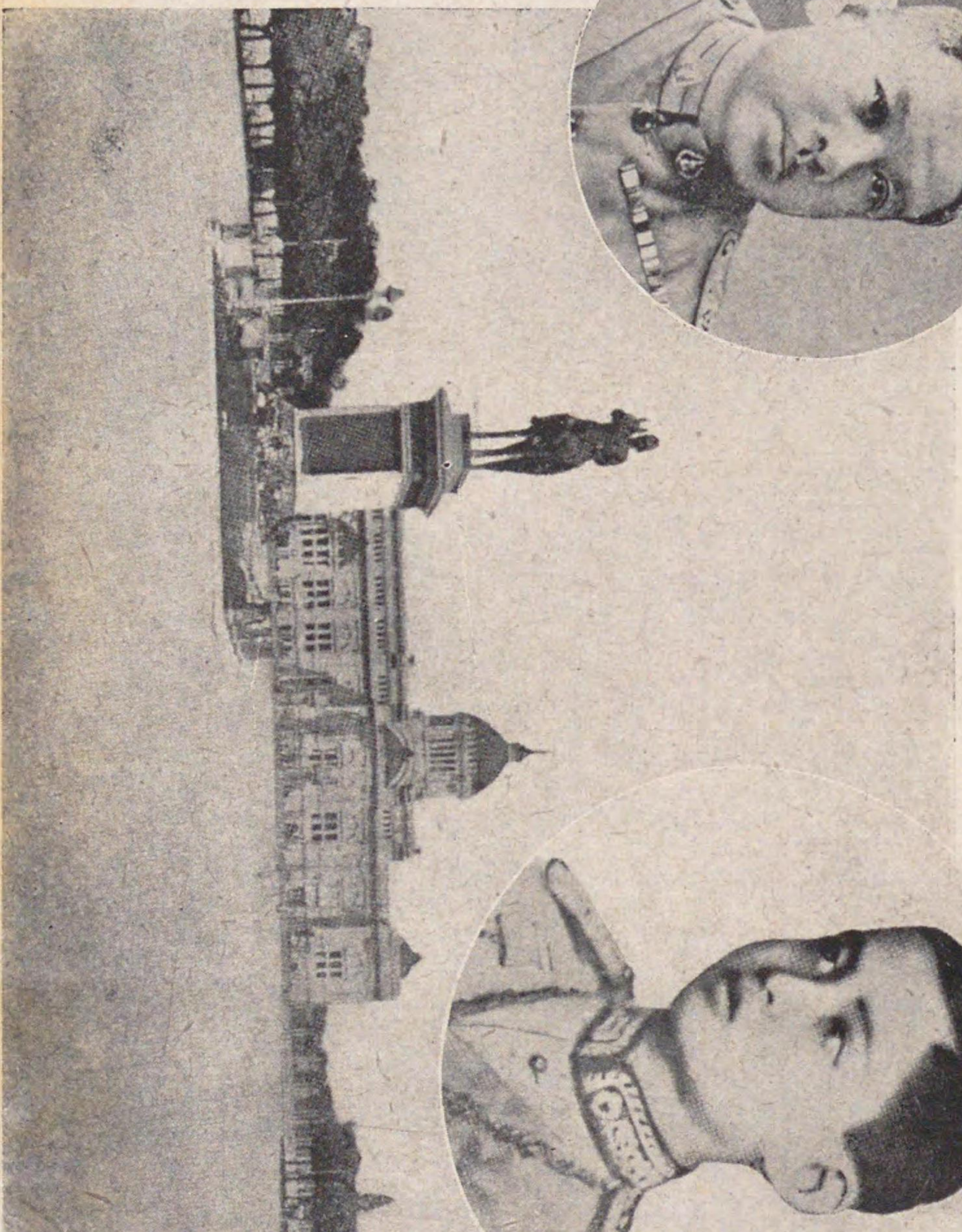
革命派の要請文主意は王位に觸れず、唯だ政體の變革のみであつたから、皇帝は右の要請を容れて、その夜半、皇后と共に盤谷に還幸、二十七日、人民黨提出の臨時憲法草案に署名發布せられたので、政體變革の大業も、僅か四日にして立憲君主政體樹立の目的を達し、この間唯だ近衛師團長が狙撃され輕傷を負ふたに過ぎず一個の人命も損傷せず、平穩裡に落著した。

九、新興泰國の建設

臨時憲法に據る人民代表議會及び人民委員會は一九三二年（昭和七年）六月二十八日成立し、二十九日には人民委員會の推薦に依る各省大臣の任命を見、新立憲政府の陣容整備を終へたが、新大臣には前任者一名もなく、皇族も全く除外され、内務大臣を除く外、凡て人民代表議會議員が閣僚となり、新政府は直に革新建設的施設を開始した。議會は毎週三回開催され、税則の改廢や官廳の廢合を斷行し、一方憲法と相容れない最高諮議院や、各種の委員會を悉く廢止し、皇族を斥け、且つ陸海軍を改編して大部分の將官を罷免した爲め物情騒然たるものがあつた。加之、國



王子・バン・ポン首相



(宮 離 ト ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ 舊) 堂 事 議 會 國 泰



王子八世アナンガ・アヒポン陛下

るなと堂事議會國後以制主君憲立、がたて充に館旅の賓國し工竣初正大
姿英の馬乗御下陸帝皇ソルコロラエチは像銅

欽定憲法の
發布

民生活と最も密接の關係ある、經濟と教育方面の施設は必ずしも外間の期待した如く迅速に進捗せず、國民の失望の色漸く現はれんとしたが、同年十二月十日現行欽定憲法の發布を見るに至つて國內漸く安堵し、歡呼祝賀の氣分は全國に横溢した。

新内閣の成
立

欽定憲法發布と同時に、皇帝は總理以下廿名の國務參議（後に大臣と改稱した）を任命し、新憲法に據る新内閣組織を命ぜられた。一九三三年一月、人民黨に對抗する右傾の國民黨組織の問題や、新經濟政策に對し、政府部内に意見の對立を生じ、政局の裏面に暗雲低迷して政情甚だ穩かならざるものがあつた。果せる哉、同年四月一日政府は非常手段に訴へて憲法の一部を停止すると共に、議會を閉鎖し、國務院を改造し、部内の急進分子を淘汰すると共に、嘗ては革命軍の司令であつたピヤ・パホン大佐外四名の幹部も亦た革命一周年記念日たる六月二十四日限り引退する旨發表され、内訌は日増しに白熱化した。然るに六月十九日の夜、陸海軍一派の驟起と共に、ピヤ・パホン大佐も衆に推されて再起した爲め反對黨は忽ち倒され、ピヤ・パホン大佐を總理とする新内閣はこゝに成立し、八十餘日間閉鎖されてゐた人民代表議會は二十二日漸く再開を見るに至つた。

其の後十日、元陸軍大臣であつた皇從兄モムチャオ・ポトワラデッチ大公を首腦とする叛亂が勃發し、首都の郊外ドーン・ムアング陸軍飛行場を占領して盤谷に迫り、一時首都は危殆に陥つたが、政府軍の勝利に歸し、ポトワラデッチ大公は佛領西貢に亡命した。政府は叛軍鎮定と共に民選議員の選舉を行ひ、一九三三年十二月十日ソワン・ドシット舊離宮に於て、皇帝臨御の下に第一回の人民代表議會を開會し、政府は憲法遵奉の意を明かにし、且つ新國家建設の大綱を宣明した。その翌年三月、皇帝は眼疾治療の傍ら歐羅巴諸國を巡遊、一九三五年三月二日、皇帝はピヤ・パ

ホン内閣と意見の疎隔を生じて退位、皇甥アナンダ・マヒドーン登位し、ラマ第八世となつた。
 幼帝は現在、母后と共に瑞西ローザンヌに留學中であるが、幼少である爲め、攝政府が設けられ、陸軍大佐アヌワット・チャート・センタ親王首座となり、海軍大佐アチット・テイパー・アーパー大公竝に重臣チャオピヤ・ヨマラートが攝政府の議員に任命された。攝政首座アヌワット親王は昭和十年八月十三日薨去、次席アチット大公が首座に昇格し、陸軍大將チャオピヤ・ビーチャーエンが攝政の一人に補缺就任した。然るに昭和十三年十二月三十日、チャピヤ・ヨマラート攝政は死去して缺員の儘となつてゐる。

斯くして新興泰の内政は著々改善せられ、財政の基礎亦た鞏固で未だ嘗て赤字を出した事なく、滿洲國問題に關する國際聯盟總會に於ては、斷乎棄權して反對の意思を表明した。此の一事は泰が亞細亞の獨立國家である重要地位を自覺し、且つ躍進日本の現實を最も公正に認識したことを裏書したものである。蓋し此の意義ある棄權を一新紀元として、泰國民は亞細亞に於ける民族精神を喚起しつゝある。

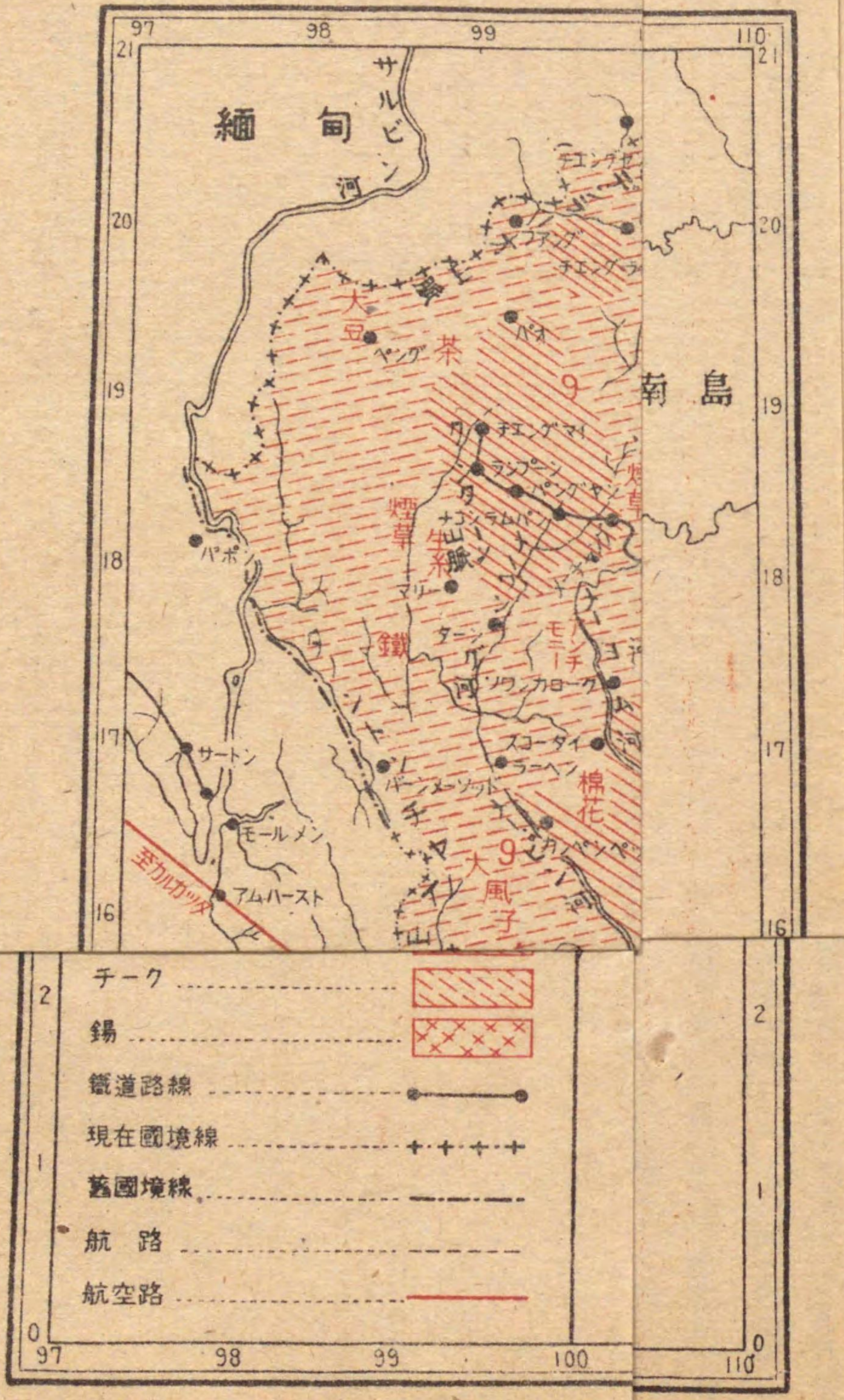
この自主的民族意識は、遂に昭和十四年六月二十四日政體變更七周年記念を以て從來のサヤームは、從屬の意味なる故、之を廢シタイ(自由)國と改稱し、中外に宣明するに至らしめた。尙ほ昭和十四年九月二十三日付新國名タイを漢字にて表す場合は「泰」なる文字を使用する旨、我が外務省の告示があつた。

第二節 地誌

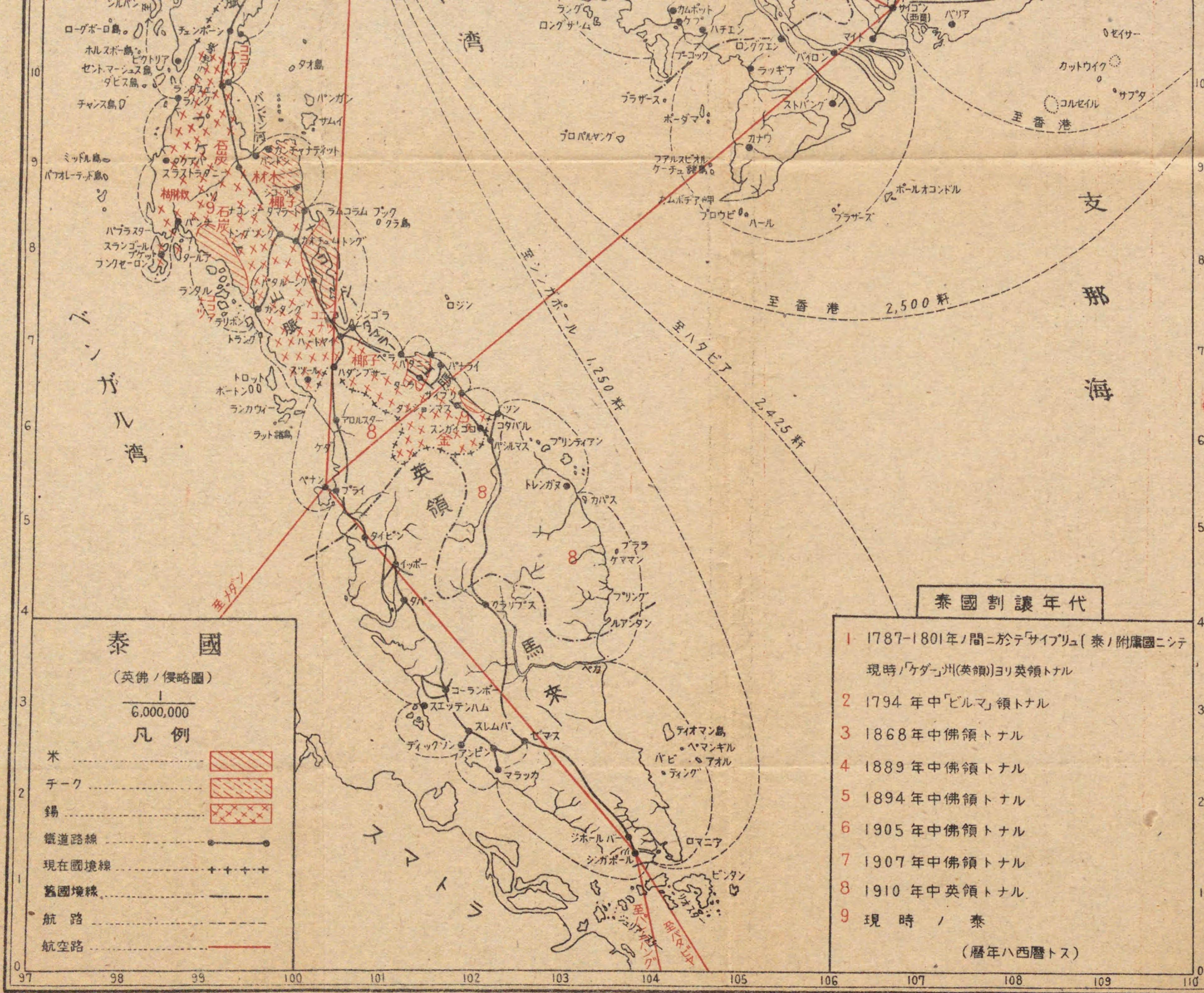
地誌

亞細亞大陸の南方、四圍悉く白哲人種の植民地或は其の保護國の間に介在し、儼然と獨立の名譽を保持しつゝある

行政







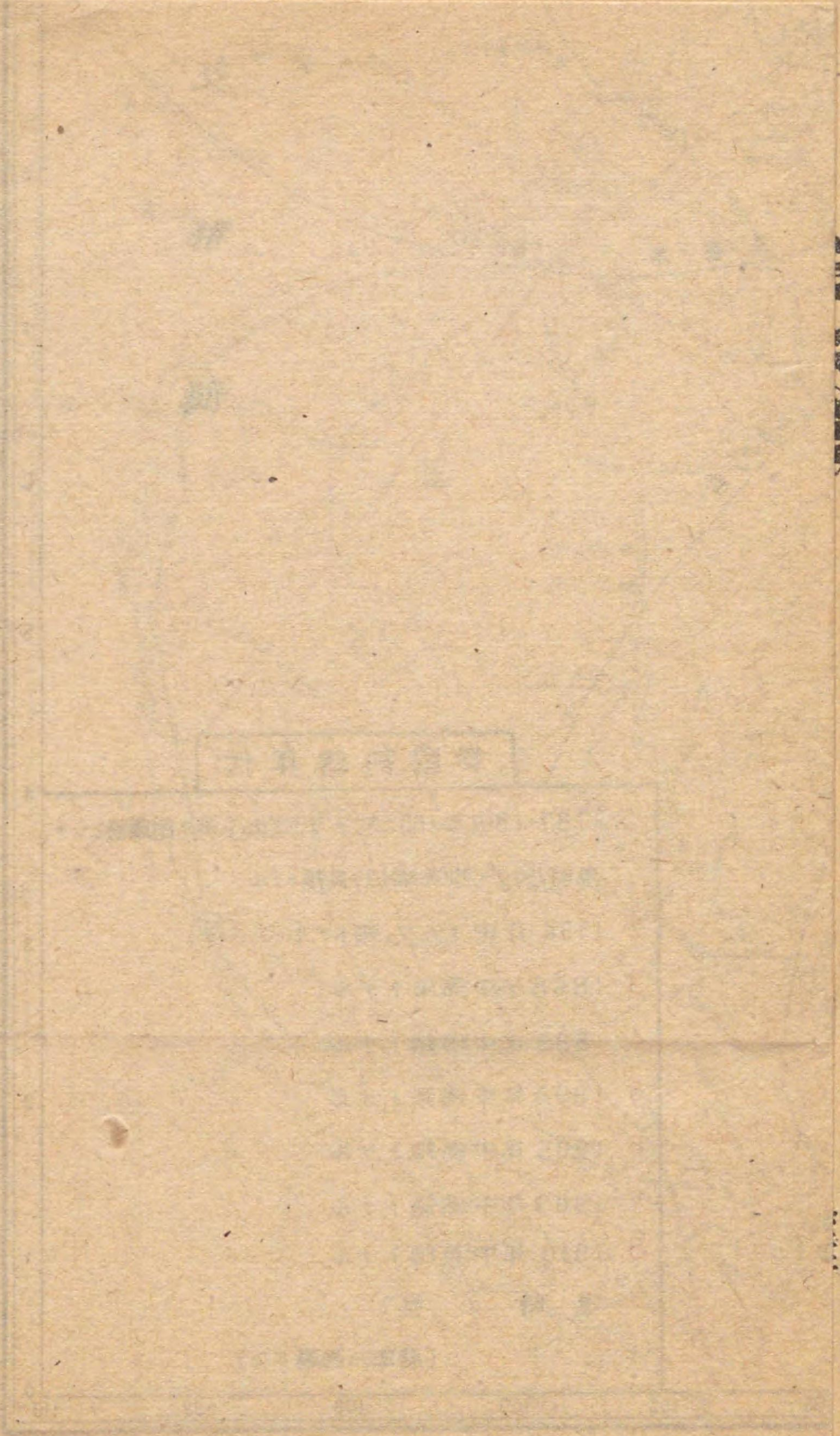
泰國と改稱

この自主的民族意識は、遂に昭和十四年六月二十四日政體變更七周年記念を以て從來のサヤームは、從屬の意味なる故、之を廢シタイ(自由)國と改稱し、中外に宣明するに至らしめた。尙ほ昭和十四年九月二十三日付新國名タイを漢字にて表はす場合は「泰」なる文字を使用する旨、我が外務省の告示があつた。

第二節 地誌

地誌

亞細亞大陸の南方、四圍悉く自哲人種の植民地或は其の保護國の間に介在し、儼然と獨立の名譽を保持しつゝある



立憲君主國泰（舊名暹羅）は後印度半島の中央を占め、東は佛領老撾^{ラオス}及び東埔寨^{カンボヂヤ}に接し、北は佛領老撾及び英領上緬甸^{シヤン・ステーツ}に接し、西は下緬甸に隣し、西南は下緬甸に平行して馬來半島に南下し、且つ東は支那海に面し、西はベンガル灣に臨み英領馬來諸州に達し、深く泰灣を抱擁して、北緯五度三分乃至二〇度一五分、東經九七度三分乃至一〇五度四六分の間に蟠居する國である。南北の長さ約一、六五〇^リ、東西の幅員は最廣部に於て約七七〇^リ、總面積五一八、一六二平方^リに於て我が國面積の七六・七五%に當る。

地勢上、之を五大部に區劃する。(一) 中部(メーナムの本支流バンパコン及メクロン河の流域にて泰米の産地)。(二) 北部(ラオス高原、即ち海拔二百乃至三百米の山嶽地帯にてチーク林を以て著名なる地方)。(三) 東北部(コイラット大高原にてメーナム河谷の東北に位し海拔二百米の高地で原始林に被はれる)。(四) 東南部(坦々たる千里の沖積層大平原にて南は泰灣に面し佛領境に近き寶石の産地)。(五) 西南部(所謂半島地方にて錫鑛に富む)となつてゐる。

行政區劃としての州は現在廢止されてゐるが、地域概念を明示するため州別となし、各州別面積及び人口の數字を表せば左の如くである。

州別面積及び人口 (一九三七年國勢調査)

地 方	面 積	人 口
—— 本土のみにて島嶼は含まず ——	平方 ^リ	人
クルング・テープ	二、八一五	一、二三七、七一

中部	アユチャ ラチャブリー ピサヌローク	一五、五六六 四五、九二五 八二、八七八	一、〇一六、一一四 一、二九七、五九五 一、四五七、八八九
北部	バーヤップ	九一、一〇九	一、九一七、五四八
東北部	ナコン、ラーチャシーマー ウドーン	九八、二〇六 六八、六九一	三、一六一、五五一 一、四二六、八六五
東南部	ブラチン	三六、八二八	八〇四、二一二
西南部	ナコン・シータマラート ブケット	五四、五〇七 一六、九二二	一、二四、四〇五 一、二二〇、二一五
全國十州	計	五一三、四四七	一四、四六四、一〇五

- 一、人口密度——一平方軒に付二八人（一九三七年現在）（備考）日本は一八四人
- 二、泰國では昔十四州に分れてゐたが、一九三三年、州の廢合を行ひ十州行政区劃に改め、現在は州の行政を廢止し五九（ブケット）縣に分轉し、縣を更に四〇六（アム、アム、アム、アム）郡及び五九（アム、アム、アム、アム）小郡に細分してゐる。
- 三、泰國衛生局發表によれば一九三八年推定人口は一五、三五三、〇〇〇人で一平方軒當り三〇人弱となり、前年に比し八八九、〇〇〇人増加してゐる。

山系

山系 北部、西部及び南部に於ける山脈は大體南北に縦走し、平地より山岳に移る傾斜が著しく急峻なることが特徴である。メーコン及びサルビン兩河の間に介在する北部國境上にデーイン・ラーオ山脈があり、南岐して數條の山脈となる。北部の中央を南走してメー・ワン及びメー・ピン兩河の分水嶺をなすクン・ターン山脈、その東方に聳立す

る峻嶺をビー・パン・ナムと稱し、更に其の東方國境上に屏立する山脈をルアング・ブラバングと呼ぶ。北部諸峰の平均標高は一、六〇〇米、チェングマイ市は海拔三百米、チェンラーイ市は海拔三七八米の高地にある。北部諸山脈は南境で切斷されてゐるが、西側に南出したタノン・トンチャイ山脈は緬甸との國境上を長驅南走してブケット島に至る。北緯一五—一六度以南はテナッセルム山脈と稱し、北緯十度以南はブケット山脈と呼ぶ。中部の東北隅にはベチャブーン山脈が聳立し、其の東方は南走してドン・ピヤ・エンの平頂山脈となり、アユチャ東方にて東折してサン・カムペン山脈となりて東甫寨との國境上を東走しドン・レクと呼ぶ。

原野・河川

原野・河川 渺茫たる大平原を擁するは、泰國の特徴である。北部は山岳重疊して河岸に聳立し、メー・ピン河畔のチェングマイ平野、メー・ナン流域のムアング・ナン平野、メー・ワン河畔のナコン・ラムパーン平野等、河流に沿ふ沖積層平野、メー・ナム・イン及メーナム・コック流域の沼澤その他が存するも、總て狭小であるが、中南部には泰國の胴體を形成する中部大平原（メー・ナム平野）を始め、東西隅にはチャクタブリー平野、半島にはメーナム・バンドンの注ぐバンドン平野、ナコン・シータマラート山脈東側のタレー・サップ内海に臨む沿岸平野、半島の南に連つて國境に到るパタニー沿岸平野等、數多の肥沃なる沖積層平野があり、東北部はコーラット大平原より成る。概してメー・ナム河畔の土地は高く、河に挾まれたる中央の土地は低濕で水利最も良く、雨期には河水が平野に氾濫して高地より流下し來れる多量の肥料土を沈積するため、土地肥沃となり泰國生産力の中樞を成すに至つた。コーラット高原は東部全體を占め東南に傾斜し西部及び北部は海拔一三〇—二〇米であるが、一般に乾燥し、雨期には氾濫するが一旦乾期に入れば水溜を見ない。

航行河川

北部國境附近を水源とする四條の河流は北部山脈中を縫ひ並行南流してゐる。即ちメー・ピン、メー・ワン、メー・ナン、メー・ヨムであつて、パクナムポーに至りメー・ピン合してメー・ナム(チャオピヤ)となり、更に南流して盤谷を縦貫しタイ灣に流入する。メー・ヨム及メー・ナンは水流緩く水深く、水量の増減も一定してゐるから大吃水の艀船も遡江可能で、雨季増水の時は大クナムポーの上流百九十軒まで大吃水汽船の航行可能である。盤谷以南は千五百噸以下の航洋汽船が自由に航行し得られ、河口より約八十軒迄は潮水の影響を受ける。尙ほ右の外、西方山岳より發するメー・パサクは、アヌチャ附近にてメー・ロップリーと合流する。メー・バンパコンは北緯十三度の東南塞國境附近より發し、初めは北流し、次で北緯十四度附近より西流し、最後に西南に流れて泰灣東北隅に注ぐ。その延長一九〇餘軒、別に上流をメー・サケーオ、中流をメー・パチンと稱してゐる。

メー・ナム(チャオピヤ)、バンパコン、メークロンの三河及び其の支流は數多の運河に依り連絡され、大水路網を成してゐる。

メー・バンドン即ちメー・コンカは南部(半島)唯一の大河で、バンドン灣に注ぎ河口より八十軒迄は小型船舶の航行に適する。印度洋に注ぐ河川には緬甸との最南部國境を成し、クラ地峽附近を流るゝメー・クラ別名メー・パークチャント、半島鐵道の支線カンタン線の終點附近に注ぐメー・トランの外に主要なるものを見ない。

泰人の所謂、メーナム・コーング(涓公)は北部國境の一部及び東北部國境の大部分(延長一、三〇〇軒餘、河幅七〇〇—一、三〇〇米)をなし、コーラット高原の殆ど全地を灌溉するナム・ムーンと北緯十五度餘の國境上で合流してゐる。

湖沼

湖沼は甚だ少く、僅に東北隅のノーン・ハーンあるのみで、これとても琵琶湖の四分の一に過ぎず、何等經濟價値なき一沼澤過ぎなき。

海岸線及び島嶼 海岸線は僅に二千百軒に過ぎない、半島の西岸は屈曲に富むも、泰灣岸は甚だ之に乏しく、従つて海運上の價値が尠ない。半島東岸にチュンポーン、バンドン、ソングラー、パタニーがあり、周圍八百九十軒のタレー・サップ内海を見るが、景勝と漁場價値とを除けばいふに足らず、即ち淺瀬と突風に妨げられて航洋汽船を入れるに足らず、従つて貿易港としては灣頭に不便な淺瀬を有する盤谷港があるのみである。

半島西岸は島嶼に富み就中、プケット島(別名チャーラン、泰人はターランと呼ぶ)は長さ四十八軒、幅二十軒、面積約六百平方軒を有するが泰領最大の島で錫鑛業の中心地である。泰灣岸は島嶼極めて稀でバンドン灣沖合のコー・サムイ(二百五十五平方軒)、泰灣東岸のコー・チャン(百八十平方軒)の他に島嶼らしきものなく、唯メー・ナム(チャオピヤ)河口東南沖四十五軒のコー・シーチャン群島は盤谷港の外港として役立つてゐる。

氣候 地勢上、北緯七度以北の部分に於ては自ら乾雨の二季節(乾季自十一月至四月、雨季自五月至十月)に分れる。之が爲に晚稻・雜穀・甘蔗の收穫が都合よく行はれ棉花等の品質も佳良である。乾季でも多少の灌溉を施せば如何なる作物にも適し、其の灌溉費も決して高價ではない。メーナム河谷の灌溉は最も容易でラオス高原の峽谷でもコーラット高原でも多大の費用を要しない。

暑熱は四、五の兩月が最も酷烈で、盤谷に於ける兩月の平均温度は攝氏二九度八分、最高平均温度は三四度餘であるが、此期間と雖も常に微風が吹き、且つ空氣が乾燥してゐるから暑熱を感ずることは尠い。屋外でも正午前後に

二、三時間の休憩を爲さば邦人でも充分、勞務に堪へ得る。温度の最も低い一月には盤谷で攝氏十九度内外の低温を見ることもあるが、晝夜温度の差が大きく、夜間は充分晝間の疲勞を恢復することが出来る。

雨量は土地により著しい差違があり、馬來半島は最も多く、其の西海岸ブケット地方には一箇年二、九〇〇耗、南岸のチャントブリー地方では二、七〇〇耗、メーナム谿谷では僅に一、一〇〇—一、五〇〇耗で、朝鮮中部より多く臺灣（臺南地方）よりも尠い。泰國は全く暴風を知らず、洪水も稀有で且つ急激性でないから損害は極めて輕少であり、殊に爪哇スマトラで見る如き地震の絶無なるは此の國の誇りで天恵至大なる土地である。

鑛産

鑛物

- (一) 砂金 各河川の砂中に發見せられ、東南部地方の土民が簡單なる方法を以て之を洗滌するを見る。組織的方法を用ひて採集するにしても收支償はぬらしい。
- (二) 銀 方鉛鑛として各地に産し、以前は採集されたこともあるも現在は採鑛事業なし。
- (三) 錫 馬來半島中、泰領よりも英領に於て多量に産するが、泰領からも年額八、九千噸の産額がある。
- (四) 銅 北部ナン附近のナムワ谿谷及びラコン地方に産す。又東北部ドン・ピヤ・エン山のチャントクも有名である。鑛石には豊富の銅を含んでゐる。
- (五) 鉛 鉛鑛脈は各地に散在し國內の需要を充たすに至りたるも、輸送上困難の爲め今日は漸次衰退に傾きつつある。
- (六) タングステン ウルフラム及シュライトの形にて半島地方より採鑛され歐洲大戰當時は異常の發展を見た

が、其の後市價暴落と共に顧みられない。

(七) 亜鉛及びアンチモニー 北部に發見せられ、特にアンチモニーの産出は多いが、兩者共企業として採掘を開始したものはない。

(八) 鐵 黄鐵鑛として相當廣大なる區域に埋藏され、赤鐵鑛としてはメーナム・コーング河畔のチェングワンに産し、褐鐵鑛としてはピチャイの東北メー・ピン河の谿谷及び北部ナコン・ランパン地方に發見される。黄鐵鑛の立方結晶を土民が黄金と誤り、屢々盲目企業家をして滑稽を演ぜしめることがあると云ふ。赤鐵鑛の埋藏量は相當多量なるも、未だ採鑛企業の開始されたるを聞かない。

(九) 寶石 カンボヂヤ半島、チャントブン縣の佛領に近い地方に多く所謂チャントブン寶石と稱する中等品以下のルビー、サファイヤ等を産してゐる。

(一〇) 石油 北方ビルマ國境に近きムアング・ファンに於て、特に米人技師を招き高價なる機械を購入し數年に互り試験したこともあるが、良結果を得るに至らず中止した。

以上の如く鑛物資源が各所に埋藏され特に銅鐵に對し邦人の注意を喚起したが、未だ各種の事情から開發を爲し得ぬ現状である。

石油

植物 泰國に存在する植物は地質・氣温・湿度等の關係で著しく變化に富み、且つ甚だ豊富多種である。開花植物のみでも一萬種に近い。植物中、顯著なるは蘭科・荳科・茜草科・大戟科・禾本科・莎草科・爵床科・蕃荔枝科、野牡丹科、恐らく三〇種以上を含むと云はれてゐる。北緯一〇—一一度以南の植物群は馬來植物群と同様であるが、

右以北は印度支那半島の大部を占める同型植物群の一部と認められる。併しながら、今日指名された植物の一九一二〇%は國外に其の記録を見ない。

森林樹木

森林には大凡そ左記の種類が林野に繁茂してゐる。

(一) 常緑林 全林野の三分の一を占め、更に細別すれば熱帯常緑林・山岳常緑林・松柏科林・沿岸林である。

熱帯常緑林 半島中軸山脈斜面の低部及び平原、東南部の沿岸及び山嶺の高部を除く全森林を占めてゐる。特徴として通常三〇—六〇米(枝下高のみにても一八—二八米)に達する巨大なる常緑樹が聳立し、屢々龍大なる纏繞植物及び攀緣植物に圍繞されてゐる。根元には小木・棕櫚・蘇鐵・籐・竹等が混生してゐる。

山岳常緑林 此種の森林は全國に互り標高九百米以上の山嶽に見受けられ、通常足を踏入れ難い密林を爲してゐる。

松柏科林 北部及び中部全般に互り通常六百米—千五百米の高地に生育し松科に屬す。

沿岸林 所謂マングローブ林にて沿海低地の鹹水泥澤に生じ、其の中最も重要なものは漂木科に屬する樹種(三〇種以上)にして、之を總括的にマングローブ(又は紅樹)と云ふ。本種林は半島西岸五百軒に互りて散在し、總面積七十五萬畝(一畝—一段六畝四歩)に達してゐる。本林所在地住民の五—一〇%は此沿岸林によりて生計を立てゝゐる。

(二) 落葉林 落葉林は北部・中部・東部の殆んど全林を占め半島の北部迄も蔓延してゐる。秋及び冬の冷期と春及び夏の過度の暑期には落葉する。チーク林・乾燥林・ラテライト林は此の種に屬す。

乾燥落葉林 (1)北部にては此の種の森林は林地の過半に互り赤林とも俗稱してゐる。通常樹高二五—二八米、樹周二・五米をなす。(2)西南部にては平原及び丘陵に蔓延し、柱材として首都に輸出してゐる。(3)東部の森林地帯の約三分の二を被覆してゐる。本地方の落葉林も年々山火事に襲はれる。(4)中部にては樹高六〇乃至八〇米に互りラチャブリー及ナコン・チャイシー兩州にも多少之を見る。諸種の落葉樹は根元に竹を密生しチークの小群と共に混生してゐる。

第三節 政府の對華僑政策

華僑

泰國に於ける華僑數は一九三四年に南京僑務委員會が發表した算定に據ると二百五十萬と稱せられたが其の後、政府の入國税引上げ其の他の抑壓政策に因り頓に激減し、一九三七年の國勢調査に據れば在泰支那人數は五二四、〇六二人となつてゐる。然しこれには泰國生れの華僑數は計算に入れてない。その多くは潮州(汕頭)、福建、廣東、客家、海南島からの出稼人である。華僑は十五世紀末には多數アユチャに居住してゐた。十七世紀の頃、葡・蘭・英人と商權を争ひ、十九世紀に入りて白人より商權を奪回し現今の如き牢固として抜くべからざる國內商權を確立するに至つた。その理由は、(一)泰人は本來偉大なる寛容性を持ち、人種的偏見なく、外來民族文化に接觸し且つ之を同化し得たること。(二)華僑は政治的壓迫や經濟的壓迫により郷國より驅逐され、往時は亡命漢人や、商企業を目的とする文化の高い移民が安住の地を求めて渡來したもので、無條約國人にて政治的野心なく泰婦人と雜婚して漸次同化せるため泰國民より歡迎されたること。(三)彼等は經濟的發展のみならず、政治的分野にも自由に驥足を伸ばし、貿易に優

勢を占め、官吏に登庸されて國政に參畫し、充分に其の優秀なる素質を發揮する機會が與へられた爲である。

斯かる絶好條件と營利に敏なる特性とは、華僑をして常に國內商權を壟斷せしめたのみでなく、泰國重要産業たる精米業並に中小工業をも獨占し、錫鑛業や製材業にも英國に亞ぐ勢力があり、金融殊に庶民金融に大勢力を有し、地主となり、航海業者となり、工匠となり、鹹水漁業を獨占し、護謨その他大農園の大部分を有し、泰國經濟に熟練勞働者を提供してゐる。首都を訪づれる旅行者は「泰國の盤谷」か、「華僑の盤谷か」と戸惑ひする位で、如何なる僻陬のでも商店は華僑が經營し、輸出額の六割を占める米の利益も粃の買付から輸出まで總て華僑が之に當り、其の利益を吸取し、本國への送金額も數年前迄、年平均一千五百萬より二千萬銖に上ると推算された。從來、華僑は殆んど泰婦人と雜婚し泰國に安住の地を求め同化の傾向を辿りつゝあつたが、廣東政府や國民政府が盛んに華僑の國民的自覺を鼓吹するに至つたので、漸く祖國の觀念が覺醒され、加之、婦女の入國者が激増して純支那人の子女を生み、全國に華僑學校を建設して本國の教科書及び教師に依り純支那式教育を施すに至つた。近來の入國華僑は殆ど全部デッキ・パッサンヂヤーにして、無智で危險思想に感染せるものが多く、是等は泰國政府の國民的待遇に甘んぜず、國民政府に要請して支・泰條約を締結して本國政府により華僑の地位保全を要望するに至つた。一九三三年、國會議員の選舉が普選となつたので、經濟的生命を握り社會の中堅層を占める有力なる華僑を背景とする泰國生れの歸化華僑は、唯だ簡單なる資格制限があるだけで、選舉權及び被選舉權を有する様になつたから泰國に於ける華僑問題は重大性を帯ぶるに至つた。

支那事變により是等華僑は本國政府の庇護を期待し得なくなつた爲め、各種の同業組合を作り中華總商會が之を統

支泰條約

一し、中華商會を設けて國民政府と連絡を保ち、泰國政府に對立し、出身郷里別にも諸種の團體又は秘密結社を作り以て、自ら利益の保護に當つてゐる。

斯かる情勢は泰國民の不安と反感とを深め、元老政治家をして「泰國家の前途に横はる眞の深憂は佛國の侵略でもなく、英國の横暴でもない。全く泰中産階級たる數百萬華僑の向背如何に係る」と長歎息を洩さしめた。政府も之を棄て置けずとなし、華僑の入國を著しく制限すると同時に在留華僑の泰化工作を探るに至つた。一九三七年九月二十日入國法改正法を公布し、更に翌年十月十三日（皇軍バイヤス灣上陸の翌日）新内務省令を發布して入國制限規則を一層峻厳化した。其の大意は左の如くである。

改正入國法

- (イ) 居住證書發給手数料を二〇〇銖（三三〇圓）に引上ぐ。有効期間一箇年（一九三八年十一月十四日より實施）。
- (ロ) 居住證書又は再入國許可書の所持者も治安妨害の虞ある者は之を褫奪し國外退去を命ず。
- (ハ) 移民官が入國外國人にして婦人及び子女の賣買を目的とするか又は之に關聯ありと思料したる際は此の婦人及び子女に對し指定の期間（三十日を下らざる）内に於て係官の許に出頭報告をなすべきことを命ずることを得。
- (ニ) 十二歳乃至三十歳の婦女入國者は總て寫眞を提出するを要す。
- 華僑同化工作としては左の手段を採つた。
- (イ) 華僑學校に一週二十數時間のタイ語教授をなすべきこと。
- (ロ) 校長は泰人とし、教師は泰語試驗合格者たるべきこと。
- (ハ) 教科書其の他の漢字印刷物の檢閲を受くべきこと。三民主義の宣傳を禁ず。

右入國取締は觀面效果を生じ從來は毎年、四、五萬の華僑が入國してゐたが取締發令後、茲一、二年五、六千に激減した。

華僑は近時顯著に民族意識を昂揚したとは謂へ、現状に於ては尙ほ其の昂揚の半途にも達してゐない。これは皇軍の華僑出身地を軍政下に收めた事と、蔣政權の漸衰性に因るものと見てよからう。眞に民族的自覺を完成し又眞に國家主義思想を抱懐する者は少數の有識者に過ぎない。他は徒らに其の特性を發揮し附和雷同する底のものに過ぎない。華僑の同化傾向は今日に於ても進行して居るが、その速度を漸次弱め、その量を漸次減じつゝある。而して現に眞摯に華僑對策を講じつゝある泰爲政者の主體は、是等同化華僑であつて、一例を擧ぐれば、前總理にして現國防軍總監たるピヤ・パホン・ボンパユハー・セーナー少將も二代前に華僑の血を混じてゐる。また元内・外相の現藏相ルアン・ブラヂット・マヌダン博士も潮州澄海縣蓮陽鄉出身の陳某の子であり、その實弟で華僑學校壓迫の先鋒を勤めたナイ・ルイ・パノム・チョンの如きは郷里の小學校課程すら修了してゐないと言ふ。その他、無任所相ルアン・ウイットが（一九三八年夏）華僑を猶太人よりも有害な移民なりとし其の送金習慣性を攻撃して著名となつたが、彼は泰・支混血兒である。彼等は私的感情や、利害に基いて對華僑策に腐心してゐるのではない。彼等は全く泰化し、泰人以上に泰國に忠誠なる泰國民と化してゐる。それに加ふるに、現在も在泰華僑の主體は同化性の最も可能性ある福建人系なので、爲政者も泰國在住の華僑同化工作を樂觀してゐる模様である。

第四節 國防及び軍備

一九三二年從來の陸海軍省を合せて國防省と改め、國運の進展と共に國防及び軍備の擴充に銳意努力し、飛行機その他の新銳武器を購入して陸海空軍の整備を圖ると共に、他面ユワチ・ン（青年訓練）を起し國防大臣は機會ある毎に自らラヂオ放送によつて國民に對する國防思想の宣傳普及に努めてゐる。

國防豫算
一九三五年三月人民議會に於て、六箇年繼續事業として一千八百萬銖（二、八八〇萬圓）の海軍第一期整備豫算を協賛した。

右の如く此の老なる軍備豫算に對しては内外に可なり非難の聲が高く、國內では斯くの如き莫大なる額を國防に投ずるは産業經濟の振興を阻止停頓するものなりと叫び、國外では大泰帝國再建夢想の表現にして或は日本と結んで徒らに兩隣の英・佛領民の神經を刺戟し、無用の摩擦を起すべき挑戰的計畫なりとして攻撃された。然し一般國民は勿論之に賛同して居るが、當時の首相兼國防相ルアン・ビブン・ソククラム大佐は、『國力の發展は一に軍備に係つてゐる』と高唱し、日本及びドイツを引例して國民の愛國心に訴へてゐる。泰國としては英佛の無法なる侵略と壓迫に憎怨を抱き、何時かは之を反撥せんと企圖してゐたが、革命後は自主獨立政策を遂行し、之を充實強化し、獨立國家としての體面を實力を以て保持せんとする氣運鬱勃として擡頭しつゝあるが、是等革新氣分を有する者は軍人の間に多く又、親日熱も特に軍人に於て顯著である。

皇帝は軍の總帥にして國防省は陸・海・空軍の三部を管轄し、國防大臣は之が行政を掌り、國防軍總監は國軍を統率してゐる。

國防省は一九三五年四月次の通り改組された。

- (一) 官 房 總務部・次官室(秘書課・徵募課・法務課・醫務課)・主計局。
- (二) 陸 軍 參謀本部・陸軍經理部・測量部・第一―五軍管區部
- (三) 海 軍 軍令部・艦隊部・盤谷鎮守府・海軍造兵局・工場及び船渠局・水路部。
- (四) 航 空 總務部・航空工廠・第一―五航空支隊部。

陸軍 一九〇四年初めて徴兵令を發布、國民皆兵制を樹立し一九一七年には飛行隊及び輜重兵が歐洲大戰に参加して偉勳を樹てた。此の軍制の創設發達は殆んど泰國國民独自の偉業で其の創設者は故ナコンチャイシー親王及び故ピサヌローク親王にして、兩親王の後を承けて、總司令官となりしナコンソワン親王の指導與つて大に力があつた。斯くて全國に三箇軍團(十箇師團)を設置したが、其の編成は僅に一箇大隊より成る聯隊等も多き有様であつたから、其の後實力を減退することなく單に團隊の改編充實、首腦部の人員淘汰のみに因る軍縮を企畫し、終に一九二八年四月これを改正し、更に一九三三年大改編を行ひ新徴兵法の發布を見た。

現今陸軍は國內防備を主眼として編制配置せられ兵力は將校一、三五〇名、及び下士官以下八、二〇〇名であるが、國防省は一九三七年度の常備兵を二萬と發表してゐる。

徴兵制度を見るに、廿一歳又は廿二歳に達したる壯丁は悉く兵役に服する義務を有し、其中より所要人員を選抜して現役に服せしめ、殘餘は豫備として保留することになつてゐる。而して選抜されたものは、(一)最初二年間は現役に服し、(二)爾後七年間は第一期豫備役(毎年、最長期間二箇月の召集を受け服務す)、(三)爾後十年間は第二期豫備役(毎年、最長期間三十日の召集を受ける)、(四)更に其の後六年間は第三期豫備役に編入する。但し高等教育

を受けたるものゝ現役は一年、又在學中軍事教練を受け、國防省の試験に合格したるものゝ現役は第一種六箇月、第二種十二箇月である。

陸軍の教育

教育に關しては盤谷に士官學校の設けがある。修業年限四箇年、諸兵科の將校を養成する目的にて一九〇四年の軍制改革の際設立され、伊太利人ゲリニ大佐は約十年間校長として指導盡瘁した。其の他飛行學校、軍醫學校及び獸醫學校があり、各聯隊には下士官養成の教導團を設けてある。體育に重きを置き新式武器及び裝具を採用し機械化に努力し、多數のタンク等を購入しつゝある。

軍制に關しては一九三六年現在の公表に據ると、近衛歩兵の外に歩兵廿一大隊、近衛騎兵の外に騎兵三大隊、砲兵八分隊、工兵二大隊、野戰衛生隊五隊から成り、全國を五箇の軍管區に分ち之に軍司令官を置き管内諸部隊を統率せしめてゐる。

陸軍管區

- 第一軍區(司令部、盤谷市)――野戰衛生隊一、歩兵大隊八、騎兵聯隊一、砲兵一團の各主力を盤谷に、又その一部をチャントプリーに配置する。
- 第二軍區(司令部、プラチンプリー)――野戰衛生隊一、歩兵大隊三、騎兵聯隊二、砲兵團二、工兵大隊一を、主としてプラチンプリーに、一部をパタニーに配備する。
- 第三軍區(司令部、コーラット)――野戰衛生隊一、歩兵大隊四、砲兵團二、騎兵聯隊一、同中隊一を、主としてコーラットに、一部をウドン及ウボンに配備する。
- 第四軍區(司令部、ナコン・ソワン)――野戰衛生隊一、砲兵團一、歩兵四大隊中、各大隊一宛をナコン・ソワン、

ピサヌローク、ラムパーン、チェンゲマイに分駐する。

第五軍區(司令部、ラチャブリー)——野戰衛生隊一、砲兵團一、工兵大隊一、歩兵大隊二の中、一大隊をベチャブリーに分置する。

尙ほ、陸軍は盤谷の北方百五十軒に在るロッブリーに近代裝備の新兵營を建設中にて、完成の曉は盤谷駐屯の歩騎・砲・工の各部隊及び陸軍士官學校を移轉する計畫を樹てゐる。

海軍

海軍 十九世紀末に砲術教授の爲め招聘せられた英人ブッシュ大佐及び丁抹人リシエリ大佐は海軍の整備を企畫し、巡洋艦一隻、砲艦六隻より成る艦隊を編成するに至つた。當時の海軍は軍務局の一部であつて、丁抹人が部長として權勢を持ち、將校は主として丁抹人及び諸威人であつたが一九〇九年、同部長が退職し、翌年同部は昇格して海軍省となりナコンソワン親王が大臣に就任した。爾後漸次、泰人將校を採用し、外國海軍に留學歸朝したる者及び盤谷海軍兵學校卒業者を士官に充てるに至つた。

泰國海軍は沿岸防備を主眼とするもので、一九三六年初頭に於ける海軍力は驅逐艦三、水雷艇四、千噸級砲艦二、小砲艦四、海防艦一、日本製の皇室用ヨット一、その他八隻の總計一萬噸強、士官三五二名、下士官以下四、七二六名であつた。

其の後、水雷艇二隻(伊國製)、沿岸防備艇三隻(英國製)、掃海艇一隻(英國製)竣工し、更に一九三五—三六以降、海軍再建第一期六箇年計畫、總費一千八百萬銖を以て艦船の充實に努め、是等を各國の競争入札に附したる結果、伊國に三百噸水雷艇七隻を注文した外は悉く日本に落札し、我國にては合計十二隻の建造を引受け、浦賀造船所

(練習艦二隻)、神戸三菱造船所(潜水艦四隻)、神戸川崎造船所(砲艦二隻)、東京石川島造船所(警備艇三隻)、函館ドック(給油艦一隻)に配分して(總費二千三百萬圓)建造し、砲艦トンプリーを殿りとして昭和十三年九月全部回航を終つた。この外四、八〇〇噸巡洋艦二隻を伊太利に注文しトリエスト造船所に於て建造中である。

政府は尨大なる第二次建艦計畫に著手し近く巡洋艦二隻(各五千噸級、一隻の經費約一千萬銖)の建造注文をなす豫定であるが、右二隻の中の第一艦はナレスアンと命名さるべく、一九四〇年起工、一九四三年完成の筈である。

海軍の教育

教育に就ては一九〇四年、盤谷に海軍兵學校を創設し、機關科及び航海科を置き爾來多數の卒業生を出し又、盤谷鎮守府海兵團に於ては初年兵の教育に當る等、準備をさし怠りない有様である。北緯十二度六分、東經一〇〇度八分の突角に在るサテヒイブに艦隊根據地を置き時々演習を行つてゐる。又馬來半島西岸には潜水艦隊根據地を置き、再建計畫完成の曉には之を三艦隊に分ちて各艦隊を泰灣の北岸、東岸、西岸に配備する計畫であると云ふ。一九三八年末の泰國海軍兵力は次の如くで、又その主要なるものは次表の通りである。

海軍兵力

巡洋艦	二隻 (建造中)	砲艦	七隻
練習艦	三隻	驅逐艦	三隻
水雷艇	一〇隻	潜水艦	四隻
敷設艦	二隻	警備艦	三隻
海防艦	一隻	通報艦	一隻
ヨット	一隻	通油艦	一隻
特殊艦	七隻	給油艦	一隻

第四節 國防及び軍備

泰國の艦船

艦名	艦種	排水量(噸)	速力(節)	裝	備	建造國
マハ・チャクリ	皇宮ヨツト室	二、四〇〇	一四			日本
プ・ラ・ル・ア・ン・グ	驅逐艦	一、〇三五	約四〇	砲(四吋四、三吋高角一)	水雷發射管二	英國
ス・ア・タ・ヤ・ン・チ・ョ・ン	同	三七五	二七	砲(七六耗一、機銃二)	發射管二	英國
ス・ア・カ・ム・ロ・ン・シ・ン・ド・ウ	同	三七五	二七	同		英國
ト・ラ・ッ	水雷艇					伊太
プ・ケ・ッ	同					伊太
水雷艇、第二、第三、第四	同		二〇	砲(五七耗一、二吋半一)	發射管二	日本
ラ・タ・ナ・コ・ー・シ・ン・グ	砲艦	一、〇〇〇	一二	砲(六吋二、三吋四、二吋半一、一吋半一)		英國
ス・コ・ー・タ	同	一、〇〇〇	一二	砲(六吋一、三吋四)		同
バ・リ	同	五〇〇	一〇	砲(十二耗一、五七耗五)		同
ス・ク・リ	同	五〇〇	一〇	砲(十三耗一、五七耗四)		同
マ・コ・ッ	同	六〇〇				同
チ・オ・ビ	練習艦	七五〇	一六			日本
メ・ク・ロ	同	一、四〇〇	一六			同
タ・ク・ロ	同	一、四〇〇	一六			同
タ・ク・ロ	警備艇	一、三五	一八			同
ク・ロ	同	一、三五	一八			同
タ・ク・ロ	同	一、三五	一八			同
カ・ク・バ	同	一、三五	一八			同
ト・ク・バ	砲艦	二、二六五	一五・五			同

オ・ド・チャ	同	二、〇一五	一五・五			同
マ・チ・ア・ヌ	潜水艦	三七〇	一四・五			同
ウ・イ・ル・ン	同	三七〇	一四・五			同
シ・ン・サ・ム・ッ	潜水艦	三七〇	一四・五			英國
プ・ラ・イ・チ・ム・ポ・ン	同	三七〇	一四・五			英國
サ・ム	油槽船	一、八五〇	一四・六			日本
ス・リ	運送船	六五〇	一三・二			同
パ・カ	同	六五〇	一三・二			同
合 計		二七隻				伊太 二八七

尙ほ右の他に海岸及び河川警備用の五、六十隻の小汽艇及び三百乃至五百噸の運送船三隻がある。
 現在の工廠は船臺の長さ四七四呎二吋、全長五一三呎、口の幅五六呎九吋、高潮時の水深一五呎一六呎の乾船渠を有し、現有全艦種の修繕に差支なき新式機械設備を有してゐる。

海軍部主要各局(水路及び船渠局を除く)は一九三九年末迄にサテヒイブ軍港に移轉する豫定であるが、海軍兵學校も一九四〇年始めにサテヒイブに竣工次第移轉することになつて居る。尙ターチャンに潜水學校設立の計畫があり、皇室所有の右豫定敷地が國防省に下附あり次第、建築に著手することゝなつた。因に日本に留學した士官若干名は潜水學校教官たるべく、又教科書類は既に日英兩國より取寄せられてゐると言ふ。

海軍區

海軍區は現在二箇區に分れてゐる。

第四節 國防及び軍備

第一海軍區（サムット・プラカーン、サムット・サーコーン、サムット・ソククラーム）
第二海軍區（チョンブリー、ラヨーン）

當局は先年來海軍力の擴充に多大の關心を拂ひ、續々新造艦を就役し、又メーナム、チャオピヤ河に面する海軍部前の艦艇碇泊地域の外、サテヒイブ軍港を構築したが、之のみでは艦船の修理、戦艦の繋留等に充分でない爲め、更に、パークナムのピスヤ・サムト砲臺附近メーナム河口に新根據地を建設することに決定し、建設豫算六萬銖を支出し、工事に著手したが一九三九年末に完成の見込である。

空軍

空軍 一九一三年佛國に派遣せし留學生の歸朝と共に飛行機五機を購入し飛行隊が設立された。航空部は世界大戦参加に由り比較的早く發達し、操縦士の多くは歐洲にて教育された。機数はニューポート（ローン八〇馬力附）十八機、同（ヒスパナ三〇〇馬力附）三十機、アプロ（ローン八〇馬力附）約二十機、一九三五年以後は米國よりカーチスホーク機約二十五機、コルセイア機十五機、グレンマルチン（爆撃機）六機を購入した。之を以て五隊を編成する外、一九三六年現在ドーン・ムアングに約百機、コーラットに約六十機、其の他を合せて合計約三、四百機と推定されてゐるが、國防省は二百機と發表してゐる。操縦士は總て泰國人で、外人教官は一人も無い。航空隊の編成はドーン・ムアングに第一、第二大隊があり、航空工廠及び大規模の格納庫もある。コーラットには第三大隊が配せられてゐる。ロップリー近郊のコーカチャムでは、舊野戰砲兵學校を飛行學校に變更し第四大隊とするために擴張施設中である。南方のプラチオプ・キリーカンに射撃練習中隊程度の部隊を置いてゐるが、之も將來、第五大隊として擴張されることになつてゐる。

青年訓練

一九二一年以來、民間航空も發達し、空軍直轄の民間航空隊の觀がある。

青年訓練運動 國防省にては歐洲フアッシュ諸國の例に倣ひ近時ユワチオン（青年訓練）運動を奨勵し、現在首都に四千、全國に六千の参加者があり、各地に多數の青訓支所を置き軍事訓練を施してゐる。總て志願制度で本訓練を一箇年経たものは現役を半箇年短縮されることになつてゐる。

第五節 産業

一、農業

泰國經濟の重點をなす農業は國民の約八割が之に従事し、總可耕地面積は全面積の三八%であると言はれてゐる。何故に斯く六割以上の地積が空しく遊んで居るかと言ふに、全く人口不足と資本の缺乏とによるもので、此三十餘年來、軍備充實に其の財力の大部分を傾注し、産業方面には手が廻らず、爲めに近隣諸國の發展に伴ひ得ず、政府は、財政困難にて且つ産業知識に乏しい泰國人の力のみでは如何程の開發も出來ないので、目下外國の資本、技術及び勞力の輸入を要望してゐる。

米作 泰國農産物中の大宗たる米の輸出は總輸出金額の約六割を占め、國民は米を常食とするが故に、國民の禍福は米の豊凶に因ると謂ひ得べく、國民の米に對する關心の大なること知るべきである。何故に泰國産業が米作に偏するかを考察するに、次の三點に歸せられる。(一)毎年、河川の氾濫後、新しき土壤に種子を蒔けば施肥の要なく

して稔ること、(二)米は如何に價格暴落するも自家の食用となし得れども他の作物は價格暴落すれば生活に窮するの不安があること、(三)國民に農事改良の研究心なく、政府亦米作を固執獎勵することである。

泰人は今日尙ほ原始的農具と幼稚なる農法とを以て米作を行ひ、米は主食とする外、菓子・餅・酒の原料とし、又た家畜・家禽・養魚餌料として廣汎に消費してゐる。泰米の生産額は平作と認むべき最近五箇年平均大約八千萬擔(約二千五百四十萬石、一擔は百斤)である。地價は低廉であつて日本内地や朝鮮の標準ではなく、人口の疎密・灌漑・交通の便否・肥沃の程度等によりて異なるが、盤谷に近き地方の相場は一畝(一段六畝四歩)四十米平方に付二〇銖(一銖は一圓六十錢)から六〇銖を往來し、湄南平原の北部にて一〇銖から四、五十銖迄の相場である。半島地方の米耕地は、盤谷附近の値段とは大差がない。

泰農民は一般に濫費者で、賭博飲酒を好み、不相應に佛寺に喜捨するも何等の副業を営まないから、常に小遣錢に缺乏してゐる。因つて彼等小作人は豚小屋同様の陋屋に起臥し、簡素なる生活を營んでゐるが、之を以て泰國農業の薄利なる反影なりと見るは誤りである。米の市價は大なる變動を示さず安全有利な作物である。米作は温帯では薄利を免れないが、其の原産地、しかも天災の無い恵まれたる土地で、其の温熱と地力とを利用し、且つ改良法を以て栽培し二毛作とすれば、其の利益は他の熱帯物に優るとも決して劣るものではない。又た稻の外に諸種の一年生又は越年草木、熱帯作物を栽培すれば、その利益は一段と増加し得られる。されば日本人の企業としては適當のものである。

二、甘蔗 泰國の糖業は數百年の歴史を有し、十八世紀末には既に毎年二、三萬擔の輸出があり、一八五九年には甘萬擔と云ふ輸出記録を作り、輸出品中、重要な地位を保持したことがあるが、漸く衰退の一路を辿り、遂には輸

甘蔗

出殆んど皆無となり、一面生活必需品としての需要年々増加し、大部分を外國より輸入するに至つた。其の原因は米作の發展により甘蔗栽培の顧みられざるに乘じ、安價なる爪哇糖が盛んに輸入せられて國産糖を壓倒したからである。政府では甘蔗栽培及び製糖業の復興を企圖し、北部ラム・パイン市近くに官營製糖工場を設立し、昭和十三年十一月から作業を開始した。製糖能力は一日五十噸と言はれ、輸入糖消費量の五分の三を製出してゐる。然かし、益々需要増加の趨勢にあるから、更にラム・パインの南方、ウタラディットに製糖工場を増設し、輸入糖の防遏に努めてゐると言ふ。

棉

三、棉 泰國國民は既に二千年以前より自作棉にて自紡自織した綿服を用ひたと言はれ、十八世紀頃の棉作隆盛なりし時は、良く國內の需要を充たし、陸路國境を越えて支那及び緬甸へ盛んに輸出した。然るに外國貿易が開始され優良製品の輸入さるゝに及び、棉作は自然漸衰するに至つた。是に於て農務省は棉作復興を企圖し、柬埔寨・印度・埃及より種子を輸入し栽培を獎勵した爲め、柬埔寨種の如きは一九一四年には二萬五千噸の栽培を見、其の後耕地面積増加し、一九三六年には四萬三千噸を突破し收穫八六、六二一擔を見た。

棉は此國の地味に適し、八月頃種を卸ろし一月末に採集する。即ち成育期が雨季に、成熟期が乾季に入るやう、播種期によつて巧みに調節が出来る。

煙草

四、煙草 中部平原の河岸地方及び北部山岳地方に栽培せられ、或る地方にては乾季の間、米田に栽培するが、湄南及び其の他支流沿岸の沖積層土に適する。北泰地方では米作刈入後栽培して居るが、外國輸入煙草の爲に壓倒せられ、地方土民の消費を滿たす程度しか産してゐない。北部ペチャブーン、ソワンカローク、スコタイ地方、南部カンブリー地方のものが特に良品にて、昔より是等四縣産のものは官廷用として使用された。北部産のものは香氣馥

郁、其の質辛烈で外國品と匹敵する。ブリティッシュ煙草會社は早くも之に著眼し、泰の農民に耕作させ、出來たものは悉くでも買上げるといふ約束の下に生産させてゐる。

現在、年々多量のシガレットを米國より輸入してゐるが一方、少量の煙草を新嘉坡・馬來諸州・香港その他に輸出してゐる。

玉蜀黍

五、玉蜀黍 國內到るところに栽培せられてゐるが、然も國內の需要を満たすに過ぎない。一九三六年度栽培面積三八、七五九畝で、收穫量七四、九九一擔、一畝當り一・九四擔であつた。

豆類

六、豆類 泰國に栽培される豆類の主なるものは、南京豆・小豆・さゞげ・大豆等で、ラチャブリー、ナコン・シ1タマラート、ナコン・ソワン諸地方より最も多量に産出する。通常、雨季の終りに播種して翌年一、二月に收穫され大部分は菓子及び豆腐の原料として國內に消費され、一部を輸出する。

胡椒

七、胡椒 胡椒は近來、盛んに奨励された爲め全國廣汎に栽培され、耕作面積も逐年増加してゐる。アユチャ、ピサマローク地方が最も盛んにして全國産額の過半を産する。ラチャブリー其の他の地方では年初に米田に栽培し、米作に差支ないやうに收穫する。胡椒は胡椒油の原料にて、泰國にては簡單なる木製器具を以て人力若くは水牛を使用して搾り出す。油は料理に用ひられ、椰子樹のない地方に於ては特に其の代用として需要が多い。搾り糟は家畜の飼料又は肥料に充てられ、餘剰は支那方面に輸出されて多くは菓子の原料に用ひられる。其の收穫高は一エーカー約五〇銖に上ると言はれる。泰農民にして少しく勤勉ならば盛んに生産されるであらうが、生來懶惰なる爲め、印度、爪哇、緬甸その他の地方に比して品質が劣つてゐる。一九三六年度栽培面積五、二六一畝、産量一一、四〇一擔、一畝當り二・一六七擔であつた。

胡椒

八、胡椒 胡椒の栽培は閑雅なる園藝にて、過激なる勞役を要せざるも緻密なる注意を要する點に於て、日本人に

適するものと考へられる。現在は低級懶惰なる泰農民には適しないが故に、殆ど支那移民が栽培してゐる。收穫した胡椒は仲買人の手に依つて、輕重を分ち、未熟の實は其のまま販賣する。之を黒胡椒と稱へ、黒き外皮を有し、風味辛味は白胡椒と何等變らぬが、外觀劣悪なるの缺點がある。充分に成熟したるものは一、二晝夜間、清水に浸したる後、水を切り蓆を掩ひて醗酵せしめ、表皮の柔かになりたる時、桶に入れて揉み、數回水を取り替へて晒らし、之を乾かしたものを白胡椒と稱し海外に輸出する。歐洲市場に於ては泰國胡椒の聲價が高い。

一九三六年の栽培面積七、二七〇畝、收穫高三、二八〇擔、一畝當り〇・四五七擔であつた。

椰子

九、古々椰子 古々椰子は曾て盤谷附近の中央平原に繁茂してゐたが、今より四、五十年前、椰子害虫の災を蒙り、是等地方より殆ど其の影を没するに至つた。南部海岸地方に於ける椰子樹は虫害尠くよく繁茂してゐる。南泰東海岸に近いサムイ島の如きは世界に於ける最良生産地として名高く、同島附近の本土地方も優良品を産出してゐる。古々椰子は輕き砂地を好むが故に、海岸地方に能く生育し、栽培法は所々によりて多少差異あるも一般に、(一)種子の選擇、(二)苗床、(三)本田の整理、(四)移植と云ふ順序で、種子は十年以上五十年以内の樹より選擇するを普通としてゐる。

一九三六—三七年に於ける全國古々椰子の結實せるものは、一畝當り四九六顆の生産があつた。然も生産額の割合に輸出額の尠きは地方農民が未熟の果汁を飲料に使用し、成熟せるコプラを食用に供し、單なる副食料品位に考へて

護謨

大多數を消費し、商品としての考慮を拂はない結果である。

一〇、護謨 泰國は英領馬來に隣接しながら、護謨の大規模なる栽培を見るに至つたのは極めて近頃の事である、元來泰國民は斯業が自國に適しなと思ひ居りしに、英領地方の企業家が自領に栽培地の不足するに及び、泰國に絶好の適地あるを發見して栽培を試み、泰國護謨の眞價を發揚した。

一九二二年頃より急速の發展を辿り、東南部臺灣沿岸地方及び半島泰は其の好適地であつて、パターニ地方は栽培最も盛んである。一九三五年の調査に據れば四百畝以上の護謨園七十箇所、其の内一千畝以上のもの二十箇所あり、植付面積總計六一、八五〇畝、總樹數四一、三〇〇、七〇〇本と推算され、採液量年額二五、七〇〇噸を生産してゐる。然し、英領馬來の進歩せる栽培法に比すれば幼稚粗朴であるが、將來英領馬來の護謨生産を凌駕し市場を刺戟するの惧あるを以て、是非共、泰國も制限協定に加入せしめて置く必要ありとなし、國際護謨委員會は委員を派し泰國當局を説得して一九三四年五月七日倫敦で制限協定に調印せしめた。現在、泰國の生産量は未だこの協定制當量に達してゐないから、半島始め新規植付の餘地は尙ほ充分にある。投資の對象としての泰國の護謨企業は非常に興味を以て注目されてゐる。

一九三六―三七年度の輸出額は米・錫に次で第三位を占め、金額二三、五二四、六八九銖に上り、泰國總輸出額の七八%を占めた。

北泰及び南泰には野生護謨がある。是等は野生の儘にて特に栽培せられたもので農民は之を採取して盤谷の商人に販賣してゐる。南泰にては右の外グタバカ護謨及び蔓草等が生育してゐる。

檳榔樹

一一、檳榔樹 國內到る處生育し、その生産は國內の需要を満たし、餘分は彼南・新嘉坡方面へ輸出してゐる。濕地に種子を植ゑれば何等手入を要することなく生育し、果實を結ぶ。果實は生の儘或は乾燥して使用し、一般土人は煙草同様好んで齧む風習がある。普通植付後三年目に實を結び、大抵一年一回であるが一本に付百顆乃至百五十顆結實する。場所によりては二回の結實を見ることがあり需要は泰國のみならず印度人・支那人も好んで之を使用する。南泰地方にては相當有望なる事業であるが、外國人にして未だ斯業に著手したものはない。

其他の農産物

一二、其他の農産物 前述の外、パルマイラ椰子、砂糖椰子、ニツパ椰子、果實としてはドリヤン、マンゴ、マングステン、鳳梨、龍眼肉、木瓜、各種のバナナ、柑橘類、ジャボン類、蕃荔枝等甘美なる果實數ふるに遑あらず、是等は周到なる注意を以て栽培すれば相當の利益があるといはれてゐる。

以上、農産物に就き大體述べ來つたが、泰國經濟は殆ど米作に片寄るが如き傾向あるも、米のみを經營するは企業家の得策でない。泰の國土は農作に適する以上、企業家は米作を主とし他の農産物栽培を副業とし、更に餘力あつて精米業にでも著手すれば一段と利益を收め得らるゝことであらう。

二、畜産業

牧畜飼料

畜産業は我國に比し飼養法は原始的で品種の改良は今尙ほ等閑に附せられ、牧草は栽培せらるゝことなく、人工牧場もないが家畜は至つて強健、粗食に慣れ、兪硬なる野草や灌木の芽葉を嗜食し、乾季中、綠草の乏しき時は稻の刈株や、林野の小笹等が代用飼料となる。尤も馬には靱、豚には米糠を多少添用する。其他の家畜は彼等自身で食物

を求めて歩き廻り、象の如きは食物を漁りに遠く林野に踏み入り一週間乃至十日間位、飼主の家に歸らない。泰の農家はあの大食動物を飼養し切れぬ故、彼等自身で勝手に食物を捜させる。熱帯なるが故に完備せる畜舎の必要もなく、土地が低廉であるから固定資本は何程も要しない。

コーラット高原や馬來半島には數哩乃至十數哩に連續せる小笹原・草地・疎林等が處々に存在し居るが故に、如何なる大規模の牧場にても經營し得られる。家畜衛生は未だ行届かず、時には疫病が猖獗を極むることあるも、何分風土が之に適せるため頭數は年々増加して往く。相當の資本を投じ合理的經營を行へば牧畜は確に他の産業に劣らぬ有利のものと考えらる。

主要畜産

水牛、牛、象、豚、馬及び家禽の外國に輸出さるゝもの年々二百三十萬銖以上に上つてゐる。

一、水牛 農作には殆ど水牛を用ひ、農民は之を「金の基」と稱してゐる。農家は二、三頭より十頭内外を飼養し、米作面積四畝毎に一頭の割にて耕作力役せしめてゐる。毎年九千六百頭内外を主としてブケット地方より輸出し金額にして百萬銖近くの貿易額を示してゐる。

二、黄牛 晝間は草原に放牧、夜間は柵中に收容し、主として食用及び高原地方に於ける輸送用として使役し、耕作には少數の需要あるのみである。食用中、乳牛の飼養も殆どなく新嘉坡、緬甸に輸出される。

三、馬 主として軍馬及び乗用として使用され、泰國産の馬は四尺内外の小馬にて強健耐久力強く、熱帯力役使用には好適である。取引は殆ど國內に止まり、少數を陸路緬甸に輸出する。政府は近時、濠洲産と在來種との雜種を奨勵し、ロムサックに馬匹改良所を設け、政府監督下に産馬事業を經營してゐる。

四、豚 全國到る處、支那人の柵飼によつて飼育され、海峽植民地へ輸出される。種類は支那の早熟種にて約十箇月にして屠殺するを例とす。飼養數は百萬頭を超え、家畜中最高位の輸出をなしてゐる。

五、山羊 半島南部ブケット地方に於て山羊及び羊を飼養し輸出する。

六、象 古來より馴育使役し、北部地方にては木材(主としてチーク)運搬及び一般輸送に力役せしむる。一九三六年現在調査、全國飼育數は一〇、七二三頭にて内國需要を充たし尙ほ餘剰は陸路緬甸に輸出する。

七、家禽 家禽の中、鷺鳥、家鴨は全國に飼養され三分の一は國內用とし、三分の二は輸出用とされる。農務省にては農家副業として家禽飼養を奨勵し、半島ヘッド・ヤイに國立家禽飼育試験場を設立してゐる。養鶏業は飼畜程には發達せず、家鴨は支那人が盛んに飼育して年々二、三千萬顆の鴨卵を輸出してゐる。

三、林業

林業

總面積三億三千三百餘萬畝の中、一億一千七百三十萬畝の耕地と河川沼澤及び少許の草地とを除けば殘餘の土地は悉く森林である。大部分は斧鉞の入らぬ密林で朝鮮滿洲の如き秃山は全く見當らず、従つて其の材積は計上し難い程の巨額である。樹木は堅木良材に富み就中、最も重要なチーク材は輸出品の第四位を占め、年々盤谷より輸出さるゝもの九百萬銖、産地より直接緬甸に流送さるゝもの百二、三十萬銖に達してゐる。之に次ぐ輸材は花梨・紫檀・黄揚・牛角木、鐵刀木、黑檀等である。是等良材の伐材權を有するものは英國の四會社、佛國の一會社、丁抹の一會社と支那人五名、緬甸人一名、ラオス土侯五名、泰國官吏一名、政府保有林(十五萬樹)とである。

最初十五箇年を期限とする森林貸借契約を開始したるは一九一〇年のことであるが、其の頃、前記の外國五會社は全貸借林の八五%を占取し、殘餘一四%及び一%は地方在住外人借林樹者並に山林局に委讓し、何れも一九二六年に契約書換をなし今日に至つてゐる。

英國會社の借林區域は最も廣く大なる勢力を有し、その他、緬甸人・支那人は個人で經營し、馬來人・支那人にして舊土侯より更に借林して伐採に従事してゐるものもある。伐採作業は主として象に依りて行はれ、柚の多くはシヤン人である。日本人の林業割込みは最早手後れとなつたが、森林副産物採集は未だ充分開拓の餘地がある。

主要林産

一、チーク チーク材は泰國重要國有森林財産にであり、泰國は緬甸と並び世界的産地である。チーク林帯は北緯十七度より北部國境まで、東經九七度半より百一度半に達する地域に介在してゐる。チーク林の面積は二萬七千方料にて七百五十米以下の高原に生じ、樹幹眞直なる喬木にて圓柱狀をなし卵圓形の大葉を附ける。乾燥地にては一月中旬より、濕地にては四月頃脱葉し、雨季に入ると同時に發葉、六、七月に開花、二、三月頃果實が脱落する。

泰産チーク材の特長は中庸重硬材にて造船用材及び鐵道客車建造用材に適し、邊材は小にして白色を呈し、心材は大にして暗金色をなし、年月を経れば漸次褐色黒色となる。用材は心材にて高き香氣と一種の油を含有し、耐久性强く氣温により變形せず、昆蟲の蝕害尠く、鐵に接して腐朽し難く高度の耐火性を具有する。

其の缺點乃至障害とする點は、(一)卷枯し中、山火事を招き易きこと、(二)伐倒時に生ずる龜裂、其の他の損傷、(三)成長不完全に因る「曲り物」となる彎曲、(四)氣候・火事・動物等に由る傷損が腐朽して空洞及び穴となること、(五)流筏中、又は貯木中、舟食蟲及び蟛蛄の蝕害等である。

二、花梨 泰名ブラドウトと稱し、ナコン・チャイシー、ピサヌローク、ナコン・ソワン、パチンブリーの諸地方及びサラブリー地方の落葉林中に産す。日本名の印度紫檀、青龍木と同材にて我國唐木商は本場花梨と稱す。粗林中のものは大樹にて四米乃至六米、密林中のものは十五米乃至十六米に達し、直徑〇・五米乃至一米である。支那人は免許を受け多量に伐採し汽車にて盤谷に搬出製材し、國內の需要を充たし餘剰は海外に輸出してゐる。

三、紫檀 泰人はパユングと稱し、英人はローズウッドと呼ぶ。唐木中、最も貴重なる深褐色重硬材にてナコン・フチャシーマー地方のドン・ピヤ・ファイ山脈及び東部佛領との國境地方ナコン・ソワン地方の一部、ソワンカロク及サラブリー地方に産する。通常、直徑五十糎、樹幹の高さ四米乃至一〇米に達す。主として柱、家具、牛車々輪・道具の柄・天秤棒・算盤等に製造さる。我國の本紫檀又は古渡り紫檀は實は印度産の紅木紫檀でなく本種である。

彫刻用材
四、黃楊 泰名ブットは泰西岸のチャンポーンより東岸のチャンタブリーに至る沿岸の山岳及び島嶼、並にドン・ピヤ・ファイ山脈熱帯常綠林及び半常綠林中に産する。茲數十年來日本人の手により日本へ皮付の儘、輸出され割目を生ぜぬ特徴から彫刻物に使用されるが、泰國內にては菓子器又は香油入等の蓋物細工に製せられ、材質は産地によりて大差あり、岩質地のものが最も優良で濕地産は殆んど用をなさぬと謂ふ。

五、牛角木 泰名をカピ・カオと稱し、ナコン・ソワン、ピサヌローク、ナコン・ラーチャシーマー、ラチャブリー、パチンブリー諸地方、殊に北部の落葉林中に産し、形狀、材質等鐵刀木に酷似する紫黄色材にて柱材として甚だ美麗であり、多量の輸出を見る。

六、鐵刀木 泰名キレクと稱し、ナコン・シータマラート、チュンポーン地方、北部等に産し、又屢々栽培される。長さ四米乃至一〇米の鐵錆色材にて建築及び造船用の鐵釘代用に重用される。

七、黑檀 泰名マクルアと稱し、ナコン・ラーチャシーマー、ラチャブリー、ピサヌロークの西北地方、サラブリー地方の常緑林中に産し、樹幹直長(四米乃至八米)枝梢尠く紫檀に比して大木があり、表皮は厚く、之を剝離すれば用材とするに堪へぬものがある。棚・箱・椅子・卓子の縁、小刀の柄、其の他廣く指物細工に使用され、果實は染料に供せられる。

以上の唐木類紫檀、鐵刀木、牛角木は幹周百五十糎、黑檀は百七十五糎、黄揚は六十糎以上に至らざれば伐材は許されない。

八、林産物 スティック・ラック、籐、樹膠、安息香、樹油(ヤーン油)、樹脂(籐黄)、ダマル、蘇枋木(赤色染料)、大風子(醫藥)、犀角、穿山甲皮、鹿皮、鹿茸、鹿角、象牙、蜜蠟、蜂蜜、繩索用纖維、製紙原料コイイ等がある。

斯かる林産物の開拓は伐材企業よりも經費尠く利廻の點から言へば收益大なりと稱せられる。

四、水産業

水産

泰國民は日本人に劣らず魚肉を嗜好し、漁獲高は夥しい數量に達する。湄南平原諸川の淡水魚は其の繁殖力實に驚くべきものにて、我國に存する種類に比しより多産の如く思はれる。最も多いのは鯉科、鯰科にて是等の或る種は

乾季中、溜池や沼澤の泥中に潜伏し雨季に活躍繁殖する。干魚として地方の需用に充て、尙ほ高原地方へ多量に輸送してゐる、海水魚は鰻・鰹・眞名鰹・鰻・針魚・飛魚・鰈等であり、最も美味なものはブラトー(海鯉)で形狀は、小鯖位の、多量に漁獲される。蝦蟹にも多くの種類があり、アミ蝦の鹽漬、魚液より製した魚醬の産額は多大で國內の需要を満たしてゐる。貝類は主として贔貝にて干製を輸出してゐる。蝶貝も棲息してゐるが捕獲高は多くない。燕窩は水産物ではないが泰灣及び印度洋の諸島に産し支那人は特許を得て採集してゐる。

盤谷より干鹽魚にして外國に輸出さるゝもの年額約百八十萬銖、埔泰半島より百五十萬銖を算へてゐる。干貝の輸出は五、六十萬銖である。泰灣は波靜かにて水深も大ならず、岩礁尠くトロールには理想的漁場と稱せられる。漁獲物の販路には附近に盤谷・新嘉坡・西貢があるから懸念を要しない。邦人は條約改訂以來、漁業權を有するも今日まで未だ之に着手せるものはない。食鹽は乾期中メクロン河口、ペチャブリー河口及びパタニー河口に於て盛んに製鹽されて居るが、目下のところ總て支那人の獨占事業である。

五、鑛産業

鑛産業

鑛業は現在では錫を第一とし次は鐵である。泰半島及びメーナム平原の北部に有望なる鑛區があり、鉛や亞鉛も亦多量に埋藏されてゐる。此の外、金、銀、銅、ルビー、サファイア等もあるも産額僅少である。石炭は粗質褐炭が半島のバンドン河口に於て採掘されてゐるが其の量いふに足らず、石油はラオス高原西北部に存在するも國有として尙ほ閉鎖されてゐる。

主要鑛産

一、錫 半島にては數世紀の昔より時々採鑛されてゐたが、斯業の開拓者は支那商人なりしものゝ如く、彼等は印度への往來に當り、半島の一岸に上陸し他岸より再び就航するを常としたから、恐らく半島横斷の際、偶然にも錫鑛を發見し、漸次商業的に採掘したものであらうと言はれてゐる。泰國政府が錫鑛を直接管理するに至つたのは十九世紀末で、それ迄は地方官が私かに採掘權借地權を濫許し、斯業の發達、政府の鑛山收入を阻害してゐたが一八九二年一月、鑛山局を盤谷に創設し一九〇一年には鑛業法を發布し一九一九年これを修正した。該局は初め農務省に屬し後に大藏省の管轄となり、再び一九〇〇年農務省の所管となつた。錫は其の分布廣く一箇年生産七、八千噸、金額二十萬弗を超過し輸出品中第二位を占めて居る。斯業に従事するものは英人、濠洲人、支那人であつて、會社組織のもの約三十あり、多く浚渫機を使用し又高壓水洗機もあるが、支那人は露天掘又は崩壞水洗式を行つてゐる。

二、鉛 パタニー地方ヤラーに錫と結合して存在し、水選法で分離し難いから、此の地方にて熔鑛して一種の白蠟の如きものとなし、鉛及び錫の含有歩合に依つて之を五種に分類する。カンブリー其の他にも方鉛鑛をなす錫（少量の銀を含有）が存在するが商業的規模の採掘を見ない。然かし將來、有利なる投資事業となるべく期待されてゐる。

三、寶石 ルビー、サファイア、ジルコン（泰ダイヤ）等を産出する。一九〇七年にバットンボンのパイリン地方を佛國に割讓してより泰の寶石鑛業は重要性を失つたが、併し尙ほ少量の寶石が其の隣地クラト及チャントブリーに産出され粗製のまゝ輸出される。一九二一年カンブリー縣にサファイア含有系統が發見されたので同地方の斯業は急に活況を呈し、政府は命令を發して寶石にも亦た一九一九年の鑛業法を適用し、特別施行細則を設け、右系統採掘權の出願を受理した。

六、工業

工業

泰國の工業は未開の域にあり、固有工業の中、稍々見るべきものは支那酒釀造、小舟、土器、粗煉瓦の製造、絹布織布の製織位で、國內消耗品の大部分は外國よりの輸入に俟つてゐる。工場としては流石、米の國だけに精米所は百餘箇所に及ぶも、其の他は微々たるもので二、三の製材所ある外、製氷、製革、製紙、製糖、製油、セメント工場、發電所各一、及び一、二の船渠、機械工場で、盤谷市には電燈、電車、水道、下水等の設備がある。因に地方都會には今尙ほ電燈すらない所がある。此の國には石炭・水電共に不足し、首府の動力は穀殼を燃料に用ひて之を補給してゐる。國際列車はディーゼル機關車を使用してゐるが北方線と東北線は石炭の外、薪木や穀殼を焚いて駛つてゐる。日本人が渡航早々の事業としては、燐寸・石鹼・硝子器・ボール紙・塗料・罐詰（魚牛肉及び果物）、菓子・煉瓦等の製造は有望であらう。斯くの如く産業状態が幼稚なるが故に貿易額は尙ほ少額である。

第六節 日泰貿易

日泰貿易は以前は微々たるものにて、昭和五年より七年迄は日本よりの輸出一箇年八、九百萬圓であつたが、昭和八年即ち泰國政變の翌年からは急激に増進し、八年には千八百萬圓、九年には二千八百萬圓、十年には四千萬圓となり、逐年長足の進歩を續け、十二年には日支事變勃發に依り幾分増進の傾向を阻止せられたるも、尙ほ四千九百萬圓の輸出を見るに至つた。右に依つても泰國が我が輸出貿易上、如何に重要な市場であるかを窺ひ知ることが出來や

う。之に反し泰國より我國への輸入は年々少しづゝは増加し居るも、總額は我國よりの輸出額に比し極めて小である。昭和十年乃至十二年迄の對泰輸出貿易は別表の通りである。

對泰貿易表(單位千圓)

輸出入	一、輸出			
	品名	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
一、輸出	綿織物	一三、二二七	一三、六二一	一六、〇八八
	人絹織物	三、七六八	四、四四〇	三、五二二
	鐵製品	二、一一三	二、〇四五	一、五三四
	紙類	五一一	五六五	九二一
	綿織絲	九六八	九九四	五四三
	帽子及帽子製作材料	五三四	三〇一	三五一
	綿タホル	五五二	四四四	三一一
	陶磁器	四三七	三〇七	二七〇
	水産物	四六一	二六一	二〇四
	麥酒	二五三	二九〇	一八六
	硝子及同製品	七一一	七二八	一六三
	石鹼	一一二七	七七	一〇四
	其他	一六、五九四	一八、九五五	二五、一九五
	計	四〇、二五八	四三、〇二八	四九、三九二

二、輸入

品名	計		
	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
米及穀	二、八五六	四、八二〇	三、七五七
木材	一、六二四	一、七七三	三、一〇二
其他	九二八	二、一六四	六、七一二
計	五、四五八	八、七五七	一三、五七一

昭和十二年まで躍進を續けた本邦對泰貿易は、十三年より落調を示し十四年には激減を見せた。之は一見甚だ奇異の感を呈するが、泰國內に實數二百五十萬を算し津々浦々に至る商業機構の大半を掌握する華僑による根強き排日貨と、一方本邦内熟練工の應召、原料品の獲得難等による製造業界の不活潑とに原因し今日致し方なき結果と言はざるを得ぬ。

貿易相手國

尙ほ貿易總額より見たる相手國(地方)別貿易順位は現在左の如くである。

- 一、新嘉坡
- 二、香港
- 三、彼南
- 四、日本
- 五、印度
- 六、和蘭及び蘭印
- 七、英本國
- 八、獨逸

第七節 交通

一、道路 泰國は古くから河川の利用が盛んであつた爲め、道路交通は久しく閑却されて來たが一九三四―三五年

度豫算に於て次の國道工事十線が着手された。

國道	線	一九三四—三五年支出
(一)	デン・ヂヤヤ・プレー・ナン	一四六籽
(二)	ソワンカローク・スコータイ	一四〇
(三)	タパンヒン・ペチャブリー	一一〇
(四)	ペトリユー・サテイヒブ	一三四
(五)	チヨナボド・ロイ・エット	一七〇
(六)	ウボン・マクタハーン	一六六
(七)	チュンポーン・クラビー	六二
(八)	タヌン・タクアア	九二
(九)	フエイヨッド・クラビー	一一〇
(十)	ヤーラー・ペトーン	七五
計		一、二〇五
		八七一、〇〇〇

右の内(五)及(六)を除き他は舊計畫の繼續にして、以上の外、新に左記國道四路線を建設すべく、既に測量は終つて居る。

(一) プラチン・アランヤ・ブラデサ

車輛

(一) ベチャブーン・ロムサック

(二) サテヒイブ・ラヨーン・チャンタブリー

(三) チエングマイ・ホルト・ターク・カンペンペット

(四) 公道の開發に伴ひ最近に於ける車輛交通の數量及び重量は一般且つ急速に増進した。

一九三六—三七年に於ける車輛臺數は次表の如くである。

乘用車	盤谷	地方
乗用車	四、〇八七臺	一、一一一臺
バス	一一二	—
貨物自動車	七八二	三、二八八
その他自動車	三一	二四七
自動自轉車	三八三	一一〇
合計	五、三九五	四、七六六

鐵道

一九三九年末には總車臺數一萬二千を突破してゐる。

二、鐵道 泰國には道路が發達しない割合に鐵道が廣く敷設されてゐる。一九三四年三月末に於て國有鐵道既設線の全長約三千百籽で、建設中のもの約三千六百籽。又、私設鐵道の全長は百九十籽である。主要線は北部線、南部線、東部線、東北線及びタノンチラIIコーンケン線である。

東北線は盤谷よりコーラットをワーンに到る六〇四・一三八杆(複線二八・四三八杆を含む)及びタノンチラ(コーラット郊外)とコーンケン間の一八四・二〇八杆で、更に現在コーンケンよりクン・パワビー迄の九一・五杆が建設中である。

北部線は東北線のバン・パヂーから分れてチェンマイに到る線(約六六一杆)と、支線バンパヂーとソワンカロークの間二十九杆及びバンスーとタリンググチャン間のラマ六世線約十四杆とであり、尙ほ建設中のものはクロイン・ランシットとバン・パヂー間(複線)の約六十二杆である。

南部線は盤谷ノイよりハード・ヤイを経てスンゲイ・ゴロックに到る馬來半島を縦断する蛇々約一、一四四杆を駛り英領馬來鐵道と聯絡して彼南及び新嘉坡に達してゐる。泰領馬來鐵道の支線としてはハード・ヤイとパダンブサーとの間約四十四杆、其の他の諸支線トソンのカンタン、カオ・チュムトングとナコン・シータマラート、ハードヤイとソクラー間、合計約百五十九杆がある。

右の國有鐵道各線はすべて同一經營下に在るが、政府は鐵道の大改良を計畫し、一九三五年三月我國に對して鐵道橋梁百六十四本、總重量千七百四噸を註文し、同年十月には貨車三百輛、更に一九三六年一月にはレール七千噸を發註し、他方、我國から鐵道省星技師、德永車輛課長等を招聘して技術の向上にも努力してゐる。

右の國有鐵道の外、盤谷とバクナム間の二十一杆、盤谷とメクロイン間の六十七杆、タールアとプラパイト間の十九杆等の私設鐵道、諸會社線八十杆、事業專用鐵道百九十杆があり、何れも地方的小鐵道で重要性は尠い。

海運

三、海運 泰國の重要開港場は盤谷と馬來半島のソクラーとの二港であるが、ソクラーは近年開港場となりて

日淺く未だ統計上に現はるゝ程の出入船舶を見ない。由つて現在では盤谷を以て唯一港と稱するも過言ではない。盤谷はメー・ナム河口を距る廿二哩の上流にあり、吃水一四・五呎以上の船舶は通じ得ず、爲に二千噸以上の外洋船に對しては河口沖合廿五哩のコーシー・チャン外港が中繼に用ひられてゐる。

盤谷への入港船舶噸數は諾威・英吉利の二國が壓倒的優勢を占め、一九三四―三五年度に於ては諾威船四八八、三五四噸、英吉利船四五〇、六三〇噸で、各々盤谷入港總噸數の三三%及び三〇%を占めてゐる。

之に次いで丁抹・日本及び和蘭の各船が夫れ々一六六、三三四噸、一二五、六一〇噸、一一七、〇一五噸となつて居り、泰國の船舶は第六位にあつて七七、七二四噸である。第七位以下は米國・支那・獨逸・伊太利・希臘・白耳義・佛蘭西、瑞典と云ふ順になつてゐる。

盤谷を中心とする海運界は一九三二年以後貿易の恢復と共に急速に好轉し、一九三四―三五年度に於ては未曾有の活況を呈した。

邦船の航路

船主	國籍	航路	寄港地	發航度數	使用船
○大 阪 商 船 運賃―横濱―盤谷 一等 二五〇圓 神戶―盤谷 二四〇圓 外に通行税一圓四〇錢	日 本	横濱↓名古屋↓大阪↓神戶↓門司↓基隆 ↓海口↓海防↓西貢 盤谷(復航は往航の逆)		客 船 每月 各一隻	盤 谷 丸 西 貢 丸

各國船航路

○三井物産 運賃 神戸↓盤谷 一等 二二〇圓 二等 一四〇圓 外に通行税 四〇錢 横濱、名古屋より盤谷迄の乗船券を發賣せず	日本	横濱↓名古屋↓大阪↓神戸↓門司↓盤谷 (復航は往航の逆)	客貨船 毎月各一隻	朝日山丸 明石丸
英印汽船會社 海峽汽船會社	英國	新嘉坡↓盤谷 新嘉坡↓盤谷	貨物船週一回 客船 週一回	二隻三、〇〇〇噸 クワラ號 カトン號
泰航業會社	泰	第一航路 盤谷↓バンドン 第二航路 盤谷↓新嘉坡 第三航路 盤谷↓トンソン 第四航路 盤谷↓コーチャン 香港↓盤谷↓新嘉坡↓ケーブタウン マニラ↓新嘉坡↓盤谷 上海↓マニラ↓西貢↓盤谷↓新嘉坡↓パ タビア↓ケーブタウン	貨客船週一回 右の同じ 右の同じ 右の同じ 貨物船月一回	一隻 七九九噸 三隻 三、九〇〇噸 一隻 六八六噸 一隻 五二二噸 三隻 一四、七一五噸
東亞汽船會社	和蘭	コーペンハーゲン↓ハムブルグ↓ロッテ ルダム↓アントワープ↓サザムブト コロンボ↓彼南↓新嘉坡↓盤谷 (復航は此逆)	貨客船 四週一回 貨客船 三週一回	三隻 一四、七一五噸 一隻 一四、七一五噸 六隻 三五、二七〇噸

就中、日本航路は日本品の輸入増加の爲め著しく活況を呈し、直接又は新嘉坡・香港經由にて一箇月五、六萬噸の日本貨物が齎らされた。しかし日本の外米輸入制限の爲め、それらの船は戻り荷が得難く、日本商品を盤谷にて荷上げし、盤谷で米を積込んで之を印度に卸ろし、而して印度で棉花を積んで日本に歸つてゐる。

主要航路

一九三九—四〇年度に於ける盤谷を終點又は起點とし、乃至經由する主なる航路は右の如くである。
四、航空 空運の便は比較的發達し、國內航路は既に一九二二年に開け、現在國內航空輸送は遞信省との契約下に泰國航空會社・泰國航空輸送會社が之を擔當してゐる。航路はナコン・ラチャシーマーからロイエット、コーンケン及ウドンを経てナコンパノムに到り、全距離六百二十軒である。

國際航空

國際航空に於ては盤谷は早くから極東の中心地となり、現在盤谷を中心に英・佛・蘭・獨の勢力が極東制空權の把握を目指し、我國も之に割込まうとしてゐる。英國はインペリアル・エアウエイズ、佛蘭西はエール・フランス、和蘭はK・L・M、獨逸はルフト・ハンザが歐洲・盤谷間を夫々毎週一往復の國際空輸をなし、和蘭線は伸びて蘭印諸島に到り、佛蘭西線は西貢、河内、英國線は新嘉坡・濠洲に到つてゐる。

日泰航空

我國は昭和十四年十一月卅日、泰國と日泰航空協定を結び十五年二月より東京⇨臺北⇨河内⇨ドーン・ムアングの順路にて途中二泊三日間にて達する豫定なりし處、運營開始に當り佛國より河内經由に異議を申出で、已むなく臺北より廣東經由、佛印海岸線より二十哩内外を離れた海上を飛び印度支那半島を迂回し臺灣に向つて北上し、東京、ドーン・ムアング間六千二百九十六軒を飛行することゝなつた。この變更航空路を數回試験飛行の上、五月下旬定期航空開始の豫定である。而して使用機は大日本航空株式會社の大和・そよかぜ・龍風號等で一週二回發着する計畫にな

つてゐる。

(一) 英國——濠洲間
 イムベリアル・エア・ウエーヅの經營で倫敦⇨インド⇨ラングーン⇨盤谷⇨新嘉坡⇨濠洲間を往復、週二回就航、倫敦・盤谷間所要七日。

(二) 佛蘭西——河内間
 エール・フランスの經營にてバリ⇨ラングーン⇨盤谷⇨西貢⇨河内間を週一回往復し、バリ、盤谷間所要日數八日。河内より西南航空公司經營の中法線に連絡し、廣東に達す。

(三) 和蘭——バタビヤ間
 和蘭のK・I・Mの經營でアムステルダム⇨ラングーン⇨盤谷⇨パレムバン⇨バタビヤ間を週二回就航。所要日數三日半。

(四) 獨逸——盤谷間
 獨逸のルフト・ハンザが柏林⇨ラングーン⇨盤谷間を週二回就航してゐるが歐洲戰爭勃發以來休航してゐる。

郵便電信
 五、通信 遞信機關として泰國には現在七六一の郵便局、六七五の電信局、二四の電話交換局、三つの無線電信局とがある。

有線電信線の延長は一九三三—三四年度現在、九、三四五、五九八軒である。無線電信局は盤谷とソクラーとクワンとに在り、前二者は泰國海軍部、最後のものは遞信省の管轄下にある。是等の無電局は泰と日本・獨逸・英國・佛蘭西・爪哇・比律賓・香港・印度との間に商業通信を行ひ、其の利用者は年々増加してゐる。

第四章 英領各地、自治領及び委任統治領

第一節 濠洲

一、概説

赤道を距て、我が日本列島の殆んど真南に在り、印度洋と太平洋との間に挟まれた世界最小の大陸、即ち濠洲である。同大陸はオーストララシヤの主要分を占め、完全に南半球に横たはつてゐる島狀大陸で、タスマニヤ島や大陸周縁の小島嶼と共に濠洲聯邦を構成して居る(左表参照)。其の面積は日本内地面積の約二十倍強であるが、人口は却つてその十分の一以下で、従つて其の密度の如きも約二百分の一である。

州及び地方名()内は首府	面積(方哩)	人口	
		一九三三年六月 國勢調査による	一九三七年十二月 三十一日推定人口
ニューサウスウェルス(シドニー)	三〇九、四三二	二、六〇〇、八四七	八四一
ヴィクトリア(メルボルン)	八七、八八四	一、八二〇、二六一	二、〇七一
クイーンズランド(ブリスベーン)	六七〇、五〇〇	九四七、五三四	一四一
サウスオーストラリア(アデレード)	三八〇、〇七〇	五八〇、九四九	一五三

ウエスタンオーストラリア(パース)	九七五、九二〇	四三八、八五二	四五	四五七、一一一
タスマニア(ホバート)	二六、二一五	二二七、五九九	八六八	二三八、九九〇
*ノーザンテリトリ	五二三、六二〇	四、八五〇	〇・九	五、三五四
オーストラリア首府地方	九四〇	八、九四七	九五二	一〇、二四八
計	二、九七四、五八一	六、六二九、八三九	平均 二二三	六、八六六、五九〇
*一九二七年行政上 西緯二〇度を以て北オーストラリアと 中央オーストラリアの二テリトリヤと 分つ。				中土人が約 五五、〇〇〇人 混血兒 二三、九五〇人

緯度から謂へば南回歸線は大陸の中央より稍々北に偏して通過し、大部分が温帯圏に屬してゐる。即ち濠洲は南緯一〇度と四〇度との間に在つて、日本の男鹿半島とヤツブ島より少し北の地點との間に相當する。斯かる緯度的位置や地形等の關係から蔓延した乾燥と謂ふ禍因が特に印度洋側に偏在し自然的に白人の入來を拒み、其の他の地理的條件も亦必ずしも彼等に適應してゐないにも拘らず、白人が此地を探檢し、領有し此處に植民したのである。其の結果原住民は其の文化を破壊され、其の最後の種族迄も絶滅に傾しつゝある。

土地の開発

英國が此地を領有して以來、農牧業・製酪業・鑛業及び林業等よりの原産物に於て夫々其の進歩を示しつゝあるが、土地開發の點から觀れば未だ幼年期とも謂ふべく、今日猶ほ幾多の未開發分野が残されてゐる。殊に熱帯地の開發の爲めには有色人入來の必要を痛感し乍ら、人種的偏見から「白人濠洲」のモットーの下に後進の我日本人等の移入を峻拒して居り、大なる空間、天然資源を徒らに死藏しつゝある。斯かる人種問題は勿論のこと、其の他政治、經濟的諸問題と雖も苟も西太平洋の對岸に位する隣邦たる以上、我國にとつて直接間接の關係を有たないものはない。況

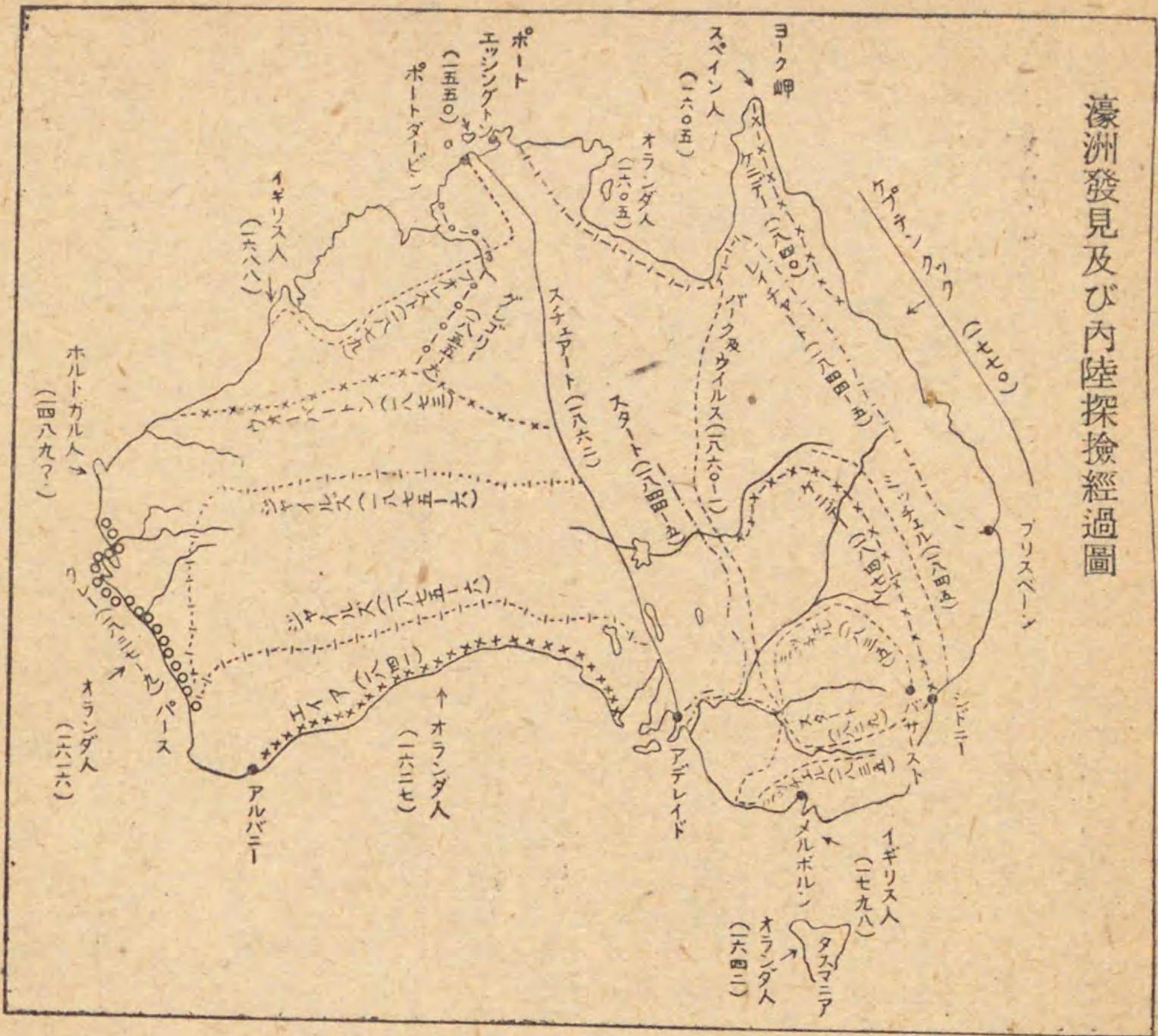
んや現下の如くアウタルキー(自給自足)の問題が喧しく叫ばれてゐる秋に當り、彼の地政學者エヴァルト・バンゼーの「國防科學」的見地から言つても我日本國民にとつて同大陸の如何なる事象と雖も之を忽諸に附すべきものではなく。

二、沿革

發見

地理的發見史を研究するものは誰しも十五世紀の終りの二十年間に遂行された彼の驚く可き冒險航海に感銘せざる者はなからう。先づ歐洲から西及び東の大洋航路が開通されて二大陸即ちアメリカとアフリカとが世界地圖の上に記入された。濠洲が始めて歐洲人の耳目に入つたのも恐らく此頃であらう。即ち此の方面の研究家コリングリッチの意見に據れば、コロンブスが米大陸發見の首途に先立つ事七年前、既に濠洲の西岸が海圖の上に示されてあつたと云ふのである。又大英博物館所藏の一四八九年日附の一古地圖には、ケープ植民地と同緯度に、マルコポーロの旅行(一三〇〇年)に基いて描かれた初期の地圖には未だ見當らなかつた濠洲に關する一條の海岸線が、マラッカの南部と共に記入されてゐる。併し地理學者テイラーは一四八九年の發見の日附に關しては猶研究を要する所であらうが、一五三六年に北部海岸の一部が歐洲人に依つて探檢されたことは殆んど疑を容れないと述べてゐる。併し一六〇五年(慶長十年)に或る和蘭人に依つてカーペンタリヤ灣が、其の翌年の初めにはウイリアム・ジャンツに依つて北岸の一部が夫々發見されたこと、又同年稍々遅れてスペイン人トールレスが今日彼の名を冠する海峡を航行したことなどは史實の明かに示す所である。

濠洲發見及び内陸探検經過圖



英人の科学的遠征隊

一六一六年以來和蘭人は濠洲の西海岸を探検視察し始めた。而して一六四二年にはタスマンがジャバから此の南方大陸を探検する目的を以て派遣され彼の遠征の結果、新西蘭とファンジーメンスランド即ち今日のタスマニヤとを地圖の上に加へた。併し當時貿易のみを目的としてゐた和蘭人にとつては、是等何れの土地も唯蕃人の住む無價値な所としか報告されなかつた。一六八八年と一六九九年に北西海岸を訪れた英人ウイリアム・ダムビーヤの與へた意見も同様悲觀的なものであつた。

然るに英人ジェームス・クックとジョセフ・バンクスとに依つて導かれた英人の科學的遠征隊が一七七〇年に肥沃なる東海岸全部を發見した爲めに先見的有望なる報告が初めて齎らされた。實に經濟的觀點からすれば此の探検は重要なものであつた。

つた。彼は東海岸に於けるボタニー灣やポートジャクソン等の重要地點を探検し、同方面の全地域に對しニューサウスウェルスの名稱の下に英國旗を掲揚した。而して一八一四年探検家フリンダースの提唱に基いて同大陸全體に對してオーストラリヤといふ一つの名稱が採用され、和蘭人のニューホルランドも抹消された。

流刑植民地

亞米利加の獨立戰爭の後、ロード・シドニーとバンクスとが亞米利加に於て失つた流刑植民地を此地に建設せんと計畫した。蓋し熱帶亞弗利加は其の氣候が白人にとつて餘りにも不適應であることが立證されたからである。一七八八年の一月、十一隻の船と七百人の犯罪者と二百人の海員とを伴つてキャプテン・フィリップ（ファルスト・フリート號座乗）がボタニー灣に碇泊し、斯くてシドニー附近の海岸平野の上に濠洲に於ける最初の流刑植民地の成立を見た。之が一八〇三年フランスの進出の噂に怯えてデルウエントへ部分移植が出来る迄の孤獨な植民地であつた。斯かる間にフリンダース・バス其の他の人々が海岸貿易を導き、タスマニヤも島であることが立證され、南オーストラリヤ灣も發見されて濠洲海岸の大概の輪廓が地圖に描出された。

一七八八年から一八一三年に至る二十五年間に於て政府の政策とブリュームウンテンスの特殊な構造とがシドニー植民地を海岸平野に限定してゐたが、之より前マカーサーがメリノ羊を移植し、又一八一三年にローソン・ブラックスランド及ウエントウァースがブリューム山脈を越え、バサルストが建設された時に家畜所有者の無統制な洪水が分水界の西斜面を占有し、それより南北へ廣く流れ込んで行つた。中央沙漠を除いては障礙物が無いこと、土人の無力なること移民の人種的一様性などが相俟つて他の何れの大陸に於けるよりも急速な進歩を齎らした。同時にミッチェルやスタートの如き探検家達がマレーリダーリング低地を開放し、後者は一八二九年から三〇年に互つてエンコンダー

灣に至る迄マツラムビヅィーリ側を辿つたのである。斯くて濠洲は流刑植民地の本質より非常な速度を以て離れて来た自由植民地に代つたのである。フランス人や和蘭人を恐れ乍らも次第に港が造られ、一八二九年と一八三六年とはスワンリヴァーと南オーストラリヤとが英人移民の渡來に對して自由植民地として初めて建設された。又メルボルン（一八三五年）、ハンター河谷等に新植民地が出来、是等は全體として成功を見たが其の程度には勿論差異があつた。即ちヴィクトリヤの富める地方、南濠の肥沃な中央高地及びリフトヴァレー（地裂谷）平原に於ける居住者達は南西濠洲のそれ等よりも比較的進歩を示した。要するに東部、南東部及び南西部の比較的多く降雨を見る諸地方の大部分では、牧畜が、鑛山發見時代前に既に確立して居たのである。

見銅・金の發

一八四二年に銅が南濠に於て、一八五一年には金がヴィクトリヤとニューサウスウエルズとに於て發見された。之れ以來歐洲より陸續として移民が渡來し、十九世紀後半には大なる發展を見るに至つた。即ち金の發見以來濠洲は一國家建設へと促進され、且つ農牧業の一大躍進を見るに至つた。其の發達は鑛山業者に食糧を供給し、又彼等は穀物栽培に投資し得たのである。一八九二年の金の發見以來西濠に起つた進歩も亦同一の理であつた。一方東濠やタスマニヤに於ては、既に自由移民は流刑移民制を廢止する程に充分強力なものになり、ヴィクトリヤは一八五一年に一分離州となり、一八五九年にはクインズランドが、而して一八五五年ニューサウスウエルズは責任内閣制度が承認され、一八五六年から一八五九年迄の間には、西濠を除く總ての植民地が責任ある議會政府を有つことになつたのである。

然るに尙ほ統一、植民者を増すこと、大陸の乾燥諸地方の探検及び占據と言つたやうな重要諸問題の解決が残され

てゐた。最後の問題は部分的にはエイア・レイチャート、ミッチェル、ケネディ、グレゴリー、ウイリス及スチュアート等に依つて解かれた。再度の探検の主なる動機は牧場を得んとする爲めであつたが、大に其の目的を達成することが出来た。

次に來る時代は動物の品種及び給水の改良に依つて、畜業を大いに進歩せしめた。農業も亦た乾燥農業肥料及び旱魃向の小麥移植に依つて一大進歩を示した。

三、政治

聯邦制の採用 十九世紀の五十年代頃、早くも濠洲の諸州は通商等に於て協同動作の必要を感じた。併し各州は夫々異つた制度を有し、人口稀薄な植民地と稠密な植民地との利害の對立或は自由貿易論者と保護貿易論者との對立等があつた爲め、長い間各州は其の隣接州にとつて不利な税金を屢々賦課するが如き獨自の道を進んで行つた。然るに其の後支那人の移民入來と、ニューギニアに於ける獨逸人の進撃とに對抗せんが爲め協同の防禦と共通の政策とを執るの必要が聯邦結成の問題を有利に導いた。遂にパークスの如き大政治家の工作をも經て各州は聯邦組織に同意し、一九〇〇年ヴィクトリヤ女皇の同意を得、聯邦政府は一九〇一年愈々活動に入つた。而して一九〇八年新政府に對する位置が選擇せられ、一九一三年にカンベラと命名せられ、一九二七年以來同地に於て聯邦議會が開催されてゐる。

聯邦制が採用され、顯著な諸結果を齎らしてゐるが、就中政治的な統一の結果は今や諸方面に於ける統一を伴ひつゝある。例へば大戦の如き事蹟を始めとし、交通・國防・産業及び立法に於ける協同動作は、濠洲諸州の住民が實に

聯邦組織

一の聯合國民、一の國家的民族に歸一しつゝあるを示すものであつて、一九四〇年の強制訓練制度實施の如きも其の顯著な一例である。

行政 彼の母體州たるニュー・サウス・ウェルスは、最初は全く總督個人に於て統治されてゐたが、一八二五年に至り、倫敦に於ける植民省に依つて任命された數人の議員を有つ立法會議が設立された。而して代議政府は漸く一八四二年に開始されたものである。十九世紀の五十年代のゴールド・ラッシュの間に自由の精神の深く滲み込んだ幾多の移民が濠洲に渡來し、新しい箇條が英本國に做つて編成された。概言すれば之が現存諸條件、即ち聯邦及び州政府の基礎となつた。

斯くて現在に在つては英皇帝が行政權を有し、總督が之を代行し、内閣が總督を補佐して一切の行政を掌つて居る。内閣は下院に於ける多數黨の首領を其の首班として議會に對して責任を負ひ、聯邦政府は關稅・通商・貿易・國防・外交・移民・郵政・仲裁々判等、各州共通の事項を掌つてゐる。

白濠主義と移民問題 現在の政治問題は、其の人の種の物質的背景よりも他人種排斥に關する輿論に依存してゐる所が英國の領土の中二箇所、即ち濠洲と南阿とにある。後者に於ては問題は黑人を廣い海岸地帯の範圍内に閉ぢ込めることである。但し同地帯では氣候状態は白人よりも寧ろ黑人に適してゐる。併し濠洲に於ては問題はマレー人・印度人・支那人及び日本人を入國せしめぬ様にすることである。何れの場合も白人が其の土地を自己の子孫に對する遺産として所有したいと云ふ希望を明白に打明けてゐる。

爾來濠洲の住民は制限政策を執拗に踏襲して來た。一八九六年までは日本人は自由渡來を許されたが、以後此の制

他人種排斥

限中に包含された。されば全人口の約九九%迄が歐洲系のもので、其の内九〇%以上が英國系或は濠洲生れの彼等の子孫である。此の國には加奈陀に於けるケベックの佛蘭西人區域とか、南阿のボア人居住地の如く外國人の城廓が出来るなど、云ふ問題は無い。

原住民は白人の移住以來非常な迫害を受け其の數を著しく減じた。其の如何に甚しかつたかは、今世紀の初頭に至る迄「濠洲紳士」の豪快なスポーツが獵銃に據るカンガル―狩と土人狩であつたことに見ても明かである。素より正確な數は不明であるが原民族は目下約五五、〇〇〇人で、同系統の混血者三三、九五〇人を加へても八萬を超えないであらう。又亞細亞人の數も少なく、恐らく三五、〇〇〇人乃至四〇、〇〇〇を算するに過ぎず、其の中支那人が最も多數で一七、〇〇〇人と報ぜられて居り、日本人の如きは極めて少數である。

亞細亞の移民に對する聯邦の態度 濠洲に於ては最初開發をなすに當りて勞力の不足を痛感し、賃金の低廉な東洋人労働者を旺んに歓迎してゐた。こゝに於て白人労働者は大いに脅威を受け、有色人排斥の聲が次第に強調され、一八六一年ランピング砂金地に於て多數の支那人労働者が慘殺される迄に至つた。一八八五年に先づカナカ人の移民が禁止され、次で支那人の労働者も最初ヴィクトリア及ニュー・サウス・ウェルスの兩植民地に於て入國を禁止されるに至つた。斯くて東洋人の排斥は全濠洲に擴まり、遂に一九〇一年聯邦政府の誕生と同時に全濠洲に畫一的な有色人排斥法が設けられ、愈々白人濠洲主義の徹底を見つゝある。斯くて新移民の杜絶となり、東洋人は漸次その數を減じつゝある。一九〇一年の現行移民法によれば、有色人は歐洲語の書取試験に合格しなければ入國の許可がない。而かも右の歐羅巴語と云ふのは孰れの言語と特に指定されてゐない所から、實際上には入國禁止と同様な効果がある。そこ

カンガル
狩と土人狩

で遂に日本政府の抗議する所となり、其の結果一九〇五年（明治三十八年）日濠の間に漸く妥協が成立し、日本政府は旅行者・學生・貿易に従事する商人、竝に濠洲政府より特に許可を與へられた職業、例へば眞珠貝採取等に従事する者に限り旅券を下附し、又濠洲政府は日本政府の旅行券所持者に對しては、特に入國に際して歐洲語の書取試験を課さないこととなつてゐる。

移民の抑制

濠洲に於ては、各州は中央政府に對して合衆國に於けるよりも遙に大なる權利を有つてゐる。一方に於て聯邦政府は移民を抑制してゐるが、假令之を排斥しないにしても各州は移民に對して禁止的法規を以て臨むことが出来る。完全な市民としての通常の權利を享有し得る資格に就ては、各州各別の標準がある。労働黨が實際上聯邦政治の支配權を握つて居る時には、殊に労働組合が支那人・日本人及び印度人労働者の入國に斷乎として反對すると云ふ事實あるが故に、移民問題解決の困難を一層甚しくしてゐると謂ふべきであらう。

日本人の南方發展に對する濠洲人の見解 日本が殊にマーシャル群島のヤルト島に於ける支撐點を領有するに至つたことは、一方では濠洲及び新西蘭にとり、又他方では合衆國にとりて大なる心痛の源となつた。蓋し同島は日本の本土、ニュージラランド及び濠洲の各最短距離の港から殆んど等距離にあるからである。即ち同地はホルルルから約二、一〇〇哩、香港から三、五〇〇哩、桑港から四、〇〇〇哩であつて、日本は從來よりも約二千哩オーストラランヤに接近した譯である。濠洲國民の恐れる所は斯かる距離の接近は太平洋中の溫暖なる土地を日本人が侵略する端緒を意味し、日本人は其の支撐點からニュージラランド及び濠洲の政治に對し、從來よりも強力なる壓力を加へて白人と同條件で労働裡に競争することを許可されるやうに迫るであらうと彼等は考へてゐるのである。

太平洋を支配することが單に戰略上の意味に於てのみならず、白人とは異り日本人自身が熱帯地方の植民に適する者であることが、彼等の日本人侵入を懸念する所以でもある。他國の領土に對する日本人の種人的侵入を助けるものは、日本人の生活法と熱帯地方に於て白人農場經營者が氣候に馴れた労働者を是非とも必要とすることである。而して斯かる侵入は必ず日本政府の同情を受ける所となり、且つ平等の待遇を要求する根據となり、更に若し戦に勝つた場合には領土的支配權を要求する根據となるであらうことを彼等は恐れてゐるのである。

四、軍 備

機械化陸軍

陸軍 英國陸軍は寡兵機械化主義に依り、陸軍政策である國防の要求と國際義務の履行とに適應せしめてゐるから軍事豫備教育と機械化とに全力を注いでゐる。陸軍は次の三大別により夫々の任務を持つてゐる。

(イ) 正規軍 常備團體は野戰軍の骨幹で外征に主用せられ、平時本國に駐屯するほか海外植民地等の守備に任じてゐる。

(ロ) 地方軍 戦時必要に應じ議會の協賛を経て外征に用ひ、平時は教育訓練の爲め基幹部隊の下に時々召集して訓練を行ふ、其の回数は次の通りである。

第一年度	四十五回	外に野營八——十五日
第二——四年度	毎年二十四回	同右

最近正規軍の缺陷を補ふため、地方軍の任務擴張を行ひ、正規軍從來の海岸防禦の任を地方軍に擔任せしめ、又地

方軍誓約法規を改めて、外征の爲め正規軍に補充し得る様にした。

(ハ) 豫備軍 正規軍豫備(現役終了者)將校補充豫備及び補充豫備(動員の際將校及び技術兵に補充する者)民兵(正規軍豫備使用後正規軍を補充する者で海峽諸島植民地も含む)に分れる。濠洲陸軍は土民軍を合して常備兵力約三萬一千名である。

海軍 濠洲聯邦は昭和九年來、相次いで國防計畫を發表し、更に同十三年には新國防擴充三年計畫(一九四一年完成)を發表し、更に同年國防省を新設して海軍擴張に一層拍車を掛ける様になつたが、現在艦船の總計十三隻、約五萬噸で種別は次の通である。

巡洋艦 六隻 驅逐艦 五隻 護衛艦 二隻

空軍 現在約二百機(三箇中隊一千名)であるが、國防擴充三年計畫に基き一九四一年までに、十八箇中隊整備の豫定である。

五、自然地區

氣候

氣候 濠洲大陸は北部の約五分の二が熱帯に其の他の部分が溫帯に屬してゐる。併し實際には地形や海洋に對する位置等のために複雑化してゐるが、シドニーに於て年平均華氏の六三度(攝氏一七・二度)である。夏の十二月には太陽は大陸の眞上に輝き、タスマニヤを除く殆んど全大陸が貿易風帯に入り、最も多く東乃至東南風が吹く。但し大陸中心部は暑熱甚しく、其の北西部は季節風的となる。冬は大陸の北部と東部とが貿易風帯内に在るが、南海岸は西乃

至北西反貿易風下となる。

東部諸高地は太平洋からの貿易風の内地侵入を阻止し、西部高原も亦夏の季節風の侵入を妨げてゐる。従つて唯大陸の周縁部のみが充分な降雨を有ち、内奥部は到る處不毛となる。即ち雨量は東岸及び北東岸地方に最も多く、年平均一、五〇〇耗以上で、即ち我が京都の雨量或はそれ以上に匹敵するものである。

自然的植物景域 氣候區域と植物景域との間に密接な關係のあることは勿論であるが、而かも此の自然的植物の分布は、農業の可能性に對して極めて有益な示唆に富むものである。

本大陸に於ける特徴ある樹木は種々のユーカリ樹であつて、之に次でアカシヤ及び不毛地域の鹽性叢林と青色叢林とがある。ユーカリが廣く分布してゐるので各地植物景域は多少似通つてゐるが、此の點を除外すれば夫々の景域に特有な景觀が認められる。

地勢區 海岸線の單調な本大陸は起伏も一般に少く、六〇〇米を超える處は僅に五%と云はれ、全面積の約四分の三が二〇〇乃至五〇〇米等高線間に横たはつてゐて、地勢上次の三地區に分つことが出来る。

(イ) 西部高原 之は大陸の約三分の二を占め、主として古岩より成り、其の殆んど全部が海拔二〇〇米以上に互り、西濠の全部、南濠の大部分及び北領の大部分を包含し、唯西海岸の或る部分に、例へばパース附近の如く狹隘な海岸平野の發達を見る。併し此の高原の南岸は斷崖を成して直接海水に臨んでゐる。氣候が乾燥して居るため、内部と南海岸に沿うては何等河川が無く、高原の南部を通ほる大陸橫斷鐵道を千六百軒以上走つても、尙ほ一個の永久河川に出遇はない程である。されど北部では若干の河川が發達し、其の一部に小蒸汽船の通航を許すものもある。

(ロ) 東部諸高地 北のヨーク岬から南のガムビニア山附近に至る此の山地は一般に變化に富み、主として古生代の皺曲諸岩から成り、之が火成岩塊、殊に花崗岩等をも含んでゐて、西部高原の古岩と同様、諸處に礦物資源を埋藏する。併し夾炭層は主に古代岩層間の地質的盆地中に在る。概して諸高地は太平洋に面して急斜面を成し、内陸側に於ては緩かな長い傾斜を有つてゐる。東海岸の北半では海岸の大部分に沿うて山脚が直ちに海に洗はれてゐるが、南半に於ては一般に狭い海岸平野を見る。

岩石多き東海岸

海岸斜面にとつて重要なことは、高地中に若干の狭間が在つて其等の海岸諸都市に廣大な背後地を與へてゐることである。例へばニューカッスル背後のカッシルス・ゲート、ゴールバーン附近のジョージ・ギャップ湖及びメルボルン背後のキルモア・ゲート等は其の顯著なるものである。此の岩石多き東海岸に沿うて、最近の地質時代に沈降した溺谷の地貌が無數に發達してゐて、優秀な港灣を提供してゐる。ポートジャクソン即ちシドニー港灣は其の好例である。又太平洋に注入する數多の小流が發達してゐて、其の或る物は砂嘴のため交通は幾分阻害されてゐるが、海洋から若干の間は舟運の便がある。就中クラレンス、リッチモンド及トゥイードの諸河川を含む所謂北部河川は其の最も重要なもので、ブリスベーンは河港の代表的なものである。

(ハ) 中央諸低地 西部高原と東部諸高地の内陸斜面との間に在るが、其の邊緣は漸次兩者に移行してゐる。大部分は比較的若い岩層から成るものでマレー・ダーリング盆地は一部分往時の海洋の支灣に堆積した第三紀層より成り、一部分は其の後の沖積層を以て被はれて居る。併し大體更に次の如く幾分明瞭な地區に再區分出来る。

マレー・ダーリング盆地 之は濠洲に於ける重要な河系を有し、マレー河と其の支流マッラムビジー河の兩者は濠

掘抜井戸

洲の最高山地に發源する爲め年中涸渇することは無い。併し季節に依つては水量に變化があつて、マレー河は七月から一月に至る間はアルバリーの上流迄も普通航行可能であり、マッラムビジー河では河用汽船の多くはヘイ以下に於て可航である。ダーリング河と其の支流のラチラン河とは共に東部山地の西斜面を流れてゐるが、ダーリング河の如きは水量極めて不規則で、唯間歇的に舟楫の便が有るのみであつて、洪水時には六十哩の幅にも達すると報ぜられて居り、河口は浅く交通は大いに阻害されてゐる。尙マレー・ダーリング河は益々灌漑用に利用されるに従つて、其の水運は却つて低下しつゝある。又此の盆地の北部は掘抜井戸地帯に互るものである。

エイア湖盆地 内陸流域であつて非永續的な流水を有する若干の河川が、エイア湖に注ぎ同湖は鹹水を湛へてゐる。湖水の爾餘の部分は普通鹽性平野となつて居り、盆地の北部は掘抜井戸地域に横つてゐる。此の盆地とカーペンタリヤ灣周縁の低地とは白堊紀の一大海灣の位置を占め、其處に堆積した成層岩が其の後僅に褶曲して廣大な、而かも浅い向斜層を成し、其の結果有名な「大掘抜井戸盆地」が構成されたのである。

カーペンタリヤ灣周縁の諸低地 掘抜井戸地帯の北部を占める。

南濠の地裂谷 之はスペンサー灣、トレンス湖及び附近の重要な小平原を包含し、南濠諸高地に依つてマレー・ダーリング盆地と距てられてゐる。

六、産 業

鑛業 今日牧畜業者が、廣く分布してゐるが、多數の白人移住者を最初に濠洲に引寄せたものは鑛物富源、殊に金

の發見であつて、金の産額は現在も鑛産中白眉であつて、其の産出額は一九〇三年頃その絶頂に達し、其の後一時低下しつゝあつたが、近年再び稍々上昇し、年額一千萬乃至一千二百萬磅を上下して居る。石炭の産出額は近年七百萬乃至八百萬磅であり、尙ほ此の他銀・鉛は五百萬乃至六百萬磅、銅は約百萬磅、錫は八百萬磅を上下して居り、亜鉛も多少産出する。鐵鑛は廣く分布して居るが、多くの場合その最も豊富な鑛床が石炭の埋藏地から遙かに離れて居るため鑛石の精煉は現在殆んどニュー・サウス・ウェルスの炭田諸都市に局限されて居る。

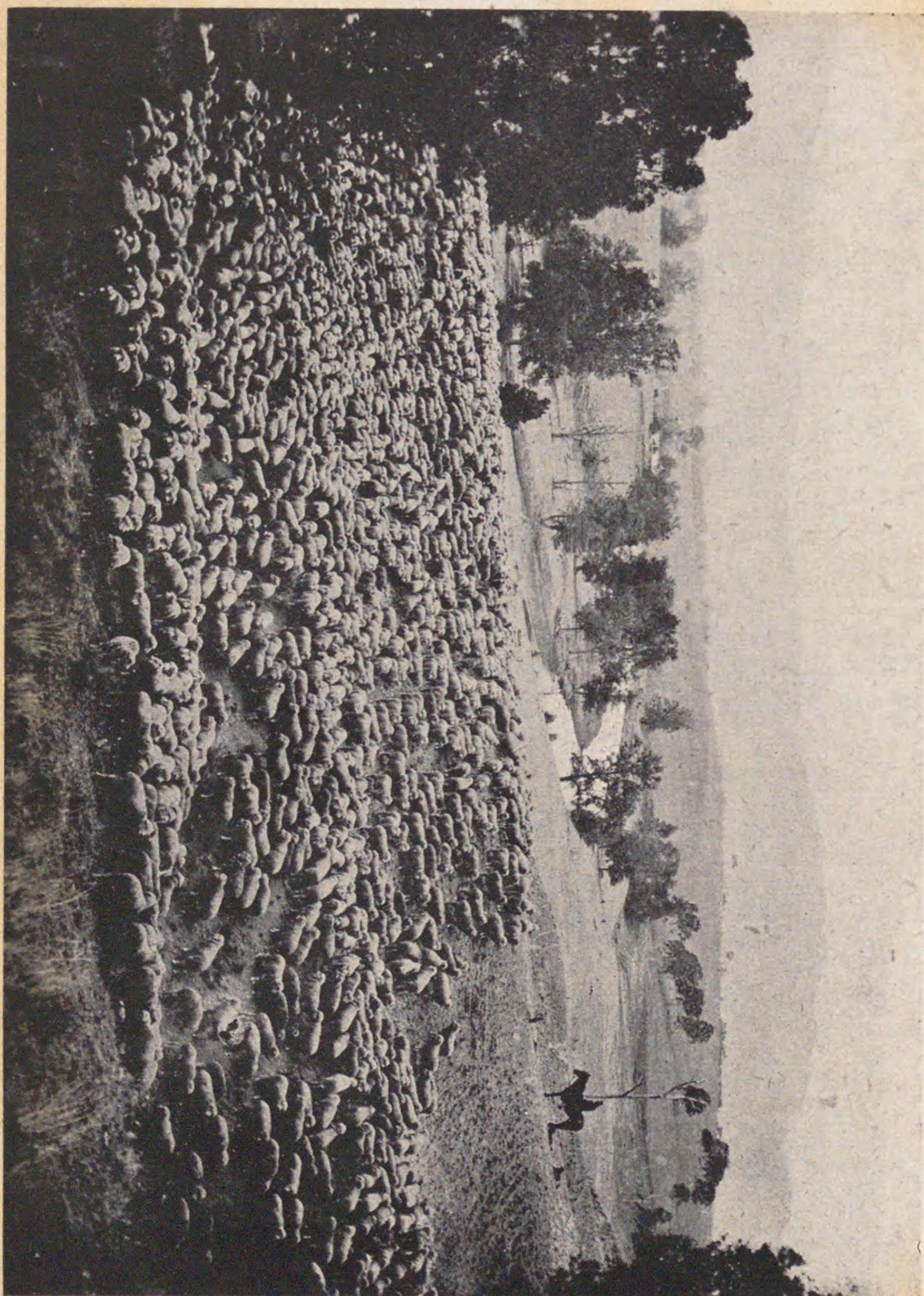
濠州の鑛産額は一九三一年には一、三四〇萬磅に低下してゐたが一九三六―七年には二、七三八萬磅に達した。

林業 濠州は天然の林材に豊富な大陸ではなく、良材樹木の森林地域は約二、四五〇萬英反で聯邦の約六〇分の以下であつて、公式の計測に據れば約一・二九%である。南オーストリア州とニュー・サウス・ウェルスの森林は面積の割合に良材を産出する。森林は木材を産出するの外、多量の薪材・ユーカリ油及び製革用の樹皮を産出し、就中年々多量の堅材を輸出するが、軟材をば其の約四倍輸入してゐる。

牧畜―羊 羊毛生産用の羊には極端な寒冷さを有たない比較的寒い乾燥した氣候が必用である。故に南半球の温帶的草地が其の目的に副うてゐる。併し北半球の氣候は理想的な飼羊地となるには冬の氣候が寒冷過ぎるのである。濠州の飼羊地ダッポに於ては其の氣温は七月の四七度(攝氏八・三度)から一月の七九度(攝氏二六・一度)の間を上下してゐる。羊毛用羊は比較的貧弱な草を食して生育する。ところが雨量一〇吋(二五四耗)以下の降雨地では草その他の糧秣は不充分となり、三〇吋(七六二耗)を甚しく超え、たとへば四〇吋位、即ち約一、〇〇〇耗以上になると、草が美味に過ぎ羊は一種の病氣に罹る恐れがある。乾燥條件が羊毛の生産に好適なるにも拘らず羊群夫れ自體は瘠衰へ

飼羊地

濠州の羊放牧



羊毛産地

(す示を約制的候氣) 布分羊の洲濠



時〇三至乃〇一量雨てり在に内帯温は地羊牧
 時〇二量雨は牛)るれさ限局に内線量雨等の
 す示を頭萬〇五二羊は點各(る居に帯地の上以

る傾向があるので更に寒冷な雨の多い諸地方、例へばタスマニア等から絶えず強健な羊を以て補充する必要がある。
 羊毛用の羊は本来の英種羊とメリノ羊及び是等の雑種であるが、雑種は羊毛のほか羊肉をも供給するに役立つ。羊

毛用羊の繁殖は濠洲に於ける農牧的産業のうち最も重要なものであり、且つ最も古いものである。濠洲は世界に於て最大の羊群を有し(一九三七年の終りには一三、八五四、〇〇〇頭)、世界羊毛の約五分の一(一九三七年には約九八二百万封度を産出し約七五九百万封度を輸出した)を産出する。其の産地は就中ニュー・サウス・ウェルス州が第一位で、ヴィクトリア、クイーンズランドの二州が之に次ぐ。

其の他家畜 牛の飼養は羊程に重要な産業ではないが、濠洲では約一、三五〇萬頭を數へ、食用牛の飼養は北クイーンズランド、北濠洲及び西濠洲のサヴァナの牧畜地に盛んであり、牛酪用牛は温帯の更に雨の多い部分に飼養され、殊にヴィクトリア及ニュー・サウス・ウェルスの東部諸高地の海岸側に見られる。

馬は草地に生育し其の數約一八〇萬頭で、主として農耕用に重用されてゐる。

豚は正常な條件の下では約百二十萬頭を超え、主としてヴィクトリヤ、ニュー・サウス・ウエルズ及クインズランドに於て見られる。

農業 一九三〇年頃は農業は其の産出價額に於て牧畜と伯仲してゐたが、今や之を凌駕した。併し耕地は全面積の二%に過ぎない。其の主なるものは小麦を最大とし、燕麥・大麥・玉蜀黍これに次ぎ、その他馬鈴薯・甘蔗・甜菜・葡萄・果實等が多く、又牧草の産出も相當多し。

農産額 種別	作付面積 (單位千エーカー)		收穫 (一九三六―七年)	
	面積	收穫	重量	價值
小麦	一一、三一七	一五、三九〇	單位千ブッシェル	
燕麥	一、五二五	一六、六六二		
大麥	四七〇	七、三三七		
玉蜀黍	三一八	七、二四六		
牧草	三、一〇一	三、四七八	單位千噸	
馬鈴薯	一三〇	四六一		
甘蔗	三五九	五、四四六		
甜菜	三	三一		
葡萄類	一一三	四〇九 (單位千グレーブ噸)		
果實類	二七八	八、五一七 (單位千磅)		

小麦は作物中抜群の重要さを有し、其の一部は日本へも輸出される。生産地帯は全然熱帯外に位置し、殆んど全く十吋と三十吋の等雨量線の間中に在つて、即ち主として地中海的氣候と温帯草地氣候との地域に在る。燕麥は小麦に

適する地方よりも濕氣多く且つ冷涼な地方に發育し、従つて其の半はヴィクトリヤに栽培され、大部分は飼料となつて居り、大麥は主に麥芽用のもので漸次増産の傾向にある。玉蜀黍にも適する氣候の地區があるから將來性のあるものと見られ、甘蔗はクインズランドの温暖な海岸帶狀地に盛んに栽培され、果實は其の生産時期が北半球と正反對なる爲め歐洲市場にも供給され、ヴィクトリヤ及タスマニヤから多く産出し、葡萄畑は南濠高地の傾斜地とマレー盆地の灌漑地とに特に多し。

掘抜井戸と灌漑 濠洲の如く、廣大な面積に互つて雨量が甚だ少く且つ僅に降雨があつても年に依つて不規則な分布を成す處では、貯水と灌漑とは産業上極めて重要な事柄である。濠洲は幸にも掘抜井戸地帯の若干を有して居り此の地帯は地質時代の海の灣入の古い位置に當る所で、此處には多孔質の砂岩が堆積し、其の上の不透過性の青粘土と其他の岩石が重つて居る。水は上層の粘土層を貫く迄は此の多孔質の砂岩の中に閉塞されてゐる。

河川灌漑事業はマレー盆地に於ける重要は作業で、其の水の使用はマレー水利協定に従つて一九一四年以來調整され、且つ一九一七年以來灌漑と舟航計畫とがマレー河委員會に依つて統制されてゐる。此の他濠洲には若干水利事業が行はれて居り、尙ほ多數の動物群用及び家庭用の目的の爲めにも之が實施されてゐる。

漁業 濠洲には肉類が極めて豊富で且つ其の價格も低廉な所から、住民は殆んど魚肉を必要としない。従つて水産は最も振はない生業の一つになつてゐる。唯木曜島と西濠のブルームとに於ける眞珠業は世界的のものとして知られて居る。流石の有色人排斥國濠洲も、斯業保護のため止むを得ず木曜島とブルームとは、海上生活者と云ふ解釋の下に日本人に眞珠業を許し、殊に木曜島には目下日本人漁夫數百名を算して居る。

日本人漁業

國內工業の
壓迫

工業 工業者の数は農牧者よりも多いに拘らず其の發達は微々として振はない。大戰を契機として毛織工業・硝子工業・陶器製造業・紡績業等の輕工業は一時勃興を見たが、再び衰へ、保護關稅によつて漸く其の餘命を保つ状態である。斯かる不振の要因は、人口少くして大量生産の不可能なること、労働者に對する條件が餘りに有利なること、海外市場への輸出の不利なること、進歩したる先進國の製品が濠洲に輸入され、國內工業を壓迫すること、運輸交通の不便なること及び科學的知識の乏しきこと等々に基く爲めであらう。

産業別	産業別生産價格(單位一千磅)	
	一九三五年	一九三六年
農業	七五、二〇〇	九一、四〇三
畜産	八九、七〇〇	一〇五、四九九
酪製品、家禽、養蜂	四八、五〇〇	四九、八八五
林産及び水産	一一、〇〇〇	一一、七六五
鑛産	二三、五〇〇	二七、三八一
工業製品	一五五、九〇〇	一七〇、八一
計	四〇三、八〇〇	四五六、七四五

人口 一八五〇年即ち金の發見前には人口は僅に四十萬を少しく超えて居たに過ぎなかつたが、一八六〇年迄には一四五、五八五人となり、一九二一年の國勢調査に據れば土人を除いても五、四三五、七三四人に達した。而して一九二六年の末には六百萬を超え、一九三七年の末には推定人口六、八六六、五九〇人となり、其のうち土人の数は約五萬五千人、混血人約二三、九五〇人と報ぜられてゐる。死亡率が低い爲に自然増加は年々一千人に對して一四・四と謂ふ急速さを示してゐる。然し乍ら平均人口は未だ一平方哩に就き二人以下に過ぎない。

此の自治領の隆昌は同國の農牧業に大いに依存して居ると雖も、三人のうち唯一人のみ其の田舎に居住する割合

であつて、全人口の殆んど半ばが六個の主要都市に密集してゐる。全體として人口の九五％は温帯地方に居住し、熱帯濠洲の比較的大なる部分が無人状態である。即ちカルゴリリ及ブロークンヒルの鑛業中心地を除いては、年雨量一〇吋以下の濠洲乾燥中心部にも亦殆んど居住して居ない。大陸の三分の一以上を占める乾燥内陸部は恐らく鑛山業に非らずんば發達し得ないであらうが、既に居住されてゐる温帯諸地方や、又は雨量豊富であるが現在殆んど居住されてゐない熱帯地方に於ても、尙ほ將來大なる發展を爲し得る空地がある。

白人濠洲主義を採用し來つた爲めに、人口の九九％以上が白人である。濠洲は今や次の二つの重大な問題に直面してゐると言ひ得る。即ち熱帯諸地方が有色労働者の援けなくして果して效果的に開發し得るであらうか。又今日未開ではあるが、亞細亞人にとつて望ましい熱帯諸地方が一般に知れ渡つた時、彼等の渡來を合理的に防ぎ得るであらうかの問題である。

七、貿易

濠洲の海外貿易は英本國及び其の屬領との貿易が大部分で、輸出に就て謂へば近年英本國のみでも約四四％を占め、諸外國の内では佛蘭西・日本・合衆國・白耳義・伊太利及び獨逸等が主なる顧客である。輸入は殆んど二分の一が英本國、四分の一が合衆國からである。

輸出品 輸出品は農牧業の食料及び原料品で、羊毛・冷凍肉及びチーズは濠洲の四大輸出品と謂はれ、近年に於ては輸出總額の八〇％を超え、其の他主なる物として金・皮革類等がある。殆んど總ての主要なる輸入品は工業製品で織物

類・鐵類・石油・自動車及び其の部分品・機械類であり、織物類は綿製品が主である。輸入品の内、少數のものは茶・軟材の如きものであるが、是等は將來濠洲に於て生産し得るものである。以上の貿易品に依つて知らるゝ如く、濠洲の工業は先進國に比すれば未だ原始的生産階梯に在ると謂ふべきである。

港 自治領の外國貿易の甚だ大なる部分はシドニー、メルボルン、アデレード、ブリスベーン及フリマントル（パース）の五つの首府及び港を通じて行はれてゐる。即ち是等五都市は全貿易の九〇%以上に達し、シドニーだけでも全體の三分の一を占めてゐる。其の他の比較的重要ならざる諸港を大體貿易順に列擧すれば、ニューカッスル、ポートバイリ、ホバート、ジローン、ウォラロー、タウンズヴィル、ラウンセストン、バンバリー、ロックハムプトン等である。

八、交通

鐵道 濠洲の鐵道系統は數個の獨立地點、即ち各州の首府の周圍に次第に發達したもので、其の軌條幅は頗る雜多であつて、之が現在の濠洲鐵道の大缺點となつてゐる。例へばクインズランド鐵道は三呎六吋の狹軌であり、ニュー・サウス・ウェルス鐵道は標準軌道即ち四呎八吋半であつて、シドニーからあらゆる方面に放射してゐる。ヴィクトリア鐵道は五呎三吋の廣軌であつて、メルボルンから放射して居り、南濠鐵道は是等總ての三軌道を併用してゐる。而して一九一七年に完成した大陸横斷鐵道は標準軌條を以てポートアウグスタからカルグーリに連絡してゐる。

道路 濠洲は今日尙ほ道路の充分な發達を見ない。海岸に沿うたプリンス・ハイウエーはシドニーからメルボルン

やアデレードに至る鐵道に對して補助的なものであり、其の他の諸道路も鐵道の代りと云ふよりは寧ろ之を養ひ、且之を補足してゐるのである。幸にも濠洲の大部分は平坦で永久の水路を有つ所が少く、従つて乾燥期間には至る所自動車を利用せられ、而かも殆んど限定された道路を使用することなく隣接諸州が交通し得る。尙近時航空路の著しき發達を示し英本國との間にも既に開通されてゐる。

第二節 ニュー・ジーランド（新西蘭）

一、概説

新西蘭は濠洲大陸の東南方南太平洋に於ける南北二大島と數個の小島嶼より成り、濠洲と異り火山多く、温泉に恵まれ、山勝ちで急湍をなす河流、繁茂した林相等、風光明媚、氣候も亦一般に溫和で、殊に北島の風土は頗る我が日本に似て居る。慍惇な半面、工藝的才能あるポリネシヤ人中のマオリ族の郷土であつて、今から僅か百年前に英國が其の主權を宣言した所であり、一九〇七年以來自治領（ドミニオン）となつたもので、宗主權は英皇帝に在り、その任命された總督が同島の統治權を代行し、自治植民地は九つの自治州（プロヴィンス）に分たれてゐる。人口は甚だ稀薄で、日本内地の約三〇分の一であり、其の一人當りの外國貿易額に於て世界第一位を占むるを以て有名である。

自治領區分

(イ) 一八四〇年英國の主權が宣言された自治領の本土を構成する島嶼、即ち北島、南島、スチュワート島、チャ

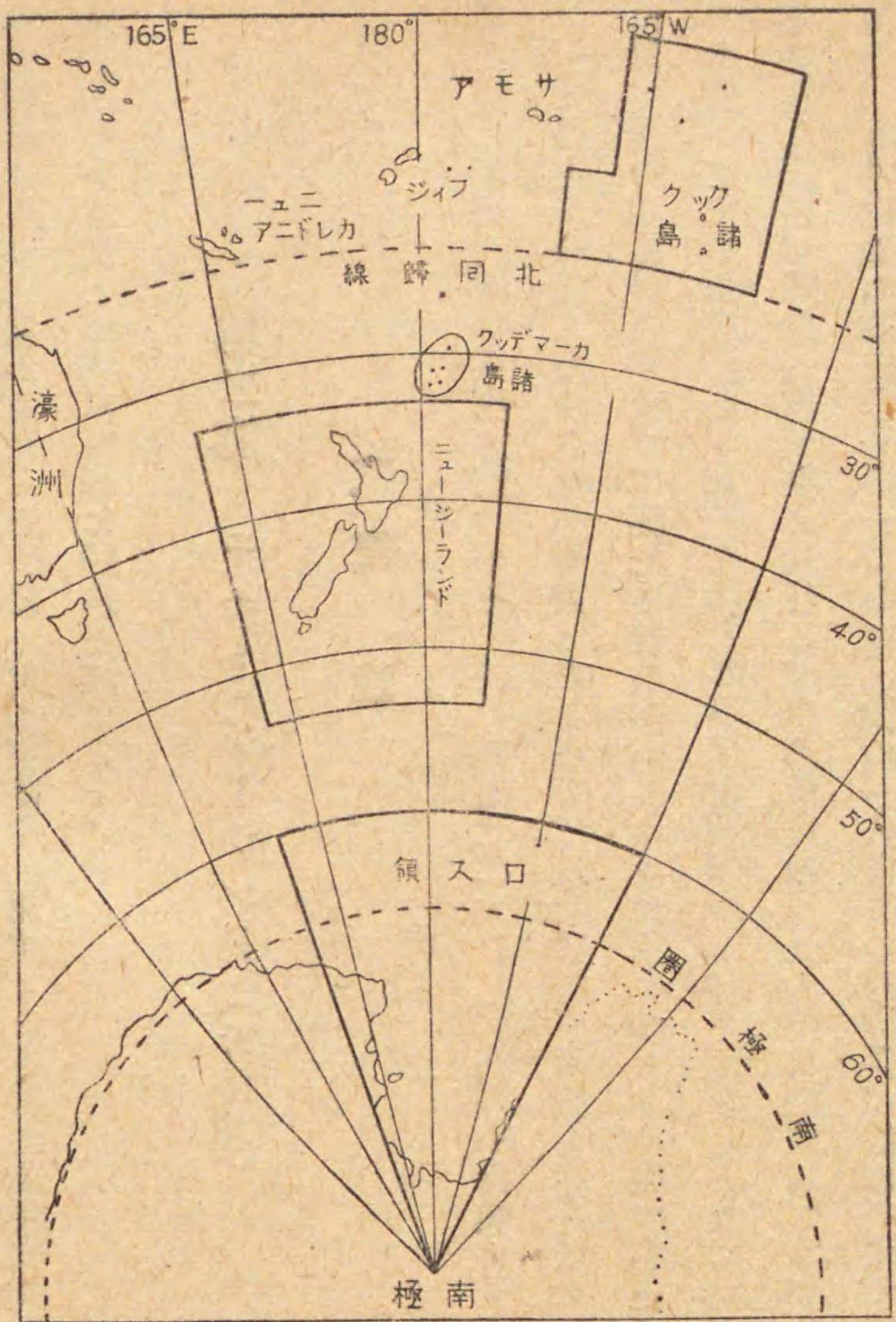
トタム諸島及び是等の隣接島嶼合せて其の面積一〇三、七二二方哩で、我國の本州と四國とを合せた位のものである。
(ロ) 一八四七年新西蘭に編入された外洋諸島、即ちオークランド諸島、アンチポーズ諸島等々。

(ハ) 其の後更に附加された諸島、即ちカーマデック諸島(一八八七年)、クック諸島(一九〇一年) 其の他の太平洋諸島。

(ニ) 南極の大なる扇形部分圓即ちロス屬領。(ロス領を含む南極地方の領土權に關しては國際法上論争のある所である)。

(ホ) 國際聯盟よりの委任統治領、即ち舊獨逸領西サモアを統治し、且つ英本國、濠洲と共にナウル島を統治してゐる。

(ヘ) 一九二五年十一月四日以後、ユニオン群島はギルバート及エリス群島植民地より除外され、新西蘭總督の統治下に在る。以下本土の南北兩島に就て概説する。



南極地方の領土權

二、沿革

発見

初期の発見 和蘭の航海者タスマンは一六四二年(寛永十九年)十二月新西蘭を発見した。彼は同年八月バタビヤを出帆し、タスマニヤ島を発見した後、更に東の方に向ひ彼の所謂「高山多き國」と稱する新西蘭南島の西海岸を認め、一七六九年(明和六年)十月英人タツクがニックス・ヘッドに於て陸地を認め、同月ボヴァティー灣へ投錨した。彼は北島、南島及びスチュワート島——彼は此の最後の島を南島と誤認したが——を巡航し、初めて南北兩島に分れて居ることを明にした後、一七七〇年濠洲に向けて此の地を去つた。其の後彼は數度この地を訪れ、又若干の探検家も十八世紀後半に於て新西蘭に來訪した。

移住

移住と植民 斯くて十八世紀の末、白人が濠洲方面から侵入し來り、狩獵者、捕鯨者等も居た。其の後漸次移住者は其の數を増し、聽て英人とマオリ族との鬭争が激甚を極めた。是に於て英人は狡猾にも離間策を用ひて隣接種族を相争はしめ、就中一八二〇—二七年には慘虐悽慘な同胞相喰むの鬭争を演じ、其の結果土人の土地を奪ふことになつた。又一八四五—七七年に互る英人と土人との鬭争も激烈を極め、斯くて土人は殆んど絶滅される迄に殺害された。

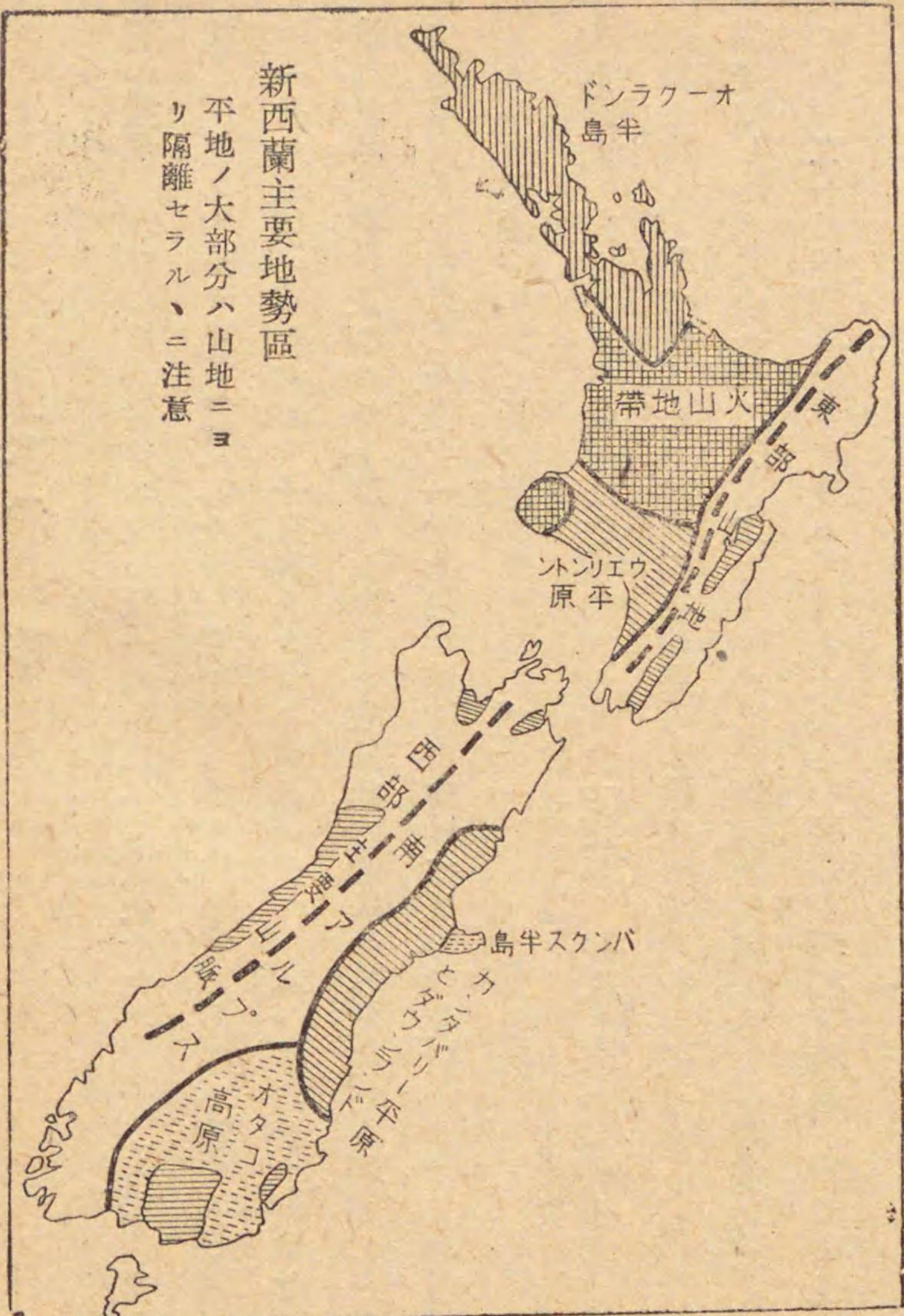
一八二五年、新西蘭の各所に於て夫々單獨な植民地の建設が企てられたが、孰れも失敗に歸し、數年経つて主要捕鯨根據地の周圍に僅に之を見るに止まつたが、白人の中にも國內の各所に定住し、土人と結婚したものも尠くなかつた。併し明確な植民計畫の下に於ける移民團は、一八四〇年(天保十一年)ポート・ニコルソンに到着し、ウエリン

トン町を建設したものを以て嚆矢とし、其の後數年間にネルソン、タラナキ、オタゴ及カンタベリーの植民地が英本國より送られた移民に依つて建設された。但しオー克蘭ドは初めは主として濠洲及び新西蘭の他の地方からの移民に依るものであつた。

三、地誌

地勢 ニュージールランドの山勝ちなるは其の最も著しい特徴の一つであつて、主要山骨は南島に於ては北島に於けるより高く且廣大である。南アルプスとして知られてゐる南島の山脈に於ては三千米以上の高峯十六を下らず、就中クック山、タスマン山等は雄峯である。其の比較的高い部分は年中雪を頂き、處に依り美しい氷河すら見られ

地勢の特徴



る。其中フランチッジ・セフ氷河は海拔二百餘米以下に下つて居る。南アルプスは東海岸よりも西海岸に一層近寄つてゐて、南西に於ては山脈は直接海岸に迫り、壯大なフィヨルド地方の一帶を形成して居り、更に北すればウエストランドの狭い海岸平野は海洋と山地とを距てゐる。

北島に於ては主要山脈は其の高さに於て千八百米を超えることなく、寧ろ東海岸に偏在してゐる。主要山脈の西には三個の雄大な火山體が高く聳えて居り、更にエグモント火山は北島の南西に於て屹立し、二千五百米に達してゐる。

水力源たる
河川

ニュージールランドの諸河川は特に山勝ちな南島に於ては急流を成すので、舟運の便よりも寧ろ水力源を得るに好適である。南島に於てはウエイカト河と他の若干の河川とは小蒸汽船には航行可能であるが、濠洲の諸河川の如く其の河口が砂堆を以て塞がれてゐる缺點がある。北島の北部に於ける最近の沈降のため、河口が沈下し或る物は自然的に優秀な港灣を形成してゐる。

礦物

礦物 多種の礦物が少量に廣く分布してゐて、商業的重要さを有つものは唯二、三のものに過ぎない。採金業は初期に於ては同國の進歩及び定住に大いに貢獻したが、其の産額は數年に互つて降下し來つた。併し最近再び金の騰貴に依り活況を呈するに至つた。主としてケープコルヴィル半島に於けるが如く鑛脈から得られ、石英の鑛脈からの金鑛は大概銀を伴つてゐる。

新西蘭には小炭田が諸處に在り、殊に西海岸に於けるグレイマウスやウエストポート附近に多い。又廣大な鐵鑛床はネルソン地方及び其の他に存在し、オナカカに於て精鍊されて居る。オー克蘭ド地方に於ける往時のカウリ森林

のあつた土壌から化石護謨、即ちカウリ護謨が發掘され、一九三三年から一九三七年に亙る五年間の平均を見ても年約三千噸以上を輸出して居る。一九二七年の如きは四千六百噸を超え、其の價額は二十八萬磅に達した。

新西蘭の主要礦物の産出表（一九三七年）

	量 (オンス)	價格 (磅)
金	一七二、一二二	一、四三四、五一四
銀	四三八、八二六	四八、一〇八
石	二、二〇七、七九九噸	二、二七七、七九九

(石炭は大部分國內消費)

水力 山勝ちな表面と豊富で且つ規則的な降雨と、多くの河川が湖水に依つて自然的に調節されてゐること、相俟つてニュージーランドは水力の大なる源を提供し、北島に於ては約七十七萬五千馬力が、南島に於ては四百萬馬力以上が容易に起し得られると計量されてゐる。但し現在に於ては約七萬八千馬力が利用されてゐるに過ぎない。

氣候 一般的に謂へば、氣候は冷温帶的海洋的均等に溫和である。北島の北部は地中海地方と同緯度であるが、海洋の影響を享け典型的な地中海的氣候ではなく、冬季は著しく多雨であり氣温は華氏五十度乃至七十度間に在る。デュネディンの氣温は南島の比較的寒い部分の代表的なもので、六二度乃至四五度間にある。卓越風は西風で東側が常に比較的乾燥地帯となり、幾分大陸的である。クリストチャーチに於ては氣温の較差は二十度であつて、霜は九月間も續き夏は九十度にも昇るのが普通である。

自然的植物景域 豊富で且つ多様な植物景域があつて、濕潤な地方に於ける常緑森林と殆んど亞熱帶的な森林とが

植物

低地と山地の低い斜面に於ける典型的な植物景域をなし、是等の森林の中には多くの羊齒及び木性羊齒が繁り、世界的な風景を作り、主として南方の櫟ぶきから成る山地森林は低地へ迄續き、又叢林を伴つた草地は北島の火山臺地上や南島の平原に多く存在してゐる。

森林

森林 新西蘭の殆んど五分の一は森林地帯で其の中五百十萬エーカーが商品價値を有する木材の地帯であつて、現今有名なカウリ松は極めて僅に残存し、主要な軟材はリムとカヒカティで、堅材も繁り櫟の大なる資源がある。

四、政治

人口と移民問題 歐洲人の植民は一八四〇年のウェリントン部落建設に其の端を發し、一八六〇年のゴールドラッシュを以て急激に増加した。爾來移民の渡來と自然増加に依つて次第に増大し、一九三六年三月の國勢調査に依れば新西蘭の全人口は一、五八七、二一一人で、その中、マオリ族の數は八四、四七四人である。同國の幼児の死亡率が世界最低であるのは人為的な條件にも依るであらうが、其の氣候と民族の生存力にも大いに依存するのであらう。

移民問題

有色人排斥 支那人に對しては一八六〇年代の末期から既に排斥運動が起り、一八八一年制限法案が議會を通過し、其の後濠洲に於て排斥熱が高まり、合衆國も亦た移民制限に關する條約を締結したので、新西蘭當局は殊に是等の地方から支那移民が殺到し來らんことを恐れた。其の後幾多の曲折を経て、一八九九年遂に南阿のナタル法に範を採つた移民制限法が成立した。即ち同法は總督に依つて免除された民族又は階級で無い限り、入國者は移民官の面前で一歐洲語に據る入國願書を書くことを要する旨の規定があり、更に支那人に對しては語學試験の他百磅の入國人頭

税を課し、支那人を搭載した入港船舶は二百噸に就き一人以上なることを許さない旨が規定されてゐる。斯くして今日制限的指定移民法が實施され、必要な人員を指定して政府に請願し、政府は之に依つて年々の移民數を査定することとなる。但し日本人に對しては指定が無いため移民入國は皆無である。茲に我國との將來の問題が残されてゐる。既に述べたる如く、濠洲と新西蘭とは共に我國に乏しき幾多の資源を保有し、且つ白人に限らず寧ろ有色人に一層適應したる廣大なる空間を保持し、是等が吾人を待つてゐる。夫れにも拘らず不合理に彌が上にも關稅壁を高め、我が物資の流入を阻止し、又は利己的政策を以て我が同胞の移住を峻拒してゐる。要するに白人濠洲主義にしてもニュージールランドの移民政策にしても明かに我々有色人に對する挑戦である。否な白人の「世界」の崩壊を恐れる所より生じた消極的抵抗とも謂ひ得る。之を排除せしめることこそ我々日本人に課せられた天の使命であり、課題であり、何時迄も之を放置することは權利の放棄であり、義務の怠慢と云ふべきである。

海軍の平時威力

併し海を越えては如何に正當なる主張も其の背後に實力就中海軍力なき場合は如何に無力なものであるか、及び海軍力の伴はない海外領土の如何に憐むべきものであるかは歴史を繙く迄もなく明白である。實に海軍は外交機構の重要部分であつて、戦時と同様平時に於ても強力有能な海軍が單に存在することのみで、國家が其の正當な希望を追求する上に大に役立つものであることを南太平洋に關して殊に痛感せざるを得ないのである。

五、軍 備

陸軍 編制其の他濠洲に同じく、現在常備兵力は土民軍を合して約一萬三千である。

海軍 現有勢力六隻約一萬八千噸で種別は次の通りである。

巡洋艦 二隻 護衛船 二隻 其の他 二隻

空軍 正規軍、義勇軍の二種があり、ウェリントン、オークランド、クリストチャーチ、デュネディンの四箇所に配備し、現在三十機（四箇中隊約二百名）である。

六、産 業

耕地面積

農業 新西蘭の約三分の二は農業及び牧場として好適で、六六、四〇〇、〇〇〇エーカーの全面積中、一九、五八八、〇〇〇エーカー（一九三七年）が耕作されてゐるが、其の中一七、二五〇、〇〇〇エーカーが播種草地であり、約一二九、〇〇〇エーカーが休耕地である。糧秣用の作物を除いて穀類や豆類の作付地は約四十萬エーカーであるから、新西蘭は農業地と云ふより寧ろ寧ろ牧場地である。面積に於ては糧秣や蕪菁を除いては小麥と燕麥とが重要な作物で、小麥はカクタバリー平原に燕麥は同平原並にオタゴ及び北島に生育してゐる。又亞麻は濕氣の多い諸地方に於ける野生植物から得られ、人爲的にはウェリントン地方に於て特に栽培されてゐる。

種 別	作付面積（エーカー）	收穫（一九三八年） （單位千ブッシュェル）
小 麥	一八五、九四九	六、〇四三
燕 麥	五七、九一七	二、六四一
大 麥	二五、四五五	一、〇八六

第二節 ニュー・ジールランド

新西蘭では國家社會主義的な土地立法が早くから設けられた爲め、大地主土地獨占の弊は南島を除いた他は概して少く比較的多數農民に分配されてゐる。

牧業 世界の牧畜國の一つで牧畜は新西蘭最大の産業で羊と牛とが最も多く飼養され、豚と馬とが之に次ぐ。

	一九二六年	一九三八年
羊	二五、〇〇〇、〇〇〇	三二、三七八、七七四
牛	三、五〇〇、〇〇〇	四、五〇六、〇八二
豚	五〇〇、〇〇〇	七五六、四六六
馬	三一五、〇〇〇	二七八、一六七

新西蘭は羊の飼養に適し、濠洲に於けると同様、若干の地方が羊毛用或は肉用と云ふやうに特種化し、例へば南島の丘陵地方や低地地方は夙にメリノを飼育し、近年に至りメリノと英種との混種に依つて世界的に有名なコリーデー種を造り出し之が多くカンタバリー平原に生育し、濕潤な北島に於てはロムニー、マーシユ種が一般的であるが其の他數量的には他の種が多い

羊毛生産國としては第七位で一九三八―九年には三億五千萬封度を産出し、約三億封度を輸出し、羊毛輸出國としては世界第三位を占めてゐる。牛は肉用及び酪用に多數飼育され、乳酪業及び牛肉製造業は北島の獨占する所で、同島は新西蘭に於ける牛の八五％を産出し、其中酪農用牛は八五％を占めて居る。オークランドはバタの生産に、タラキナとウェリントンとはチーズの産に於て特種化してゐる。馬は尙ほ廣く駄用及び農耕用として利用されてゐるが、一九一一年以來その數を減じつゝある。恐らく、之は自動車及び機械的農具の使用が増大したことに基くもので

特産物

あらう。豚の數は相當多數に上つてゐるが、其の繁殖業は羊及び牛の飼養業程には進歩してゐない。

漁業 島嶼の周縁には魚族は豊富であるが其の利用度は未だ低く、曾て重要視された捕鯨業も今や其の意義を大いに低減した。

工業 石炭は豊富であり水力利用に至便であるが、人口は製造事業の大發達を許すに未だ充分でなく、其の工業は主として自治領に産出した素材を處理することに限られてゐる。即ち主要産業としてはバタ、チーズ、コンデンスミルク製造、肉加工、電力供給、衣服工業、製材、酒造、製革等を挙げられ、近年その生産價額は次第に上昇し、一九三六年―七年には十萬磅を超えるに至つた。

七、交通及び貿易

交通

交通 一九三八年三月の調査に據れば、鐵道の延長は三、五二一哩(五、六三四杆)、其の殆んど總てが國有で軌間は三呎六吋である。鐵道の方向は著しく地貌に制約せられ、ジズボルン、ネルソン及ブレンヘイムの諸中心が夫々隔離してゐることは注目し價する。従つて沿岸汽船の往來が交通系統に於て大なる役割を演じてゐる。道路は自動車交通の發達と共に大なる進歩を示し、既設道路の延長は八萬杆以上に達し、その中六・四萬杆が舗装されてゐる。

貿易

貿易 世界の他の如何なる國に於けるよりも人口一人當り最大の貿易額を有つてゐる。一九三七年には其の貿易額は一二二、八七四千磅で一〇、五二〇千磅の輸出超過を示し、輸出品の主なるものはバタ、ラム、羊毛、チーズ、マトン、冷凍牛肉等の農牧業の食料及び原料品であり、輸出總額の八〇％を超え、其の他主なるものは金及び皮革類であ

る。又輸入品の主なるものは工業製品では織物類・自動車及び其の部分品・機械類が數へられ、その他鐵・石油等も輸入を仰いでゐる。織物類は綿製品が主である。

貿易對手國は最近五ヶ年間の趨勢を觀るに英本國が第一位で、輸出額の約八五乃至八〇%を占め、其の一部は更に歐洲大陸へ再輸出され、又濠洲が第二の顧客であつて、日本は概ね第六位である。又輸入に於ては英本國は五二乃至五〇%、日本は第七位で日本からは織物類及び雜貨が輸入され、羊毛、カセイン、鑛物、牛脂、牛皮等が日本へ輸出される。

港灣

港灣 主要港はオークランドとウェリントンであつて、兩者は輸入貿易に於て伯仲して居り、全貿易の六〇%以上を占めて居る。他の輸入中心地を擧げるならば、リットルトン、デュネディン、インヴァー・カージル及びピアである。輸入貿易は比較的均して分布してゐる。尤も五〇%以上がウェリントンとオークランドとに依つて取扱はれ、其の他の諸港としてはリットルトン、ナビア、デュネディン及インヴァー・カージル、ウォンガヌイ、ティマル、ジスボルン及ニュープリマウス等である。

第三節 海峽植民地

一、沿革

海峽植民地が現在の状態までになるには、實に轉々とする主權の下に經過して居り、此の經過を大體次の四つの時

代に分けることが出来る。

マラッカ

マラッカ領有 極東に於けるヨーロッパ人の最初の歴史は、一五二一年アルブケルク指揮の下に行はれたポルトガル人のマラッカ占領に始るのである、而して彼等のマラッカ占領は、此處をヨーロッパ人の東洋侵略の最古の一大根據地にしたのである。マラッカは一五二一年より一三四一年までの一三〇年間、ポルトガルの支配下にあつたが、一三四年オランダが、ポルトガル人を追出し一七八五年まで（一五四四年間）オランダの支配下に置かれたのである。オランダ、ポルトガルが、互に争つて居る間に、祕かに印度を根據地として次第に勞力を伸長しつゝあつた英國は、遂に一七九五年此處をオランダの手から奪取したのである。而し乍ら一八一八年にウイナ條約により一時オランダ、マラッカを返還したが、僅に六年後の一八二四年にロンドン條約によりマラッカは英國の東印度會社の手に歸したのである。

ピナン

ピナン領有 一七八六年、ケダーの酋長によつて、此の地を東印度會社に割讓され、越えて一八〇〇年にはピナン對岸のウエスレイ州が海賊横行に名を借り其の割讓地は英國の手に歸したのである。

シンガポール

シンガポール領有 一八一九年、ラッフルス卿が此處に永久租借權を得て植民地を建設し、更に一八二四年にはジョホールの酋長、及びシンガポールの酋長等により、シンガポール半島は正式に東印度會社に讓渡されるに至つたのである。

海峽植民地

海峽植民地に統一 是等マレー半島に於ける英國の植民地は漸次統一されて、印度の一行政區として、ピナン政廳の下に統轄されるに至り、更に一八三〇年には是等はベンガル行政區のうちに編入され、一八三八年政廳はピナンか

ラシンガポールに移つたのである。斯くの如く轉々として、結局一八六七年四月一日に是等の植民地は印度政府から本國植民事務大臣統轄下に移り、直轄植民地即ち海峽植民地と呼ばれるに至つた。其の後一八六八年にはココス諸島一八八九年にはクリスマス諸島、一九〇五年にはラブアン島が植民地總督の統轄下になり、更に是等の地はそれ〳〵一九〇〇年、一九〇三年、一九〇七年にはシンガポールに併合された。併しラブアン島のみは一九一二年にシンガポール植民地から分離し、海峽植民地總督の統轄の下に獨立した植民地となり今日に至つて居る。

二、地誌

海峽植民地は地理的に見てピナン島、マラッカ、シンガポール島、ウエルスリー州、ラブアン島、ココス諸島、クリスマス島とに分散して居り、ピナン、マラッカ、ウエルスリー、シンガポール等は英領マレー半島の西海岸を北から南へと順次に飛石の如く置かれ、其の半島の最南端を形成して居る一小島嶋がシンガポールである。

ラブアン島はボルネオの北海岸にあり、ココス諸島、クリスマス島はジャバの西南にあたる印度洋上にあり、ウエルスリー州、マラッカの二つを除いて他の總ては島嶼である。

氣候 海峽植民地の主土殆んど全部は五度以内の赤道直下に屬する爲めに非常に酷暑であるが、何れも海洋に接して居る關係上、常に一陣の涼風吹き酷暑ながらも凌ぎよいのである。又地理的關係もあつて驟雨の多い點も酷暑を凌ぐ上に影響して居るのである。例へばシンガポールの氣温は最低攝氏の一七・三度、最高は三八・二度で、年平均は二六・七度であつて純然たる熱帶氣温をなして居る。従つて氣温の季節的變化が甚しく少く、最低月と稱される一月の

熱帶氣温

平均温度は二五・七度、最高月とされる五月は二七・五度、七月は二七・二度であつて、最低月と最高月との温度の差は極めて少ないのである。又此の地方は多雨帯で一年中雨は非常に多く、シンガポールの雨量は二三五六耗に達し世界有数の降雨地方の一つとされてゐる。

面積、人口 海峽植民地の全面積は一九三八年の調査によると、一三、六六五方哩に達して居り、之を地域別に示すならば別表の如くである。海峽植民地の人口は矢張り同年の調査に従へば一、三四四、五四五人（一九三八年六月三日調査）である。

地方別面積、人種、人口（一九三八年調査）

地方別	面積(方哩)	マレー人	ヨーロッパ人	ユーラシア人	支那人	印度人	其他	合計
シンガポール島	三三〇	七、五八九	二、二二二	七、七五五	五、四八〇	六、〇四二	八、九六六	七、〇〇七
ペナン島	一一〇	四、七六五	二、〇五四	二、三二六	一、五六七	三、八八五	一、八〇八	三、五九六
ウエルスリー州	二九〇	七、一六〇	三、〇〇〇	二、九	五、八二二	三、九六六	五、四七	一、六、五二六
マラッカ	六四〇	一〇、八七二	四、九六	二、三三四	八、五三三	二、八三三	六、四六	三、三、九一
ラブアン島	三三	五、二三四	三	三	三、〇五三	一、三三	六、五六七	八、五六七
クリスマス諸島	六〇	一、二八	三	—	一、〇七	七	—	一、三三
ココス諸島	一・五	一、〇七	三	—	二九	三	—	一、四一
合計	一、三、六六五	三〇、八五三	一五、一四五	二二、六四一	八五、〇八三	一五、〇七八	二二、〇二六	一、三、四、五四五

一、三四四、五四五人の人口内容及び種族的構成は右表の如くであるが、之に對して特に注意すべきことは其の種族

華僑

的構成である。この地方は一般に人種博覽會と稱される程、多種多様の異民族集合地帯として著名なのである。海峽植民地に於ては、支那人（即ち華僑と稱する在外支那人）が絶對多數を占め、第二位のマレー人の二倍半に上つて居る。印度人はマレー人の約半數で第三位を占め、日本人はシンガポールに約四千人餘り居住して居るのみである。

海峽植民地人口の量的内容は殆んど支那人、マレー人、印度人の三人種から成つて居ると見るべきであらう。

人口密度は一平方哩平均九八三人にして世界で人口密度の最も多い地方の一つとされるが、之はシンガポール、ピナン等の都市地帯が其の主要構成分子をなして居る爲めである。

人口の自然的増加を見るに、一九三七年の出産者は五萬餘人、死亡者は二萬八千餘人であるから其の自然増加は二萬餘人である。海峽植民地の人口増減の特徴は自然増加よりも寧ろ夥しい移民の結果によるものと云ふべきで、殊に移住支那人の増加は夥しいものがある。又死亡率の多いのは、同地方が健康地とは云ひ難く且又労働者の生活條件が頗る劣悪であるため、壯年者の死亡率が比較的多いことによるのである。

三、政治

總督政治

海峽植民地の行政組織は他の英國王領植民地に於けるものと同様であり、政府の組織は英國政府の植民大臣の監督の下に英國皇帝任命の總督により統治されて居る。現在の總督はトーマス卿である。總督は司法、行政、軍事の諸權を有し、植民地總監の補佐により行政を執行し、且つ其の諮問機關として行政參議院と立法參議院とを有し、以て政治の圓滑な進行を計つて居る。海峽植民地の政治は或る程度獨立した自治體としての自己の統治機關を持つて居り、

又固有の統制を有つて居るが、本來本國政府によつて、其の行政を支配されて居り、この點がカナダ、濠洲等の如き完全な自治體と異つて居るのである。

總督はマレー聯邦諸州及ボルネオのブルネイ王國の高等國務官、北ボルネオ及サラワク王國の英國代表を兼務して居る。總督を補佐する總監は現在スモール氏である、行政參議院は内閣に相當するもので、駐屯軍司令官植民地總監、ピナン及マラッカ駐劄參事官・財務官・其他二、三の官吏によつて組織されて居り、立法權は總督に屬し、立法參議院は總督・軍司令官其他若干の官吏によつて組織されて居る。

植民地の地方行政はシンガポール植民地、ピナン、マラッカ、ラプアンの四行政區畫に分けられて居り、ココス、クリスマス等の諸島はシンガポール植民地に含まれて居り、ウエルズリー州はピナンの行政區に含まれて居るのである。ピナン、マラッカには理事廳があつて知事が之を統轄して居り、シンガポールは直接に植民地政府が之を統轄しシンガポール、マラッカには市政を施して居る。

教育 海峽植民地は早くから英國の支配下にあつた關係上、文化的には南洋では最も發達した所であり、教育機關も亦た頗る發達完備して居る。マレー人は通學の義務を有し、總てマレー語を以て教育されて居る。

二大學

大學にはキング・エドワード七世醫科大學、ラツフルス大學の二校がある。

經濟 海峽植民地の經濟の特質は、金融・商業・外國取引を主として居ることである。財政制度は總督の下に在る財務省が其の豫算を編成し、之を植民地立法會議に提出して、會議の協賛を経てから本國政府に送り、而して植民大臣の決裁を受け施行するものである。

最近の歳出入 (單位ポンド)

年 度	歳 入	歳 出
一九三四	三、九九五、二〇四	三、六〇九、三四七
一九三五	四、〇〇八、〇四四	四、〇五五、八七四
一九三六	四、〇九七、八一六	三、八九六、五四〇
一九三七	四、三五七、三一	四、九〇四、四八九
一九三八	四、二九七、三六四	四、五〇八、〇六六
一九三九	四、六一六、七〇五	五、〇六三、三三三

歳出入の状態は上表の如くであるが、歳入財源の主要なものは免許料及び消費税、其の他の國內收入であつて、是等が總歳入の六〇乃至七〇%を占めて居り、之に次いで主なるものは利子收入、郵便電信收入、官有財産收入等である。租税收入の大部分は酒類・煙草・石油等の消費税 (是等は輸入されて消費されるものである) と阿片專賣による專賣利益によりて占められて居る。阿片の收

四、軍 備

軍港開港 英國政府は豫て新嘉坡根據地の急速完成と大海軍及び大空軍の派遣を期して鋭意諸工事を進めてゐたが、一九三八年二月十四日大乾船渠が竣工し、盛大なる軍港開港式を舉げた。又同根據地建設に當つては、濠洲・ニュージールラ・インド・香港等の各自治領政府より多額の獻金をなすと共に和蘭國とも或る種の諒解があるやの噂さへある。

最近當根據地の防備強化に伴ひ、完成に要する總工費は約二千二百萬磅の巨額となり、當初の計畫の二倍に達してゐる。

海軍 新嘉坡の常駐海軍力は概ね次の如くであるが、前記主力艦用大乾船渠の完成に伴ひ、近き將來には主力艦隊が極東方面に派遣せられ、新嘉坡を基地として行動するものと察せらる。

モーター 一隻 驅逐艦 二隻
掃海艇 (アビングトン型) 九隻

陸軍 新嘉坡常駐の陸軍兵力は約六千名、義勇軍約一萬名の外に植民地内に警察隊がある。

空軍の基地 空軍 極東に於ける空軍基地は新嘉坡・ピナン・香港等であるが、現今新嘉坡には次の配備があり、更に各空軍基地にも増勢を計畫中とすることである。其の他最新式飛行艇五機を馬來聯合州の獻金により完成したと云ふ。

雷爆撃機 二箇中隊 飛行艇 二箇中隊

五、産 業

海峽植民地の産業の重要なものは農業であつて、地勢的に地味が肥沃なるために、其の耕作面積の狭少であるにも拘はらず、農業生産には頗る恵まれて居る。ゴム、古々椰子、米油椰子、パイナップル等が其の主要な農産物とされて居り、農業の外には各種の工業も相當發展して居る。是等の概況を述べるならば、ゴム園は約三十五萬エーカーの耕作面積であつて、其の生産額三萬五千砵の多きに達して居る。古々椰子は所謂コプラを採る樹であるが、土民は

有用樹

此の樹を利用して自分達の食料・飲料・燃料・建築材料等を生産して居り、彼等にとつては頗る有用な樹とされてゐて、其の耕作面積は約七萬二千エーカーに達して居るのである。

米は水稻陸稻合せて七萬エーカー位で大した事はないのである。油椰子はパーム・オイル(椰子油)の原料を採るものであつて、パームオイルは蠟燭・石鹼・塗料等、脂肪酸工業の原料となる重要物資である。油椰子は元來アフリカ原産のものであるが、一八五七年にシンガポール植物園に植付けられ、其の後これが繁殖して今日に至つたのである。パイナップルも其の罐詰工業はシンガポールで一八八八年に開始されたのが今日發展の基礎をなして居る。然し乍ら海峽植民地に於ける耕作は極めて小規模なものである。農業の外には牧畜・林業・水産業・鑛業等があるも何れも記するに足る程のものはない。

錫精煉所

各種工業ではシンガポール及ピナンの錫精煉所が有名である。是等の精煉所は馬來産の錫を精鍊するのみでなく、蘭印、タイ國、ビルマ、日本、南阿、佛領印度支那等で産出される錫鑛はシンガポールに輸入され、此處で精鍊されるのである。ゴム工業の工場は各地のゴム園の中にあり、約一三〇〇程を數へ、この外にパイナップル罐詰工業があるが、之は殆んど全部華僑の獨占事業とされて居る。シンガポールの經濟から華僑を除いては經濟を考へることが出来ないほど彼等の勢力は強固なものがあり、それだけに又、日本人及び日本品の進出等は却々困難なのである。

六、貿易

シンガポールを中心とした海峽植民地の對外貿易を見ると、海峽植民地自體に生産されるものが極めて尠いために

最近の輸出入 (單位千ポンド)

年 度	輸 出	輸 入
一九三四	六三、四七八	五三、七二一
一九三五	六六、五四二	五四、四四三
一九三六	七三、二三九	五八、六八六
一九三七	一〇四、六六四	七九、三二三
一九三八	六七、八四八	六五、二六四

シンガポールを中心とした通過貿易と見ることが出来るのである。然し乍ら東洋一を誇るシンガポール港は、何等の生産品がなくとも貯藏倉庫卸設備の完備、港の位置が交通の要衝にあつて居る點からして貿易上の經濟的價值は最高のものがある。

海峽植民地の對日貿易を一九三八年に例をとつて見ると、日本からの輸出は約二千萬圓、日本への輸入は五千萬圓であり、

之を前年に比較すると、輸出に於て約四千六百萬圓、輸入に於て一千三百萬圓と各々減少して居るのである。この減少を來たした原因は、シンガポールを中心とする華僑の反日ボイコット及び英國による援蔣政策の積極化によるものと見るべきである。日本から海峽植民地へ輸出されるものうち、主なるものは綿布及び絹織物・石炭・陶磁器・人絹織物等である。日本の輸入品は生ゴムの二千五百萬圓を筆頭とし、燐鑛石・籐・採油用原料等である。

シンガポールの對外貿易の主要輸出品は先づ第一に生ゴムの二億弗(一九三七年)と錫がシンガポールと馬來半島の輸出總額の七〇%を占めて居る。錫はシンガポールで精鍊されて輸出されるもので年額一億弗に達して居る。

海峽植民地(シンガポール)の貿易は殆んど通過貿易であるのでそれ自身の外國貿易と通過貿易とを明確に區別することは出来ない、海峽植民地の貿易を考察するためにはマレー聯邦州及びマレー非聯邦州と海峽植民地の三つを含んだものを見るより適當な方法がないのである。

七、交通

道路 マラッカ、ウエレスリー等の重要事業中心地を連絡して居る道路はシンガポールからタイ國に通じて居る。勿論此の幹線路の外に多くの路を有して居るが、是等の總ては何れも舗装道路であつて、各國植民地中最も完備した道路であり、英國の植民地政策の手腕を充分知ることが出来る。道路の完備は商業の發展、國防力の増加、充實に重大な貢献をなして居る。道路が完備して居るために自動車は普及發達し、一九三五年の調査によれば、當時既に約一萬三千餘臺に上つて居るから、今日では二萬臺以上になると思はれる。

鐵道 シンガポールから半島を縦斷してピナンを経由しタイ國の首都バンコックに通じて居り、僅に五十一時間半を以て此の兩點を結ぶものが唯一の鐵道路である。

主要航路

海運 シンガポールは沿岸航路の中心地であるのみでなく、各國遠洋航路の寄港地であり、此處を中心とする主要航路は歐洲、カルカッタ、ボムベイ、マドラス、ヒリッピン、印度支那、日本、支那、カナダ、北米及び南米、濠洲、南阿等の各航路である。海峡汽船會社はシンガポールを起點として數十隻の小汽船を半島の東西兩海岸に配船して居る。入港船は一九三七年度三千四百萬餘噸に及び、このうち日本船は一六%を占めて居る。

航空 マレー半島を中心とする航空網は非常に發達して居り、ロンドン—シンガポールを結ぶ空路はオーストラリア大陸にまで伸びて居り、此の外に、ピナン、タイ國を経て香港廣東への空路もある。航空路の發達は政治的に重要な意見を持つのみではなく、經濟的發展をも非常に促進するものである。

八、附屬島嶼

(イ) **ラブアン島** ボルネオ島の北部にあり、一九二二年シンガポール駐劄の總督の支配下に置かれ、ラブアン植民地として今日に至つて居る。面積三十五方哩、人口約八千人、石炭の産出多くシンガポール其他へ輸送されて居る。

(ロ) **ココス諸島** 印度洋中にあり、一九〇三年海峡植民地統轄下に入り、面積は僅に一・五方哩、人口は一千餘人にしか過ぎず、同島の主要産業は農作物で、椰子の實や其の油が輸出されて居る。同島は第一次世界大戰の折、獨艦エムデン號が此處を襲撃し、遂に最後を遂げたので一躍有名となつたのである。

(ハ) **クリスマス島** 印度洋中にあり、ココス島より北東へ五二九哩を隔てて居る。同島は氣候極めてよく海峡植民地隨一の健康地と稱られて居る。面積は三〇方哩にして、人口は約一千五百人であるが、是等の住民の殆んど全部(若干の英人官吏を除き)は同島のクリスマス島燐礦會社の被傭人である。

獨艦エムデン
最後の地

第四節 英領ボルネオ

(1) 英領北ボルネオ

一、沿革

英領ボルネオはボルネオ島の北部を占め、英領北ボルネオ、サラワク及びブルネイ兩王國を含んでゐる。

ボルネオが外國と交通した史實としては支那との關係が最も古く、唐代波羅は支那に使節を遣はしたが、其の地位はカンボジヤの東南に位し、當時勢力を有したブルネイ國を指すやうである。其の後宋・元・明を通じ支那に使節を送り款を通じてゐるが、一方元の世祖は波羅を征し、明の鄭和が波羅に至つて後華僑の移住するものが増加したのである。歐洲人最初の植民は一六〇八年蘭人はダイヤモンド及び金の有名な産地である土人國であつたランダク及びスカダナに往つたが間もなく放棄し、英人は翌年二回植民したが、一六二三年に之を放棄し、蘭人の商館は一七四七年及び一七七六年に再興したが再び之を放棄した。一七六二年英人はスルーの王から讓渡されたバラムバンガン島に植民したが、一七七五年海賊に襲撃され、職員はラプアンに移され、小商館は同時にブルネイに開設された。次で一八〇三年再び前記バ島及びマルド灣に第二の移民を企てたが失敗し、東印度會社は北ボルネオとの關係を斷念した。一八六五年某米國人はブルネイ國王から北ボルネオ内に廣大な土地を讓受けたが之を利用しなかつた。一八七二年

華僑の始

にはサンダカンにラプアン貿易會社が出来、其の事業は後に支配人ダブリュー・シー・カウイに依つて經營された。

一八七七、八年にブルネイ及スルー國王は澳太利人オーバーベック及デントの組織したシンヂケートに現在の北ボルネオに當る土地の大半を讓渡した。右組合の権利は一八八一年英領北ボルネオ假組合に依り獲得された。翌年同組合から英領北ボルネオ會社に移轉した。次で英國は一八八八年五月十二日附協定に依り、該地に保護領を設定した。即ち此協定を以て北ボルネオは英國保護の下に獨立國として同會社が繼續して支配することになつた。一方一八四六年英國の植民地と爲つたラプアン島は同社が統治したが、英國政府の要請に依り一九〇六年王領植民地に之を移讓した。

保護領化

二、地誌

地勢 英領北ボルネオはボルネオ島の北部で、北緯七度二五分より四度一〇分、東經一一九度二〇分より一一五度二〇分に亙る。面積は蘭領に比し遙かに狭く、ボルネオ全島の約九分の一（七六、四〇三平方浬）に止る。地勢は大小山脈が縦横に走つて居り、その内、最も著名のキナバル山脈の最高峰ヴィクトリヤ山は標高四、〇七五米に達する。

河川は西北海岸を流れるものは概して流程短くて急流であるが、之に反して東北海岸のそれは長くて緩流であり、河川の流域は地味肥沃である。

氣象 氣候は熱帶性であるが、暑熱は酷烈でなく、空氣は爽快で天氣快晴のときは常に微風があり、甚だ凌ぎ易

い。気温は沿岸地方と内陸とでは相當の差があるが、サンダカンでは通常日蔭で七十二度乃至九十二度である。東海岸地方では十一月から翌年二月までが雨期で六、七、八、九月が乾燥期であり、西海岸地方や内地では乾濕兩期の區分が明かでない。雨量は一年平均二千二、三百耗である、季節風は十月半頃から翌年三月半頃まで吹いてゐる。

住民 一九三一年の國勢調査に依れば、人口は二七〇、二三三人で、土人は二十萬人を越え七六・三%を占め、外來人は六萬三千餘人で、その内、華僑は最も多く四萬七千餘人である。

人種、人口

一九三一年人種別人口數

(外來人)		(土人)	
歐洲人	三四〇	ヅスン族	九七、八六二
歐亞混血人	二三六	バジャワ族	三一、六四〇
支那人	四七、七九九	ムルト族	一四、九五九
日本人	四五〇	ブルネイ族	一〇、五〇七
印度錫蘭人	一、二九八	其他	五一、一九一
蘭印土人	九、八五四	小計	二〇六、一五九
比律賓人	二、八四九	其他	二八五
馬來人	九五三	總計	二七〇、二三三
小計	六三、七七九		

土人は十數種あるが、最も人口の多いのはヅスン族で、北ボルネオの東北一帯に互つて住し、性質善良で比較的勤

移民

勉であり、既に十二世紀の昔から移住した支那人との混種があり、其の風俗習慣も支那人と同じものが少くない。ムルト族の如きはサラワクのダイヤ族と同じく往時は首狩の慣習があつたが、近年は其の風絶え、威壓的理蕃事業はない。一般土人に對し最近施藥院の開設その他、土人衛生の監督養成、幼児及び母性の保護、土人婦女の教化、土語學校の奨励、農事指導、土人酋長諮問會の設置等、撫育に關する施設又は土人栽培所の權限擴大等は特筆すべき事項である。支那人は十五、六世紀時代に最も多く移住し土人女と結婚したものが多し。現在も彼等は外來人口の約七五・八%を占め、苦力・婢僕・農夫・園丁・商人の五種に大別せられる。移民の多くは支那人であるが、又爪哇人もある。一九三五年に於ては入國者一一、九一〇人に對して、歸國者は八、八六〇人である。

三、政治

當領は英領ボルネオ勅許會社に依り統治せられ、勅任の重役^{ゴート・オン・プレクタクム}會が倫敦に設けられ、總督は同會に於て内務大臣の承認を経て選舉せられ、英國皇帝勅許の下に北ボルネオ總督兼司令官に任じ、ボルネオに駐在し政務を執る。中央官署は農務・警務・會計検査・山林・司法・細菌・醫務・勞働保護・土木鐵道・財務・土地・水路・遞信等その他合計十七局の外に巡憲隊及び禁治監に分かれてゐる。地方行政は東西兩海岸理事廳に分ち、更に二十一郡に細分してゐる。首府はサンダカンに在る。

立法は從來事情の許す限り一八八一年十一月一日現在の英法を其の儘適用したが、爾來勅許狀に依り賦與された權

限に依り會社は北ボルネオの國法を制定することになった。一九一二年まで立法は倫敦重役會の協賛を経て告示することにして居り、總督の補助機關として諮問會議があつたが、一九一二年より總督外九名の官吏及び五名の非官吏から成る立法會議が設置され之に代つた。而して現在適用の法律は立法會議の制定する法令の外に英領印度に於ける法律と同様のものが多い。各種法律の適用順序は第一北ボルネオ法、第二印度法、第三回教徒法であるが、是等に該當しない場合は英國の民法及び衡平法に依る。

司法、財政

司法は英領印度のそれに類似してゐるが、特徴は民刑事を同一の裁判所で行ふのである。裁判所には高等法院、司法局長裁判所、理事廳裁判所及び郡裁判所がある。郡裁判所は更に一級、二級、三級、酋長裁判所に分れてゐる。

財政は北ボルネオ行政年報に依れば、最近一九三八年の歳入三、四二九、四三五弗、歳出一、八六一、三七三弗であるから、其の差、即ち利益額は一、五六八、〇六二弗に達する。歳入中では關稅が最も多く、歳出中では人件費が最も多い。利益金の大半は株主に配當し、剩餘を以て國內開發の費用に當てる建前であるから、文化施設などには十分手が届かない。

四、産業及び貿易

農業

重要産物はゴム・椰子・米・其の他である。ゴムは一八八二年始めて移植されたが、其の栽培が躍進的に發達を來したのは一九〇五年以降である。殊に獎勵策として同年より向ふ五十年間ゴムの輸出税免除と米成熟期間の配當保證とが、當時の重役會長に依り宣言された爲に産額を激増した。即ち一九〇七年には栽培面積三、二二六エーカー、

輸出高四、九七五封度に過ぎなかつたが、一九三八年は各一二六、六四〇エーカー、二二、三〇六、〇〇〇封度に達した。椰子は古々椰子とサゴ椰子とある。古々椰子は各地を通じ之が栽培に適してゐるが、主産地はマルド灣及び東海岸地方であり、又バンギ島にも大經營の適地がある。斯業は大戦後急速な發展を見、一九一四年に二千七百エーカーであつたものが、一九三八年には五萬三千エーカーに増加し、コブラ一三五、七二六擔、油五、四八〇擔、生果二六、三〇九、〇四六箇を算した。

サゴ椰子は、其の實は西海岸では米に代つて土民の常食となり、且つ住宅は其の材に依つて造られてゐる。一九三八年の栽培面積は一四、〇二二エーカーで、收穫量は一七、五八七、三三〇封度に達してゐる。

三大産物

米は土民の外に當領住民大多數の主食物である。従つて其の栽培面積はゴムと同様に廣く、毎年約三萬エーカーの水田と三萬五千エーカーの陸田が米作に供せられる。然し未だ自給自足に至らないで、相當量を輸入に仰いでゐる。産額も輸入額も年に依り異り、例へば穀の産額一九三四年は三二二、三七六擔に對し、輸入米(一擔は米の八分の五)は二二八、六二四擔であつたが、一九三八年は前者の二三五、九五三擔に對し、後者は二六六、一六三擔であつた。精米所は一九三五年末現在十三軒であり、支那人經營のものが多かつた。以上三大産物の外に煙草・珈琲・茶・甘蔗・胡椒・タピオカ・ガムビル等も若干栽培されてゐる。

本領の土地法は由來支那人の小農を招致せんが爲に作られたのである。當領で農業經營するには通常六千磅の資本を必要すると云はれる。

土地の租借申込は先づ所管の地租徵收官吏に對しなされ、土地拂下の許可は百エーカー以下は土地局長、六百四十

邦人の事業

エーカー以下は總督、それ以上は重役會の承認を経るを要する。

本領はサラワクと同様に、南洋中邦人の農業者の最も入り易い處である。

邦人は一九〇〇年頃から十數年來タワオ地方に移住して事業に着手したが成功しなかつた。一九一三年林學士後藤某は北ボルネオ政府招聘の下に、二年間に互りタワオ地方の森林地帯を調査し、英人及び土人間に其の存在を認められた。次で一九一五、六年邦人の同地開發熱勃興し來り、此處に日本村建設を計畫し、其の東方に土地租借認許を得て開墾を始め、主として椰子の植付をした。之れタワオに於ける邦人個人經營農場開始の嚆矢である。同時に邦人林某は政府經營の護謨園約五百エーカーを買収し、久原鑛業株式會社出資の下に久原農園を創設し、又窪田某は三菱關係出資の下にタワオ附近二百エーカーを租借し椰子園の開墾に着手し、日本村も漸次活氣を呈するに至つた。

久原農園は現在の日本産業護謨株式會社タワオ護謨園（日産）の前身であり、又三菱關係の椰子林はタワオ・エステート・リミテッド（三菱）の前身である。邦人は護謨・椰子の外に二十餘年前マニラ麻の栽培を開始し今日に至つたので、北ボルネオ政府は、此處を英帝國內唯一のマニラ麻栽培地であるとして邦人に謝意を表してゐる。

邦人の事業成績を見るに、一九三九年二月現在に於て、（一）日本産業護謨株式會社は租借面積二萬二千エーカー、植付約二萬エーカーで、年生産額ゴム七百三十六萬封度、麻二萬四千擔、木材八萬八千石、（二）タワオ・エステート・リミテッドは租借及び植付面積各二千六百五十エーカーで、年生産額コブラ一萬擔、ゴム二十七萬封度、麻四千八百擔の外にサンダカン郊外に一萬五千エーカーの無稅地を有し、六百エーカー丈け植付け、コブラ年産額約五千擔、（三）個人經營は租借面積一千八百エーカー、植付一千百三十エーカーで、生産年額麻四千七百五十擔、コブラ四千十二擔

を算した。

本領政府は邦人の事業開拓を歓迎し、最近米作の獎勵を邦人の前記二會社に正式協力を求めたが、一面一昨年皇軍の廣東占領後、間もなく總督は在サンダカン日本領事を通して將來ボルネオ北西岸地方は重役會議の結果、邦人の進出を許可せざる方針なる旨通告し來たことがあり、今後の邦人事業に對する同政府の方針は逆路し難ひものがある。

木材の種類

林業 當地林務局の推測では廣大な處女林の内、海岸から二十哩以内の地帯で經營し得る森林面積は約二百萬エーカーとされ、一九二六、七年に測量された山林面積は各二萬エーカーを越えてゐる。而して販賣し得る木材はエーカー當り二千乃至三千立方呎に上ると見られる。現在積出される木材は大部分丸太材で、其の種類にはスライヤ（ラワン）ピリアン（鐵木）、スランガンバツ、カポール、クルイン、ミラボウ等がある。

木材輸出は近年漸次増加し、一九三八年の輸出は四、六六二千立方呎、價額二、一七七千弗で、約九割は丸太材である。従來香港に多く輸出したが、近年は日本に對する輸出最も多く、同年は三一・五九%を占めてゐる。

鑛業 主なる鑛物はセガマの河床に砂金が、又クリヤス半島クダツ、コウイ灣附近に石油がある。石油は久原鑛業が會て試掘したことがあり、石炭は到る處に産し、ラプアンを英國が植民地としてブルネイから割いたのは之が爲めである。主産地は西海岸のウエストン、マルド灣、サンダカン灣、コウイ港等である。

水産業 北ボルネオは西は支那海に、東はスルー及セレベス海に面し廣大の淺瀬を控へ、領内には多く大河川があり、魚類は相當豊富と想像せられるが、サンダカン附近には只支那人の小漁業のみがある。邦人は水産業に就いても夙に開拓に着手し、曩に一九二二年十一月よりボルネオ東海岸シンボルナ港から約十三哩のパカラガン海岸で眞珠の

養殖を爲し、爾來相當成績を擧げてゐるが、最も特筆すべきはタワオに於ける邦人漁業の活躍である。一九一八年には前記林某と、當時臺灣總督府駐在武官であつた折田(一二)海軍少佐とは、タワオにボルネオ南洋開發組合を組織し、農業開墾に従事し、一九二〇年一時事業を中止したが、一九二六年漁業に轉じ、同時にタワオの東方約六十哩のシamil島を政廳より租借し、同年八月合資のボルネオ水産公司を設立し、鯉釣漁業、鯖延縄漁業及び鯉節製造を開始し、一九三三年には株式會社に改組し、資本金を二百五十萬圓としてボルネオ水産株式會社と稱し、同時に業務を擴張し、歐州向銷油漬罐詰、魚糧等の製造に著手し、一九三五年末現在従業員二十名、漁夫二百名、男女工百三十二名を使用し、著々成績を擧げ、同年本社より鯉節六、八四一擔を輸出してゐる。

同社最近一九三九年二月現在の成績はシamil島は漁獲八萬乃至十萬貫、罐詰五萬二千箱(四ダース入)、鯉節約十萬貫、同年一月開業のバンギー島(ボルネオ最北端)では罐詰年産豫定約五萬二千箱を算してゐる。

貿易

英領北ボルネオの貿易は従前入超もあつたが、近年は出超を續けてゐる。貿易状況を見るに一九二五年は二千五百萬弗に達したが、一九三二、三年は各九百萬弗臺に下り、最近一九三七年は前年に比し約六百萬弗を増加し、二〇、六五二、三六九弗(輸出一四、二九五、三二二弗)に達したが、一九三八年は一五、六四二、二六四弗(輸出九、五二五、七七三弗)に減退してゐる。輸出品の主なものにはゴムを主とし、一九三七年は八百七十八萬餘弗で、總輸出高の六割以上を占め一九三八年は半減近くで然かも總輸出高の七割以上を占めてゐる。木材は之に次ぎ、輸入品の主なものには米穀・食品・織物類・煙草等である。

五、交通

通信 有線電信はゼセルトン、メンバクト、ビュフォート、テノムを連絡する。此の線はラブアンに通じ、それより大東電信會社の海底線に依り新嘉坡へ連絡する。

無線電信の施設はゼセルトン、クダット、サンダカン、タワオ及ラハダトに在る。サンダカンの無線電信所は直接英本國と連絡し、英本國のラグビー無電から毎日ニュースを取ることが出来る。又香港、比律賓、サラワク其の他の無電局は通信時間を定めて近海航行の船舶と無電の交換をしてゐる。

運輸 (イ) 鐵道 鐵道は官營で一八九六年建設に著手したが、一九一〇年にバカウを起點としてビュフォートを經てウエストンに至る第一路線二十哩が完成し、次でビュフォートとテノムを連絡する第三線三十哩は難工事があつたので約九年を費し一九〇五年に開通し、其の後此の線は更に九哩を延長しメララップまで達した。現在支線を合して延長百二十四、五哩に及んでゐる。一九三六年度鐵道収入は約十八萬弗である。

(ロ) 道路 道路は他の英領植民地に比し甚だ劣つてゐるのは、一營利會社の手に委せられた爲であるが、最近自動車に依る運搬が便利で經濟的であることを認められ、政府は道路網の擴張を計り一九三五年末道路延長は砂利敷道路一九八・四〇軒、土路一六〇・二〇軒、合計三五八・六〇軒に達した。

(ハ) 航運 海洋航路は新嘉坡、北ボルネオ間定期線一週一回で海峽汽船會社の汽船三隻就航し、サンダカン、クダツ、ゼセルトン、ラブアン、ミリ、クチンに寄港し、又同社船はサンダカンよりスルー群島のホロに寄港し、比

道路の開發

島ミンダナオ島のサンボアンガに二週一回の定期航路を開いてゐる。又印度支那汽船會社はサンダカン香港間を月二回連絡し、又タワオには我が南洋海運と蘭印のケー・ビー・エム汽船の寄港がある。更に不定期線ではあるが、濠洲と北ボルネオ、香港を連絡する汽船航路がある。

沿岸線は一九二七年設立されたサバ汽船會社が東西兩海岸に就航してゐる。

(ロ) サラワク

一、沿革

サラワクは十九世紀の中葉前にはブルネイ王の領土であつたが、一八四一年英人ジェームス・ブルークはブルネイ王の依頼に依り内亂を鎮定したので、サラワクのラジャ(王)となつた。次で一八四六年ブルネイと衝突し、戦勝の結果ジェームスはブルネイの宗主権を脱し、サラワクは完全の獨立國となつた。一八五七年二月十八日及び十九日には未曾有の國難であつた支那人の叛亂を克服し、一八六三年サラワクは英國政府から獨立國と承認せられ、翌年英國は首府クチンに領事を駐在せしめた。

一八六八年五月十一日ジェームス・ブルークは本國で死し、同年八月六日其の甥のチャールス・ブルーク二世サラワク王の即位を公布した。一八八八年六月十四日英國は保護條約に依りサラワクを英國保護の下に獨立國と認め、(一)英國はサラワクの内政に干渉しない、(二)外國との交渉は英國政府に依り又は其の指令に遵ふて行ふ、(三)兩國

サラワクの獨立

とも相互臣民に對し通商、航海、私權享有に就き最惠國待遇を與ふ(四)英國の承認を経ずして第三國又は第三國國民に領土を割讓し得ないことを定めてゐる。

一九一七年五月十七日チャールス死し、其の子のサー・ヴィナー・ブルークは同月二十四日サラワク王の即位を宣言し今日に至つてゐる。

二、地誌

地勢 サラワクはボルネオ島の北西部で北緯一度から五度、東經一〇九・四〇度から一一六・〇〇度に亘る。

面積は一二九、四九五平方千米あり、東西南の三方は蘭領ボルネオと境し、北東方は英領北ボルネオに接し、北西方は支那海に面してゐる。

國境に沿ふて多く山脈が走り、ボルネオ諸大河の分水嶺を成してゐるが、當領には大型汽船の航行を許す二、三の河川がある。内陸には山岳が多いが、海岸地方及び諸河流域には平野が見られる。

雨季、乾季
氣候は十月から翌年三月までは北東季節風の雨季で、四月から九月までは南西季節風の乾季で、七月は最も雨量が少い。首府クチンの降雨量は年平均一六〇吋で、最大記録は一八八二年の二五〇・九五吋、最少記録は一八八八年の一〇二・四〇吋である。

気温は海岸は海洋風の爲に炎暑を緩和されるが、クチンでは概して最低七十二度、最高九十二度である。

住民人口 サラワクには未だ國勢調査はないが、一九三五年の行政年報による推定人口は四四二、九〇〇人である。

土人は二十種以上で、主なものは馬來人、メラナウ族、海ダイヤ族、陸ダイヤ族、カヤン及ケンヤ族、ビサヤ族、ムルト族等である。ダイヤ人は最も多く一九三五年十六萬六千人を超えてゐる。

最近土人の生活、風俗、農事又は保健等に注意し、土人の教化に關しては英領馬來で經驗した教育顧問任命の規定も既に設けられてあり、土語に依つて簡易な初等教育の實施を計畫してゐる、その他土民行政の一試案として村落委員が選舉せられ、特殊の地方歳出入の管理に與らしめてゐる。

支那人数は調査不十分であるが、一九三五年の推定人口は約八萬六千人を算する。同國建設以來移住し、福建族はクチン及び全土に至り貿易、商業に従事し、福州人はレジャン河及びバラムに在つて、農業に従事し、潮州人はクチン、シマンガンを始め全土に在つて貿易商業に従事し、廣東人はサリケイ、シリに在つて農業、ミリ油田の雜役に従事し、客家は全土に在つて農業に従事してゐる。政府は支那人に對しては特に華民局を設け之が事務を取扱つてゐる。

三、政治

サラワクは純然たる君主政體の國であると共に、穩健な專制政治を實施してゐる。王の諮詢機關には最高國務會議、カウシムネ國會及び行政委員會有る。最高國務會議は一八五五年に創設し、議員は二名の歐洲人(一名は書記官長)とクチン在住の五名の馬來人に依り組織せられ、立法・行政其の他統治上必要な事項に關し王の諮詢に應ずる機關である。國會は全體會議であり一八六七年に設立し、議員は四十七名で、歐洲人十九名、馬來人二十八名から成る。馬來人議員はサラワク各地に散在する土人酋長又は主な土人官吏である。會議は普通三年に一回開催せられる。行政委

華僑の數

員會は一八七四年に成立し、其の主な職分は王の不在中代つて政治を行ふのであるが、一九一五年より其の外に王のサラワクに滞在在中にも施政上、王の諮詢に應ずることとした。而して一九二一年には本委員會は事實上殆んど廢絶せられ、一九二四年には命令で之を廢止したが、翌年再組織せられ、現制度は一九三六年四月二十二日公布の法律に依るものである。

以上三機關の外に王の政務執行機關として任免委員會及び入札委員會があり、又ロンドンにはサラワク國評議會アドバサリイカウシムネがあるが、形式的のものに過ぎない。

外交問題に關しては海峽植民地總督の指揮を仰ぐこととなつて居る。英領北ボルネオ同様、海峽植民地總督は英國代理官としてサラワクの外交上の權能を有してゐる。中央行政の長官は王竝に行政委員會の命令を執行し、國內の一般行政に對し責任を負ふ書記官長を以て充てる。各中央行政は首府クチンの中央諸官衙に依り分掌されてゐる。地方行政は全國を四管區に分つて、各理事官を以つて施政に當らせてゐる。

立法は王に依り制定され、成文法は法律、規則及び條令から成る。一九二八年最初の法官が任命されてから著しき發達を遂げた。之等成文法の外に英法、印度法及び普通法等も行はれ、又土人法又は慣習法も行はれてゐる、殊にダイヤ族は結婚其の他の事項に關し特別な慣習があり、多數家族が一軒の長屋生活を爲すので、近親相姦に就いては嚴重な規則を適用してゐる。

司法は治安判事裁判所、高等法院、土人裁判所及び支那人裁判所に分かれてゐる。但し支那人裁判所は一九一一年以來存在したが、後之が特設の必要を認めざるに至り今日は廢止の形になつてゐる。

特殊行政機

財政は一九三七年度歳入四、八〇一、二三六弗、歳出四、一〇四、〇八二弗であり、歳出の主なるものは阿片專賣益金であり、關稅、鑛物採掘料等が之に次ぐのである。

四、産業及び貿易

サラワクは現在尙ほ未開發で奥地資源の調査等は固より未詳である。既に知られてゐる重要産業はゴム栽培と石油採掘である。

農業 農業中ゴムは主産業で、一九三六年六月末現在のサラワク國調査の各區ゴム事業成績は左表の如くである。

ゴムの種類	農園數	成		未	
		面積(エーカー)	樹數(本)	面積(エーカー)	樹數(本)
土人ゴム園	五、七〇二	七五、〇五六	三、六六、一七六	二、三五、五六	三、七〇、一八二
非土人ゴム園	一四、七〇五	一七、八五四・四	一〇、二六、〇九一	七、三六、九	一、二八三、五二〇
總計	七三、四〇六	一三三、一七〇・九	四三、七三、二四七	一九、七三・五	四、九八四、六九二

ゴムの輸出は近年漸次増加し、一九三六年には三六〇、四五六擔、一一、五四八、六八九弗に達してゐる。

胡椒は殆んど全部支那人に依り栽培せられ、主として西部地方に産する。植付面積約四千エーカーであり、輸出は年に依り著しき異同があるが、一九三四年の白胡椒七〇、〇五〇擔、二、九一一、七八七弗、黒胡椒八、七三六擔、一一七、八八七弗が一九三六年には前者三〇、一二三擔、五二二、九二二弗、後三、八二七擔、二八、四八八弗に下つた。

米の輸入

サゴ椰子は中北部海岸地方に在り、主としてメラナウ族が栽培し、植付面積約八萬エーカーである。サゴ粉は椰子の幹から製するが、之が販賣は支那人が大部分を占める。古々椰子も亦約八割は支那人が栽培し、植付面積は約二萬エーカーある。米は住民大部分の常食であるが、米作法は極めて遅れ、大部分は之を輸入に仰いでゐる。

一九三四年—一九三五年年度の米作付面積は六〇七、五〇〇エーカー、粗生産五六、二〇〇、〇〇〇ガントン(玄米換算約七〇萬石)、一エーカー當り粗收穫量九八ガントン(反當玄米換算約三斗一升)と推定されてゐる。輸入米は主としてタイ國及び西貢を仕出地とし、輸入數量は一九二六年以降一九三五年まで十年間の平均に於て三八七、二五六擔、價額二、一七四、五一四弗である。米の不足を深く憂慮した國王は米作に堪能である邦人農民に之が栽培を爲さしめることにし、日沙商會を介し一九三二年日本人米作移民を入れ實耕調査に著手し漸次成績を擧げ、同國政府及び國王の注目する所となるは勿論サラワク一般の關心を深めつゝあると云ふ。

林業 森林は海濱内陸共に多く、全部國有であり、特許に依つて伐採せられるが、近年濫伐の虞ある爲に、土人の薪炭用以外には大規模の拂下げを行はぬ方針である。且つ熱帯地の通有性として多種多様の樹木が密生してゐるから近代式伐木事業には適しない。

現にサラワク油田會社附屬木工所でミリ油田用材供給の爲に稍々新式法に依り伐木してゐるものと、クチンに在るサラワク木材會社の事業位のものである。木材産額はライセンスに基き伐採されたもの一三、三〇一噸、薪材二一、八七五噸の外に、林務局で伐採又は處理したものが一六、五〇一噸、薪伐六六、三七五噸ある。輸出は近年増加し一九三五年は前年に約倍加し四、七六六噸を算した。

鑛業 鑛産物の中最も重要なものは石油である。石油は東南アジアでは蘭領印度に次ぎ、英國東洋艦隊の重要な給油地である。採油権は一九〇九年以來アングロ・サクソン石油會社の獨占となつたが、其の後英蘭石油業者合同の結果、新にローヤル・ダッチ石油會社の子會社として一九二一年七月クチンにサラワク油田會社の設立を見てからミリ及びバラム河の油田を開鑿するに至つた。何れも英國資本の獨占下に在る。而して後記ブルネイのクアラ・ペライトの北西約十哩のセリア油田よりミリ油田北方約五哩のルートン精油所に送油してゐる。

石油産額

同社の石油産額は一九二五年の五四九、六二一噸が一九三〇年は最高六八八、四二四噸に達したが、其の後漸減し一九三五年は半減以下の二五三、七一四噸に下つた。然し同年セリア油田より輸送した原油量は約四四〇、〇〇〇噸あり、之を加算すれば約七十萬噸に達するから、同領は全英帝國中第三位を占める主要石油産地と爲つてゐる。但し近年同社油田の餘命も長くないと考へられ、尙ほ試掘は熾んに行はれて居り、又ミリの南方タタウに新油田を發見し、之が開發に著手してゐると云ふ。最近三ヶ年に於ける各種油類の輸出を掲げば左表の如くである。(次頁)

其の後一九三六年は前年と大差なく、一九三七年は最高價額八百五十八萬餘弗に達した。石油の外に金、アンチモニー、石炭等も産する。金は十九世紀の初頭蘭領サンバ地方に金山を稼行した支那人が鑛脈を追つて當領に入り、遂にサラワク河上流のバウ地方に豊富な砂金床を發見し、熾んに之が採取に従事し、彼等は秘密結社を利用して前記ジェームス・ブルック時代に叛亂を起した。バウ地方の金は主として河床に沈澱した砂金床である。支那人の採金は其の後間もなく放棄し、後ボルネオ會社に移り、新會社に依つて莫大の利益を擧げ、一八九八年より一九二一年に至るまでに價額二四、八二五、三二八弗を輸出した。同社特許期限後又支那人が採掘をしたが極めて不振を來した。近年金相

場の昂騰に伴ひ、サラワク河上流に支那人の産金會社が群生し、興廢常なく、最近堅實のもののみ残つた。一九三三年は稼行數百六十五を算したが、一九三五年には二十八に減した。産額は一九三三年の一八、七二二オンス(價額八五、六四〇弗)が一九三五年は二八、五四九オンス(價額一、六三〇、四六六弗)と爲り、一九三八年十二月一日以降一九三九年二月二十八日までの短期に激増して三、七八八、八五五オンスに達した。其の大部分はバウ郡からの産出で一小部分がクチン郡から産出されてゐる。アンチモニーはサラワク河上流より産し、一八七〇年より一九一六年までの輸出額は一、九〇五、〇三二弗に達したが、最近は衰微した。石炭も一時採掘され有望の炭田はあれど今日は生産されてゐない。

最近三ヶ年間石油輸出統計表 (サラワク商務關稅及海運局年報)

	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	數量(噸)	價格(千海峽弗)	數量(同)	價格(同)	數量(同)	價格(同)
ベンジン	七八、九九〇	一、七四九	九一、七〇八	一、九三五	七〇、一三六	一、五三八
原油	一二八、六八四	八九八	一四、三一九	一〇三		
燈油	三四、四〇五	六四六	一三、六三一	一五七	四〇、三九五	六四五
燃料油	二四五、四五一	一、六九三	四三三、六六〇	三、三三一	四五九、四五九	三、七三八
ソーラー油	八二、一三四	五六四	三三七	七一九	九九、二一八	七八四
總計	五六八、六六四	五、五五〇	六四六、六五五	六、二四五	六六九、二〇八	六、七〇五

石油輸出量

貿易

工業 本領には工業として掲げるに足るものはないが、只首府クチン附近に於けるサゴ精製、ジェルトン精製、椰子搾油業及びレジャン河口レジャンに於けるカッチ製造工業のみである。

サラワクの貿易は年に依つて著しき異同があり、世界的經濟恐慌の初一九二九年には最高八千六百萬弗に達したが、其の後不況時に入り激減し、一九三二年は最低二千七百餘萬元に下り、一九三七年には恢復し、五五、五九〇、六六二弗(輸出三二、六九一、二四七弗)に達した。而して重要貿易品は輸出に於てはゴムを主とし一九三六年の一千百五十萬弗が一九三七年は更に一千九百二十八萬餘弗に激増し、液體燃料、ベンジン等之に次ぐ、輸入に於ては主なるものは原油、米、鐵鋼及び同製品、煙草等である。

五、交通

電信電話 無線電信はクチン市クチン支局(六哩の地點)を始めとして凡そ二十數ヶ處に在り、之等は主として國內に限られるが、新嘉坡其の他にも連絡がある。電話は一九三五年末現在交換局三十九(内私設四局)で、線路延長は架空線及び地下線共約六百十七哩、オーブン・ワイヤ・ルートに依るもの一千三百六十六哩に達する。

鐵道 鐵道は首都附近に約十哩程開通してゐたが、最近自動車發達に依つて經濟立たず、一九三一年以來之を中止したのである。

道路 一九三五年末現在サラワク國內道路の延長は鋪裝路百一哩、普通路三百六哩あるのみである。

水運 サラワクには貿易港の主なものにクチン、シブー及ミリがある。

航路は主としてサラワク汽船會社及び海峽汽船會社の經營に係るものである。サラワク汽船會社はクチン、新嘉坡線は配船二隻で毎五日一回、新嘉坡、レジャン線は配船二隻で毎週一回、クチン、シブー線は配船一隻で毎週一回、クチン、ミリ、バラム線は配船一隻で約一ヶ月一回とし、又クチン、ミリ、バラム間の沿岸航路を經營して居る。海峽汽船會社は配船三隻でクチン、新嘉坡線毎週一回、ミリ、新嘉坡線毎週一回とし、又はリムバン、ラワス線をラプアン經由で經營してゐる。

(ハ) ブルネイ

一、沿革

ブルネイの支那に對する關係は其の由來久しく、前記ボルネオの沿革に一言した如くである。宋代の記録には汶萊又は渤泥と記してゐた。十四世紀にブルネイ王は爪哇のマジャパイト王國に隸屬してゐたが、明の洪武三年(一三七〇年)改めて支那に朝貢を繼續した。十六世紀の初頃ブルネイ國は國威大いに揚り、ボルネオ島の北海岸全部、全スルー島及び比律賓群島の一部をも領有したことがある。

歐洲人で始めてブルネイを世に紹介したのは、一五二二年同國を訪れたピガフエッタである。其の訪問記には當時首都ブルネイ市は人口約三萬五千あり、宮殿の輪奐、市街の景觀には驚異の眼を見張つたとある。其の後十六世紀末頃から國勢衰へ、十九世紀の中頃には其の領土の大半は既述のサラワク王國の建設者ジェームス、ブルーク及び英領

北ボルネオ會社の爲に漸次蠶食せられ、結局サラワク國に併吞せられる運命に陥つたが、一八八八年英國の保護領となり、英國との協約で英國は外交を掌握し、次で一九〇六年以來英國の理事官が駐在し、施政に當ることになった。

二、地誌

小土侯國

地勢 ブルネイはボルネオ西海岸で北緯四・五度より五・二度、東經一一四・七度より一一五・二度に互り、英領北ボルネオとサラワク國とに挟まれた小土侯國である。全面積は六、四七五平方杆で、我が四國の約三分の一に當り、海岸線は約百二十哩ある。

地勢は海岸並に河川流域に小平地がある外、内地は藪澤、若くは丘陵地帯で、國境はサラワクの山系高原に連つてゐる。

氣象 氣温は一年を通し變化極めて少く、海岸地帯は微風で暑氣を和らげ、一九三四年のブルネイ市の氣温は平均華氏八十度乃至八十五度であり、降雨量は年平均百乃至百二十吋である。

人口 一九三一年の國勢調査に依る三〇、一三五人が、最近一九三八年末現在概算に依れば三六、五六一人に達し、内馬來人三〇、四三二人、支那人四、八七一人、印度人三七八人である。當初土人（ツスン族）の名家では其の血管中に支那人の血液が混じてゐることを自負してゐると云ふ。

三、政治

ブルネイ王國は行政上ブルネイ、トゥトン、ベライト、テムブロン及ムアラの五地方に區劃され、首府はブルネイ市に存し、王及び英國の理事廳も同市に在る。

王は諮詢會議に依つて主宰者の地位を有するも名義のみで、英國より派遣の理事官の傀儡である。即ち庶政は英國理事官獨裁の下に各官署を統轄してゐる。理事官は英國政府の任命に係り、回教關係を除く一切の内政を管掌してゐるが、理事官は海峡植民地總督の兼任する高等辨務官インコンシシヤナの監督を受ける關係上、其の施政方針も亦馬來諸州のそれと相通する傾向がある。外國との交渉は英國政府の執掌する所である。立法は英國理事官を含む九名の議員から成る會議の協賛を経るものである。

司法、財政

司法は英領馬來と同じく理事官裁判所、第一級裁判所、第二級裁判所、土人裁判所及びカチ裁判所の五級に分れる。財政は極めて貧弱で一九三四年の歳入九二八、六八九弗、歳出七七九、五二一弗である。歳入の主なものには關稅及び專賣收入であり、歳出の主なものは土木費である。

四、産業及び貿易

ブルネイの産業は農業及び鑛業を擧ぐべきである。農産物の主なものはゴムであり、サゴ、米等あるが未だ産額は少い。ゴムの栽培面積は一九三四年末現在一萬四千エーカー以下で、内五千エーカーは歐人經營の四農園に屬し、他はアジア人の小企業に屬した。一九三六年の輸出は一、三六〇噸、價額七九〇、七〇三弗を算した。

鑛物は石油を主とし、一九一四年ベライト郡のラビに始めて發見された。一九二四年英領馬來石油會社は其の附近

一帯のコンセンションを得た。次で一九二九年四月クアラ・ペライトの北西約十哩セリアに油田を發見し、同地に會社の本部を置いた。本油田はサラワクのミリ油田に匹敵する優良田であることが判明したので。一九三〇年及び一九三一年の兩年に互り準備を完成し、一九三二年以來セリアより前述の如くサラワクのルートン精油所の輸送管で送油を開始した。一九三六年末現在生産の油井は五十三本あり、産額は四五二、六二二噸に達した外に、天然瓦斯の産額は九四〇、四五五、四四二立方呎を算した。石油の輸出は一九三二年の一七六、〇〇〇噸が一九三六年には四四五、〇八一噸に増加し、政府の石油料金は一九三六年に三九九、九二九弗に達し、歳入の約四三%を占めた。同年の天然瓦斯の輸出は五一六、一〇三、九〇七立方呎に達した。

貿易

ブルネイの一九三六年に於ける貿易額は前年に比し若干増加し六、〇一七、三二九弗(輸出四、一七三、三三五弗)に達し、出超多く二百二十七萬弗を超えてゐる。輸出の主なもの前記の原油で、約三百萬弗即ち輸出總額の七割以上を占め、之に次ぐものはゴム、カッチ、天然瓦斯等である。輸入の主なものは金、銀、機械類、米、煙草、綿布等である。

五、交通

電信 無電局はブルネイ市、ラプアン、ペライト及テムブロンに在る。電話は一九三六年末迄に近隣農園までに擴張され、ブルネイ、トウトン間に三十六哩架設された。前記石油會社はクアラペイトに交換局を有し、セリア又はサラワクのミリに對する通話にも供してゐる。

鐵道道路 鐵道はなく、道路も頗る不完全で特筆すべきものがない。

海運 海運に就てはブルネイ港は一九三〇年築港が完成し、コンクリート造りの浮船渠を有する鐵筋コンクリート棧橋があり、吃水十二呎以下の船舶の入港に適す。新嘉坡、ラプアン間に毎週一回航路があり、又海峽汽船會社のモーター船がブルネイ、ラプアン、クアラペライト及リムバン間に定期航路を開いてゐる。

ラプアンはブルネイの東北四十哩の海上に在る海峽植民地直轄の小島で、新嘉坡とブルネイとを連絡する交通の要所である。

第五節 熱帶太平洋諸群島

一、概説

MU大陸

地理學者の説によると、太古熱帶太平洋上に、世界の半分を支配したのであらうと思はれるやうな文化を持つた大帝國があつたが、海底の大噴火に伴ふ陸地陥没のために此の大陸は忽然と滅裂して、其所に住んで居た幾千萬の人々は悉く滅亡してしまつたが、唯だ當時文化があつたことを想像し得らるべき巨石文化がボナペ、パラオ、マルデン、イースター島などに、今尚ほ存在して居て其の當時の關係を知り得るのみである。この大陸をゼームス・チャーチワードはMU大陸と名づけて居る。

MU大陸が陥没してしまつたから、幾萬年か極めて長い間、熱帶太平洋の名は、世人から全く忘れられて居た。然るに何千年か經過してから後、世界的に民族發展のための大移動が起り、東から西へ、西から東へと絶間なき探検活

躍となつて、一五一一年になつて、所謂熱帯太平洋島嶼発見なるものゝ歴史的第一頁が飾られるに至つた。熱帯太平洋中には幾千の島嶼が存在する。其の大部分は所屬を明かにして居るが、形の極めて小なるものに至つては、未だ何國にも屬しないものがあり、或は繋争中のものもあり、或は共同統治の島もある。近年に至り、飛行機によつて、新らしく発見占領された島もあり、如何なる小島嶼と雖も、これを交通聯絡又は戦略上から見て大なる價値あらしむる可く各國は競つて様々の設備を施して居る。

熱帯太平洋の重要性

熱帯太平洋の重要性はこればかりではない。金、銀、ニッケル、オスミン、燐鐵等の鑛物資源、水産及び林産の資源も亦多く、殊に無電、海底線及び航空基地並に中繼所として極めて重要な役割をする。

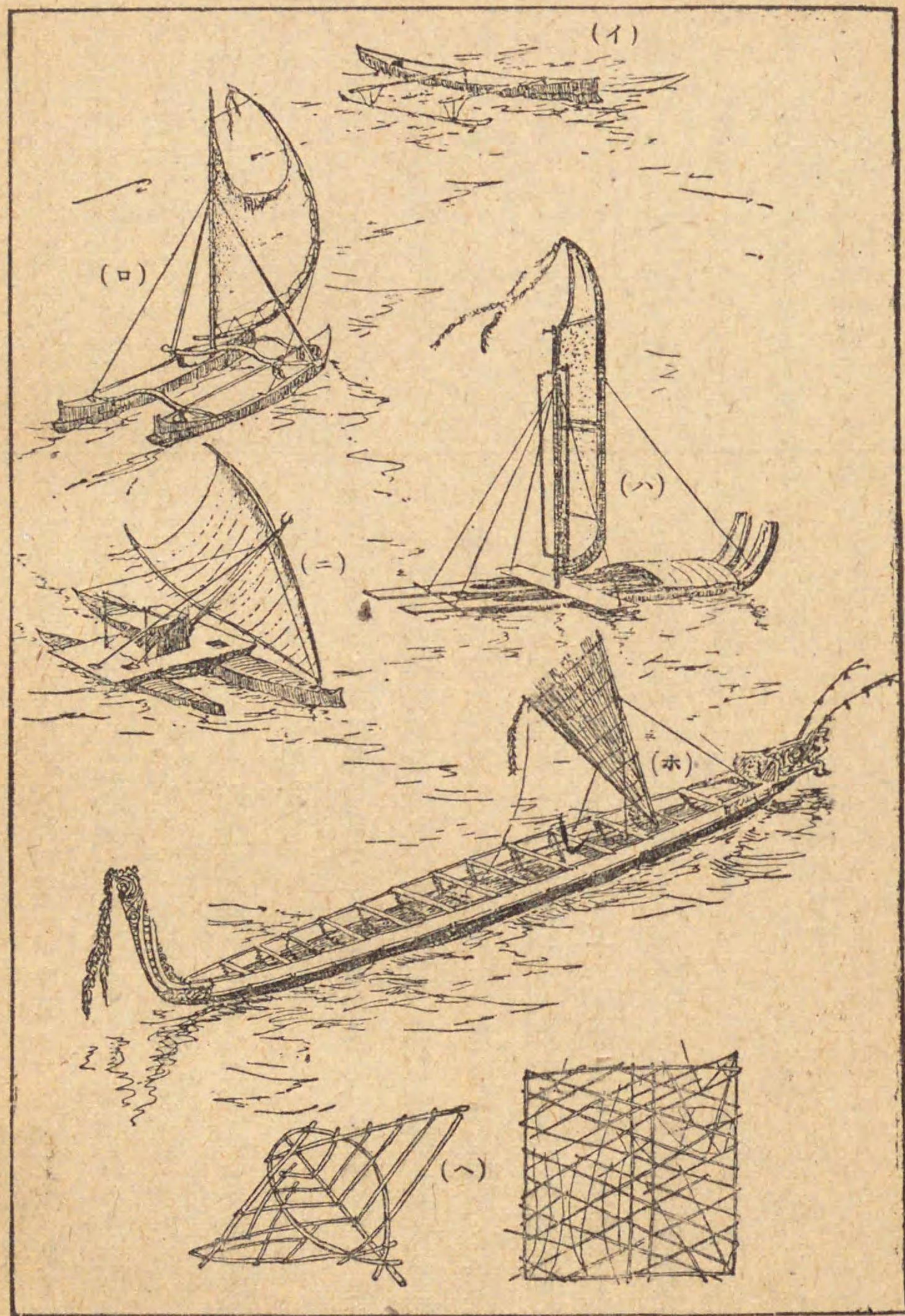
熱帯太平洋諸群島は、その距離から云へば我が委任統治領から遠からざる位置にある。故に是等の諸島は、我が邦人によつて夙に発見占領さる可き筈のものであつたが、徳川幕府三百年、鎖國の眠りの間に、遠き西班牙、葡萄牙、和蘭、英國人などによつて占領されてしまつたのである。

十七世紀より十八世紀に互る間に、多くの熱帯太平洋諸島は発見された。発見者の名は今も尙ほ島の名となつて遺されて居る。

熱帯太平洋諸群島への耶蘇教進出も亦目覚ましいものがある。教化によつて、從來の首狩や、食人の蕃風は著しく矯められ、文化向上に善導されたことは絶讚に値す可きものがあるが、多くの宣教師が島民から殺された理由によつて島嶼を占領し、これを軍略上に使用して居る國も亦甚だ多い。

學者は熱帯太平洋をメラネシア、ミクロネシア、ポリネシアの三つに地理的に大別して居る。

ボリネシア人の舟と海圖



(イ)ノカ出張 (ロ)ノカ双哇布 (ニ)ノカ双-ジフ (ハ)ノカ双チヒタ (ホ)オマリ戦舟 (カ)帆と糸の圖 (キ)帆タウカ、ラ



住民人口の減少

メラネシアとは、濠洲大陸の北方と、その東北方に、赤道の南に存在する多数の島々の名であつて、メラネシアのメラは、拉丁語の黒い義で、皮膚の黒い土人の住む國の義であり、全面積は九十五萬方哩、ニューギニア、ビスマルク、ソロモン等の諸島がある。

ミクロネシアも亦地理的稱呼であつて、小さい島の義、我が委任統治諸島及グアム等を包含す。

ポリネシアは熱帯太平洋の東部を占め、佛領オセアニア、布哇、クック、サモアの諸群島を云ひ、面積約三百萬平方哩、住民は體格概して良好、稀に高さ二米に達するものがある。然るに捕鯨船、探検家、其の他の白人企業家との接觸により、飲酒や、射倅を覚え、性病に罹かるもの極めて多く、逐年人口を減じ、密度は十一人に過ぎないが會て太平洋諸群島中、最も優れた文化を持つて居た大民族であり、今尚ほ巨石文化の趾が諸所に存在して居る。

二、英領パプア

英領パプアは我が委任統治領の南端グリーンウィッチ島の南方八百餘海

里、東經百四十一度乃至百五十七度、南緯五度乃至十二度にある。東はソロモン群島、西は東經百四十一度を境界として蘭領ニューギニア、南はパプア灣及トールス海峽を距て、濠洲のクキンズランド、北は濠洲委任英領ニューギニアに境し、面積は屬島を併せて九萬五千四百方哩、一九三〇年の人口約三十萬、内白人の數千三百二十三人。會てテイドール王領地であつたが、一八八四年始めて英吉利保護の下に置かれた。其後佛蘭西は國事犯人をニュー・カレドニアに謫遷したが、英國政府は囚人がパプアに逃込むことを虞れ、急に濠洲の管轄に編入し、スクラッチレー將軍が長官となつて赴任した。

パプアは昔、パポイア或はオス・パプアと呼ばれ、内地のみの面積は八七、七八六方哩と推算されて居る。奥地は全く未踏査にして、東南地方と、海岸や、河邊の一部だけ調査が済んで居る。奥地には首狩や、食人の蕃風今尚ほ存し、住民は丈高く色黒きパプア族の外、水草を追ふ矮人ネグリティ及び馬來系のメラネシア人等十餘族にして、多くの方言を有し、就中モトア語は稍々廣く使用される。海岸に近き少數の土人は白人と交渉を有するも、其の他は全く未開にして、フライ河畔の土人は最も兇暴性が有る。

地勢南に低く、オーウェン・スタンレー及ヴィクトル・エマヌエル等の大山脈は斜に西北より東南に延び、北には海拔四千米を超ゆるアルバート・エドワルドの峻嶺聳え、フライ、バマトラマ、キコリ、ストリックランド、プラリ等の諸河洋々として長蛇の如くパプア海に注ぎ、河口は數百の洲を作り、鰐魚多く、ニッパ及び紅樹密生し、土地低濕、マラリヤ病が多い。フライ及プラリ河の如きは、汽艇に乗つて百數十哩週航することが出来る。國境に近い山地は、石灰岩に蔽はれ、全く水無きも、南下するに従つて、地味肥沃、椰子、ゴム、棉花の栽培に適し、濕地にはサゴ

首狩と食人

の密林があり、高山には榮蘭や、百合が繁茂して居る。南部にはヨダ金坑の外に、ルイシエード、ウッドラーク島にも金山があつて、一九三二年中金の産額は五十七萬三千オンスである。この外銀、鉛、黒鉛、年産額二十萬磅の銅、百二十六噸のオスミン、石炭、ニッケル等の礦物、ゴム、蝶貝、玳瑁、極樂鳥などを産す。東南及び西北より季節風の吹く時は、豪雨を齎らして河水氾濫し、又一般に蒸暑く、風土病發生し、到底白人永住の地ではない。屬島の主なものは左の通りである。

主なる屬島

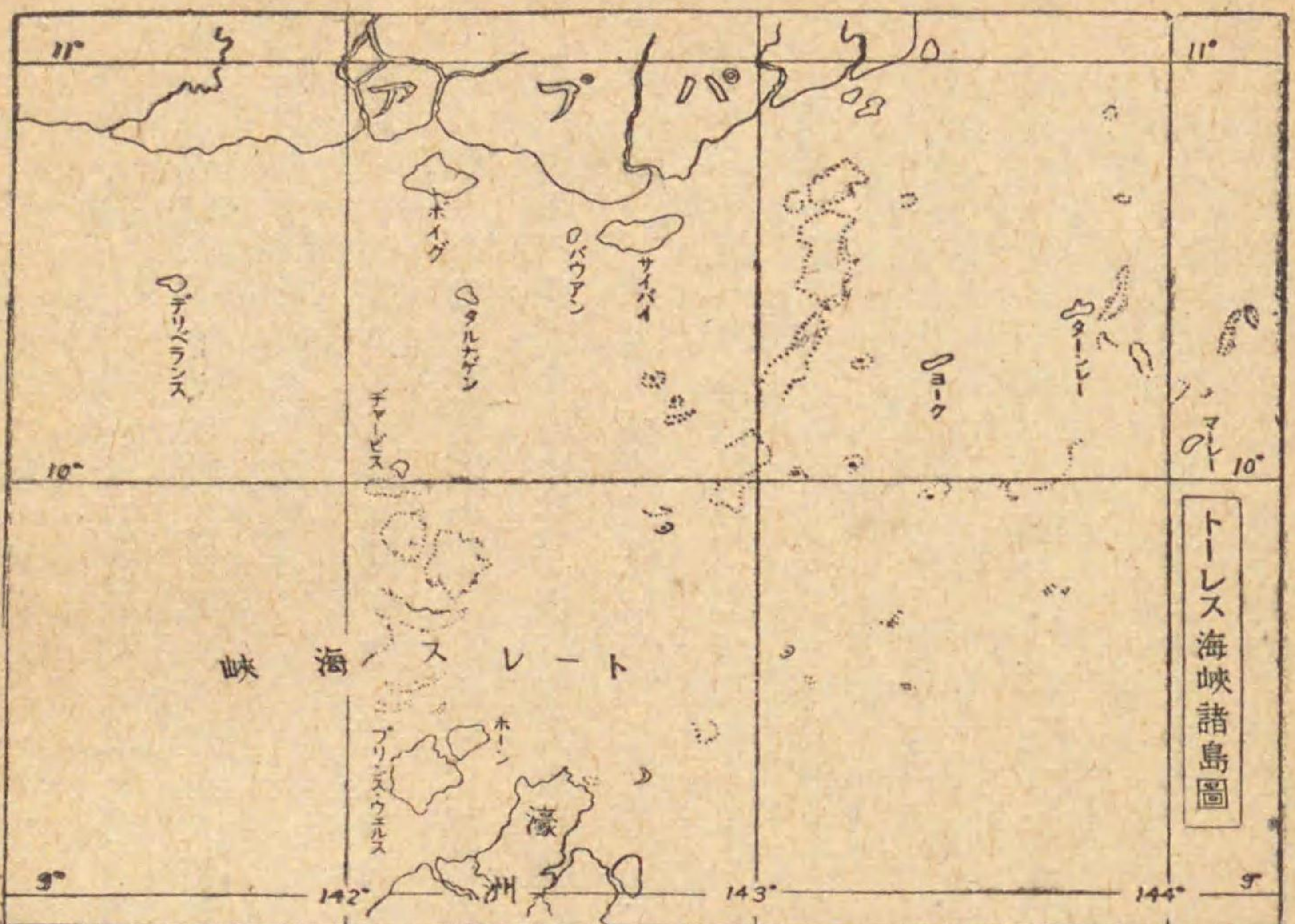
- ダントロカストー トロブリアンド ルイシエード ウッドラーク ノルマンデー
- サウスイースト ロッセル ラフリン

モアズビーに政廳が在る。副總督の下に九人の長官を置き、行政及び立法の機構を設け、宣教師中より一名の議員を選出し、全區域を八つの行政区に分つて居る。土人鎮撫のため千餘の土民兵を置く。白人經營の植林地面積六萬一千噓に及んで居る、サマライ及モアズビーに無電塔を設け、モロベ金坑と、モアズビーには空港がある。

海岸に住む土人は案外従順である。彼等の所有權は良く保護され、土地の讓渡は禁止されて居る。政府は、土人の經濟的獨立生活が出来るやうな政治を行つて居る。歳出は歳入を超え、これに加ふるに、濠洲聯邦政府より毎年五萬磅を補助して居る。

トロブリアンド島には五千五百の蕃人が住んで居る。會てマリノウスキーは、土俗學研究のため、數年間本島に入蕃し、各種の調査を遂げ、數種の著述がある。又巡邏官ハイヰは、食人種を討伐のため奥地の蠻界に入りし後討伐記を著述した。ハーレーは、水上飛行艇を使用してマーレー湖畔の蕃人土俗を調査し其の著書がある。ダントロカスト

海軍根據地



一群島は、山高く、諸所に温泉湧出し、人口約四萬、歐洲大戰の際には、ノルマンデー島に一時海軍根據地を置いたことがある。

ルイシエード群島は夙に十五世紀中に、馬來人及び支那人の往來があつた。一六〇六年英人ルイズ・トールレスの發見に係り、現在土人數二千五百、毎年十四萬オンスの金を産出する。

ウッドラーク群島は土語ムルア島と呼び、最近年産七十萬磅の金を産し、森林資源に富み、良港がある。土人は特産のグリーンストーンを用ゐて石斧を作り使用して居る。管内三箇所に無電塔がある。

三、トールレス海峡諸島

北はパプア、南は濠洲、その間のトールレス海峡即アラフラ海と、クインスランド海に散在する百數十の島嶼並に岩礁の總稱である。その大部分は、濠洲の統治下に置かれてあり、北はパプア海岸を去る三海里を離れた所を以てパプアと濠洲統治の境界線として居る。就中重なる島嶼は左の通りである。

木曜島 サイバイ島 チャービス島 マーレー島 タルナゲン島 ダーレンレー島 ポイグ島
デリベランス島 プリンス・ウエールス島 ホーン島 バウアン島 ヨーク島

これ等の島々は、南緯十度線を南と北へ各々五十哩餘、東經百四十一乃至百四十四度の熱帯海洋中に在つて、概ね火山岩より成り、曾ては最も兇惡な首狩食人種が住んで居たが、今日は宗教の教化によつて文明を知り、住民の多くは眞珠貝の漁獲に従事して居る。

海獣と人魚

木曜島は其の廣さ數町歩に過ぎない、人口約千七百、中白人五百、曾て邦人が潜水夫となつて、眞珠を漁獲した名所であるが、今日は英官憲の壓迫を受け、事業頗る振はない。附近は潮流が急で、且つ干満の差が著しいから、航海は危険である。此邊一帶に怪奇の海獣人魚が棲息する。是等の島嶼は悉く英領であり、住民は濠洲系メラネシアで、陸には、鳥や、蝴蝶が多く、住民の數は判然しないが、就學兒童の數は千四百となつて居る。

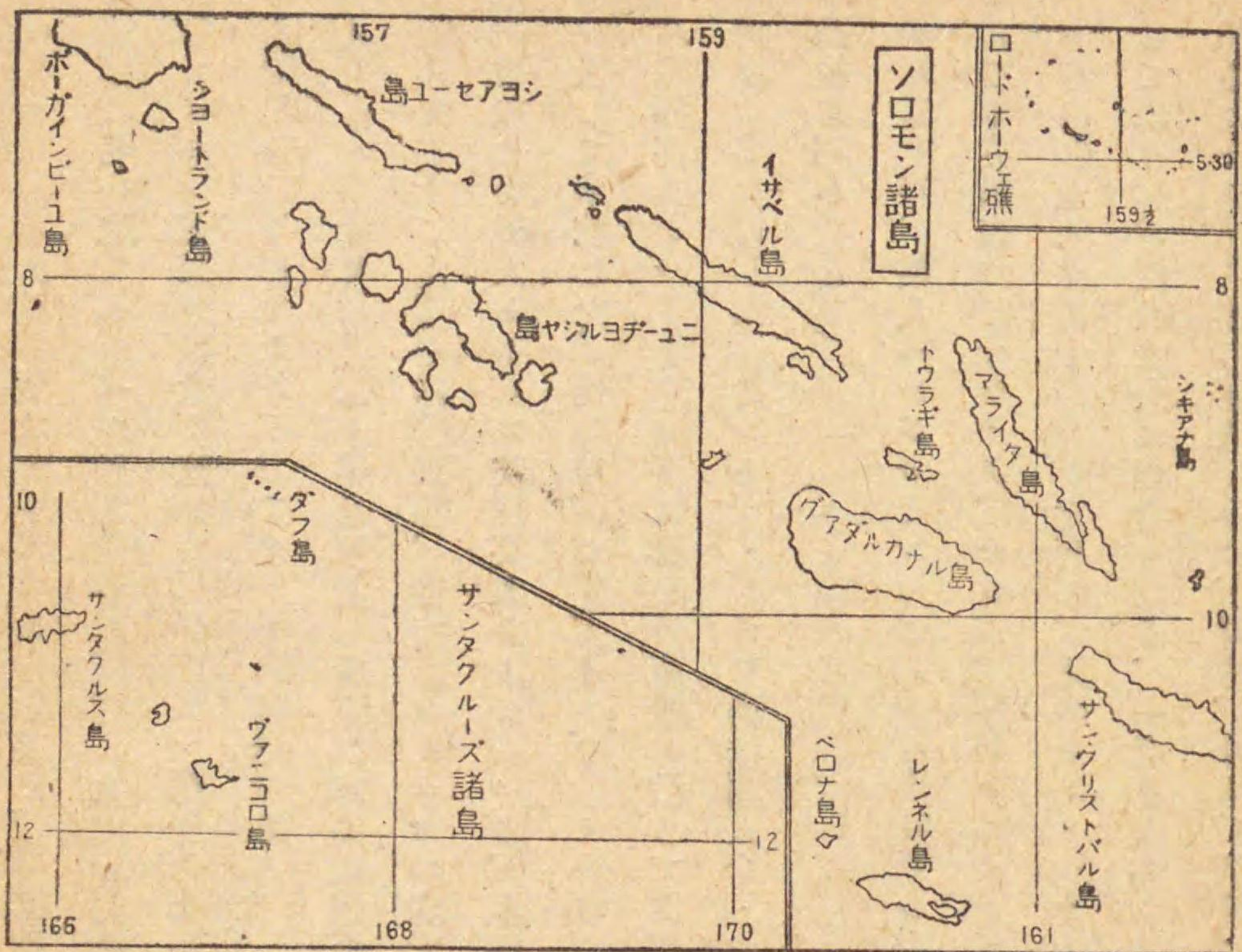
極東から濠洲へ通ふ汽船は、必ずこのトールレス海峡を通過しなければならぬから、土人はこれまで屢々遭難船を見て、掠奪したことがある。恰もニューギニアのフライ河畔に住む蕃族に似た所がある。木曜島の附近に、水曜島、クッド、ハンモンド、金曜島、プリンス・ウエールス島などの小島があるが、特記すべき程のものはない。

四、ソロモン群島

本群島は英吉利植民省直轄植民地である。

我が委任統治マタドール島の南五百海里、東經百十五度乃至百七十度、南緯五度乃至十二度半に位し、西北より東

ソロモンの諸島



第五節 熱帯太平洋諸群島

南に二列に竝ぶ。東にサンタクルス島、東南にニュー・ヘブリデス諸島、西にニュー・ブリテン及ニューギニアの諸島があり、面積一四、六〇〇方哩、一九三七年の人口十三萬五千、内土人九萬四千七百、支那人二百、白人五百、その他であつて、マライタ島に四萬、ボーガインヴィーユ島に四萬七千人集團をしてゐる。

ソロモン群島は大凡三十の島嶼より成り、主なるもの左の如し。

- サン・クリストヴァル
- グアダカナル
- ニュー・ヘブリヂア
- シ・トランド
- ボーガインヴィーユ
- ユ・オントン・ジャワ
- シ・アセーユ
- マライタ
- ラッセル
- イサベル
- シキアナ
- サヴァ

これ等の島々には海拔二千米餘の山高く聳え、草木繁茂す。殊に南部の諸島は牛馬の放牧に適し、各島間は水清く深い海盆にして山紫水明、所謂龍宮の觀があり、旅人の賞嘆措く能はざるものがある。一五六七年西班牙の航海業者

アルヴァロ・メンダニヤはサルミエントと共に、秘露政府の依頼により、西へ西へと太平洋を航海し、一島を発見した。妻の名を取りイサベル島と命名し、更に次々と島嶼を発見したが、あまりに景色良く、寶物が多い島であるので、昔のソロモン王榮華殿堂の意味で、ソロモン群島と命名したと言はれて居る。獨逸人は本群島をメックレンブルグと呼んで居る。沿岸にはギゾ、アオラ等の諸港がある。

メンダニヤは其の後二十年を経過して再び本島に遠征を試みたが、其の時は唯だヴェラ・クルス一島のみを発見して斃れてしまった。一六〇五年、曾てメンダニヤの水先案内であつたキロスは、南米を迂回して再び渡航した。この外一七六七年英人トーレス及び英人カーレット、翌年佛人スールヴィーユ、ラ・ペローズ、ダントロ・カストー等相前後して來航した。此の時、ボーガインヴィーユは、ブカ、ボーガインヴィーユ、シ・アセーユの諸島を発見、一七八八年英人シ・トランドは群島の南邊に沿うて周航し、本群島を以て一塊の巨島と誤認し、これにニュー・チョルチャの名を冠した。オントン・ジヤワ島は蘭人レ・マイヤ及シ・ハウテンが一六一六年に發見した。島民は刳木舟の操縦に巧みである。

英・佛人の
來航

一八五七年、英人ベンジャミン・ポイドは快艇ワンダー號で島邊を探検中、蕃人に攫はれて行衛不明となつた。一八九二年英船來つてマライタ、マロボ、グダカナル、サン・クリストヴァル諸島を占領す。

本群島の土人は數十の方言を有し、兇暴なるメラネシアン首狩食人種であると報道された爲め、宣教師は布教に躊躇して居るが、實狀は夫れ程でもなく、一度蕃人から信用を受ければ、襲撃されるといふやうなことは滅多にない。然るにマライタ島の蕃人のみは、昔も、今も、同様に白人を憎悪し、白人と見ると、忽ち襲ひ蒐つて首を取らなけ

れば止まないといふ。要するに、曾て白人が來て掠奪をしたり、婦女を姦したり、殺したりした罪の報ひであらう。棉花や、甘蔗栽培のため苦力募集に帆船が沿岸を周航することがある。此の場合、映畫を彼等に見せると、珍らしがつて多くの者が集つて來る。カウポイが牛馬を捕獲したり、刃傷の場面などを見せると、此の映畫は、自分達をモデルとしたと思つて、眼を剝ぎ、飛び蒐つて來るような險惡な光景を呈し、却つて募集の結果が面白くないといふ。

本群島にはこれまで多くの宣教師受難の歴史がある。一八八四年加特力神父佛人エパーレは、布教團を伴つて、イサベル島へ上陸、その日、蕃人から悉く殺された。一八五六年、バターソンといふ英國宣教師も、ヴェラ・クルス島に上陸したが、彼も亦この島で殺害された。

グダカナル島には土人の藝術指導の爲め公立工藝學校の設けがあり、又教會堂で必要とする什器が製作されて居る。マライタ及びグダカナル島には、多數の癩患者が居り、小規模ながら病院及び藥局の設備がある。群島一般にマライタ及び熱帯赤痢病患者が多い。曾て濠洲から十一人の探検隊が來てマライタ島に上陸したが、土人から殺された、今その殉難紀念碑が建つて居る。

五、サンタ・クルス群島

ソロモン群島の東三百海里にある群島で、一七六七年英人カーレットの發見にかかり、クイン・シャーロット或はニテンデー島とも呼ばれ、佛人ラ・ペローズが遭難した所である。一八九八年英領となつた。面積三百八十方哩、

宣教師等の
遭難

人口約五千、左の島嶼から成る。

フタタカ ヴァニコロ ダフ モトイテ ディコピア マテイマ

土人の文教に關しては、從來宗教團のするまゝに放任されて居つたが、今や政廳は、宗教と文教とを別箇にし、宗教に關する事項は教團に、教育に關する事項は政廳が直轄する方針になつてゐる。トツラギ港及びヴァニコロに無電塔がある。一九二六年の輸出總額四十一萬八千磅、輸入二十六萬六千九百磅、労働者少なく、且つ未踏査の蕃界が多いので、産業は振はない。主なる物産は左の通りである。

椰子、棉花、煙草、鳳梨、ゴム、甘藷、木材、石鹼、家畜、礦石、蝶貝、高瀬貝

六、英領ギルバート諸島

最初の發見者

本諸島は我が委任統治マーシャル群島の東南僅に二百海里、赤道を南北に挟み、東經百七十三度附近にあつて、南北に羅列する十六の小島から成つて居る。面積百六十六方哩、一九三六年の人口二萬六千三百四十、熱帯太平洋群島中最も人口稠密の島で、俗にキングスミル群島と呼ばれて居る。最初の發見者は英船長バイロンであつて、一七六四年東端の島を發見し、次で英船長ギルバート及びマーシャルの兩人は、北方の諸島を發見したといふ。

群島には、大昔ギルバート群島とエリス群島とが、地理的に連續して居た時代に、島民はセレベス、ハルマヘラ及セラム諸島と往來をして居たといふ口碑が残つて居る。今一つの口碑には、今から三百七、八十年の昔、髪と髯とが赤く膚の白い一人の男が箱船に乗つて本島に漂着し、酋長の娘八人に合計二十三人の兒を設け、其中十四人が島に

残り、その子孫が今尙ほ多く現存して居るといふ。一八九二年英領となり植民省に直轄されてゐる。住民中、布哇に出稼して居るものが多いが、成績は良くないらしい。一九二一年中に留白人の數二百六十四、支那人三百五十人となつて居るが、今日は著しく減少を示してゐる。土人は多くの方言を有し、曾ては部落と部落、島と島とが互に闘ひ、刳木舟を操つて遠征し首狩を行つたものであつたが、今日は最早そのやうな事なく、良く基督教化されて居る。群島中五箇所に無電塔の設けがある。

七、オシアン島

我がマーシャル群島の南三百五十海里、東經百六十九度半、南緯〇度五十二分にあつて周圍六哩、面積千五百噓に満たない海拔七〇米計りの小島である。一名バナバ島と稱す。一九三六年の人口は土人一、七七七名、白人一三四名、支那人八八〇名、計二、七九一名となつて居る。

燐礦石

本島には多量の燐礦石が天産する。其の質良好で純分八四%に達し、南米や、中米産の四〇乃至六〇%のものに比し遙に優良である。毎年六萬乃至七萬噸を採掘し、これを濠洲及び新西蘭に供給して居る。此所に燐礦石があることを知つたのは、宛もローマンテックのやうな話で、シドニの役所の支關際に變つた大きい石が一つ置いてあつたのを或人が見て變な石だ、何所から持つて來たかと尋ねて見ると、バナバ島から持つて來たといふのであつた。然るに分析の結果、此の石は優良な燐礦石であつたので大騒ぎとなり、大勢で遙々赤道直下まで乗出し、其の産地を究め、遂に今日あるに至つたのである。英本國植民省に直屬して居り、島内に無電塔の設備がある。

八、英領エリス諸島

本群島は、我がマーシャル群島の東南八百海里、南緯五度乃至十度半、東經百七十六度乃至百八十度にあつて、面積僅に十四方哩、一九三六年の人口四千二百二十三、九つの小島から成り、島は低く海拔數米を出でない。島民は悉く基督教化されて居る。口碑によれば、昔ギルバート島民と、エリス島民とは同種族であつたが、サモア島方面から北進して來た者の爲めに北方に追拂はれ、今日エリス人と云はれて居る四千餘の島民は、サモア人の血統を受けて居るものばかりであるといふ。

發見者

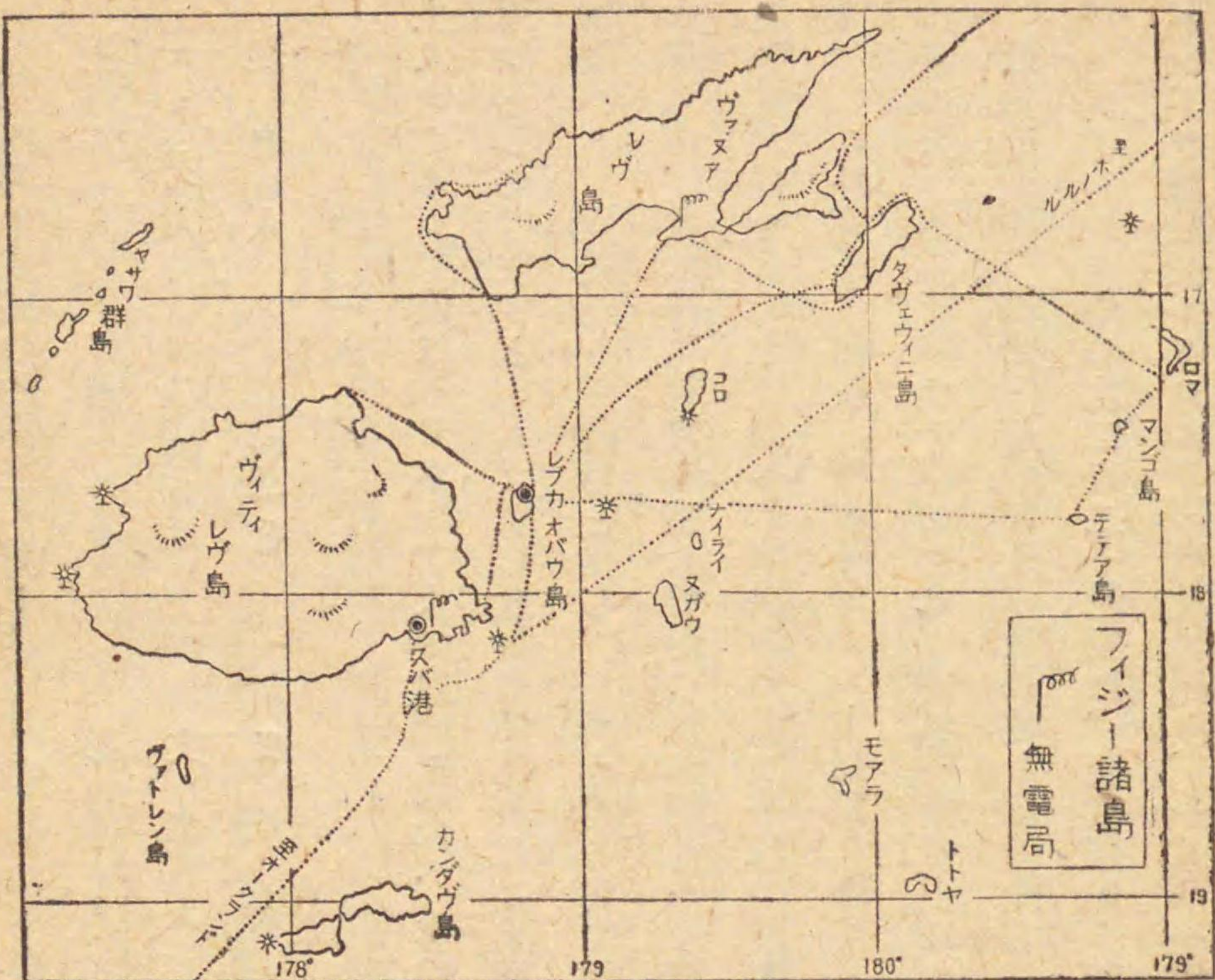
本群島の發見は一七八一年西班牙人マウレリアであり、次で一八一九年、島の南部は英人船長ビーターによつて發見された。一八九二年ギルバート島と共に英領となる。フナフテ島に政廳及び牢獄が設けられて居り、英本國植民省に直轄されて居る。

九、英領フィジー諸島

本諸島は我が委任統治マーシャル群島の東南千五百海里、子午線を挟んで南緯十七度附近にある。約二百五十の火山岩島嶼から成り、内百八十島は無人居、面積七〇八三方哩、一九三八年中の人口、二〇五、三九七名、主なる島嶼次の如し。

- ヴィティ・レヴ
- ヴァヌア・レヴ
- ヤサワ
- タヴィウニ
- カンダヴ
- トトヤ
- ロトマ
- オヴァラウ
- ヴァト・レレ

發見と探検



西曆一六四三年西班牙人デ・キロス及び蘭人タスマン發見、一七六九年キャピテン・クック來航、一七八九年キャピテン・フライはバウンテナー號にてヤサワ島に上陸、部下の反抗に遇ひ、舟に乗つてバタバヤに逃走した。一八二〇年露人ファビアンを來航、一八四〇年ウィルクスを隊長とする米國探検隊上陸、隊員百七十名本島に滞在、島民が危害與へたるにより、九千磅の賠償金を要求した。依て酋長は英吉利に援を求めたが、當時ニエーランド島で動亂が起きて居たので、英吉利は救援を躊躇した。その後、酋長タコンバウは、マアフ島民から攻められたことがあつたので、今度は轉じて米國に援を乞ふたが、これも容れられなかつた。彼自ら獨立をするに如くはなしと思ひ、内閣を組織し、共和政治を行つたが、幾何もなくして瓦解してしまつた。その後一八七四年に至り、遂に英吉利に併合せられた。

爾來英國皇帝親任の西太平洋民政長官は本島に在つて、その下に七人の行政官と、三十一人の立法官を置き、全島

を十七の行政区に別ち、土語コロタイなる稱號を有する酋長格をして島民の統治に當らしめて居る。
一九三四年中住民の内譯左の如し。

土 人	九八、四七九	印度人	八三、二八九	白 人	四、七六三
ロトウ人	二、四九八	支那人	一、四八六	ポリネシア人	一、八六六
混血人	三、七二七	日本人	三五	其 他	一、三一六
合 計	一九七、四四九				

土人メラネシア族はポリネシア人の血統を受け、容貌魁偉、性兇暴、今尙ほ折々首狩の蕃風を有し、老幼の病者は無用物として打殺すといふ。然し近年基督教化により著しく開け、スバ港の如きは人口一萬五千を有し、醫學校あり、植物園あり、立派なる開港場と化し、レヅカ港と共に物産の集散地となつてゐる。

本群島は、曾て棉花栽培が盛んであつたが間もなく衰微し、これに代ふるに甘蔗を以てし、印度から多數の契約移民を募集移住せしめた。現に本群島内には四十餘の製糖工場があり、一九三七年中砂糖の輸出高は百萬噸を超過して居る。この外椰子・棉花・煙草・ゴム・玉蜀黍・珈琲・カボック・鳳梨・バナナ・米・ココア・牛酪・木材・家畜及び少量の金がある。バナナの如きは、僅か一噓の土地にて三萬封度の收穫があるといふ。貿易總額は三百四十二萬磅、北米合衆國・濠州・新西蘭及び加奈陀を取引先とし、毎年輸出超過を示して居る。

ヴァヌア・レヅ島の北二百二十海里に、面積僅か十四方哩、人口二千七百、火山岩から成るロトマ島がある。本島はバンドラ號船長エドワルドの發見に係り、一八八一年植民地となり、爾來常に醫術を心得た英吉利人が島守となつ

産物

て駐在し、熱帯太平洋諸群島中、最も教化されたる順良の土民が住んで居る。

ヴァヌア・レヅ島の面積二、二二八方哩、ヴィティ・レヅ島は面積四、〇五三方哩、孰も海底電信の中繼所であり、全群島内に六本の無電塔がある。タヴァ島では近頃金の採掘が始まつて居る。

一〇、英領フェニックス諸島

我がマーシャル群島の東南九百海里、西經百七十二度、南緯四度、西經百七十二度附近にあつて、太平洋航空の要路に當る。面積僅に十六方哩、人口六十、曾て燐礦石を産出したが、今日は採掘し盡してその跡を絶つた。航空連絡の發達によつて著名となつたが、若し北米と濠洲との間に此の連絡が出来なかつたならば、或は無價値に終つたかも知れない小島である。

フェニックス群島内には、右の外マックキアン、バーニー、ハル、シドニー等の小島があるが特記すべきものはない。一八九二年英領となり、植民省の直屬となつて居る。

一一、英領ユニオン諸島

トケラウ群島とも呼ばれて居る。現在新西蘭統治下にあつて、時々軍艦が巡航、警戒をして居る。南緯十度、西經百七十二度、英領サモア群島の北にあつて、三つの小島から成り、面積僅かに六方哩に過ぎないが、サモア語を使用する約一千のポリネシア人が居て、椰子の栽培に従事して居る。無電塔が設けられてあつて、これに熟練した土人だ

航空連絡地

唯一の米領

ユニオン群島の内、スワイン島のみは米領である。

一三、トンガ諸島

我が委任統治マーシャル群島の東南約千八百海里、南緯十五度乃至二十三度半、西經百七十三乃至百七十七度に在り、一名フレンドリー群島とも呼ばれ、島數約八百、面積二百五十方哩、一九三六年の人口三萬二千七百九十、内白人三百四十二、混血兒四百九十九、土人三萬一千六百餘、その他三百五十人である。フィジー島スヴァ政廳の管轄下に置かれてゐる。一九〇〇年五月英國保護領となり、立憲政治を布き、女王の下に英人理事官が居る。

島數八百の内、名のあるもの約二百、山高く、水清く、風景がよい。大抵火山床たる珊瑚礁の基盤上に立つて居て、數座の活火山がある。トンガとは、土語で南の義である。主なる島嶼左の如し。

トンガタブ ノムカ トフォア ファルコン ハアバイ エウア ヴァヴァウ
ニャアトブトンブ アタ フォヌアレイ カアファ フンガハアバイ

最初の來島

一六一六年、蘭人レ・マイアー及シュ・ハウテンの兩人が初めてニャアトブトンブ即ちケッペル島に寄港し、一七六七年サム・ユエル・ウォーリスが來島した。一六四三年タスマンはトンガタブ及ノムカ島に來航して之にアムステルダム島及ミッドルブルヒ島と命名した。一七七三年と一七七七年の兩年に、キャピテン・クックが來航し、約三ヶ月間トンガ群島に滞在し、住民から好感を持たれたので、彼は群島にフレンドリーといふ名を冠したと云ひ傳ふ。ヴァヴァ

ウ島は西班牙人マウレリアが之を發見した。

本群島は熱帯太平洋に於ける唯一の君主國であつて、一千年以上の歴史を持つ。傳説によると、太古二人の王が全島を支配して居たが、一方の王は、他方の王女を娶つて、一大王國とした。今尚ほ諸所に當時の巨石文化の趾を残して居る。一七七八年群島に革命が起り、英人ブライはバウンティー號を捕獲せられ、端艇に乗つてバタビヤに逃走した。この時、土人でタウファ・ハウなるものが起つて全群島を統一し、名をジ・ルヂ・トバウと改め、王位に即き、一八九三年二月九十六歳を以て死し、長孫トバウ王位を嗣ぎ、一九〇五年英吉利の保護を受くるに至つた。彼は一九一八年四月死し、その第一王女サロテ即位、名をラビニア女王と改む。

諸島の行政

女王はトンガ全群島を支配し、女婚總理大臣以下六大臣を以て内閣を組織して居る。辨務官、司法、土木及財務の各長官と、檢事總長等は、英吉利人である。ヌクアロファに政廳を置き、二十一名の議員の外、數名の行政及び立法委員が居て政治に參與してゐる。陸海の軍備なく、又公債を有せず、専ら英貨を使用し、學校教員の給與及び衛生費は一切官費を以て之を支辨す。女王は年俸四千六百十五磅を受く。島民は王道樂土を謳歌して居る。一九二四年には百六の小學校があり、五千の就學兒童がゐた。首府には王宮があり、緑の芝生と並木道、美しき教會堂、電燈、電話及び無電設備等がある。要するに事實上、英吉利の植民地であるといつてもよからう。

住民はポリネシア族にして基督教信者約二萬、モルモン宗を信する者約二千、年額三十萬磅の椰子を産し、一九三七年の輸出十六萬四千六百磅、輸入十三萬七千四百磅である。旅行者は二磅以上の銀貨を携帯して入國することが禁止されて居る。曾て濠洲から多額の銀貨が輸入されて銀の暴落を來したことがあるからである。

數名の邦人漁夫が居て海鼠を漁つて居る。群島の北方約四百海里附近では、魚族が豊富に漁獲されるといはれて居る。島内三箇所に無電塔が設けられてある。

一三、クリスマス島

布哇群島の南、北緯二度、西經百五十七度附近にあつて、パルミラ、ワシントン、ファンニング島等と共にライオン・ランド或はアメリカン・アイランドと呼ばれ、海面に低く露出せる大環礁で、ギルバート群島から移住した土人が少數住んで居る。陸地の面積は僅に六萬^{エーカー}に過ぎない。環礁の周囲は約百哩ある。英國は時々軍艦を此の地に派遣してゐるが、米國は航空の基地にしようとして策動し、これに對して、英國では無電塔を設置し、非常に備へて居る。中央太平洋椰子栽培會社は、一九一四年以來七十五年間の租借に對し、毎年二百磅の税金を拂ひ、椰子栽培の外、蝶貝及び燐鑛の採集をも行つて居る。島内には加特力教會堂が建つて居る。

ファンニング島は海底電信中繼所として重要視され、クリスマス島の西北約二百海里、北緯三度半、西經百五十九度附近に在つて、周圍三十四哩、面積十五方哩、人口二百餘、内海底電信に従事する白人二十九人である。電信線は加奈陀のバムフィールドと、フィジー島のスバとの間を、本島によつて中繼されて居る。小錨地があつて一千噸級の汽船が投錨することが出来る。ファンニング島開發會社の手によつて事業が獨占されて居る。植民省の直轄地である。

一四、マルデン島

海底電信の中繼所

南緯四度、西經百五十五度に在る。長さ十二哩、幅六哩、面積三十五方哩、クック島に近く、少量の燐鑛石を産出する。

この島に古代民族の文化を表はすピラミッドがある。學者は、イースター島及び祕露インカ帝國の巨石文化と關係があると云つてゐる。太古この島は大墓場であつて、死人があつた時には、小舟に屍をのせて此島へ來り、ピラミッド型の石段で屍を焼いてその下に埋めたものであると云はれて居るが、尙ほ検討の餘地がある。英吉利植民省直轄島なるも、現在の所、何等の價値も認められて居ない。

一五、クック諸島

本諸島はハーヴェイ群島とも稱し、新西蘭聯邦州の統治下にあり、東にソサイテール群島、西にトンガ及びフィジー群島があり、概ね南緯二十度、西經百六十度附近に位し、我が委任統治マーシャル群島の東南約二千三百海里の所に在る。島數大凡十五、南北の兩群島より成り、火山岩を以て構成さる。面積百十一方哩、一九三七年の人口約一萬二千、内譯左の通りである。

各島の人口	ラロトンガ島	五、〇〇〇人	マンガイア島	一、四五〇人	アイツタキ島	一、七〇〇人
	アティウ島	一、一〇〇人	ミチエロ島	三〇〇人	マウケ島	六五〇人
	其 他	八〇〇人				

就中、マンガイア及ラロトンガ島を最大となす。面積二十八方哩。島民はポリネシア族にして、昔サモア島から移

土人の傳説

住したものと云はれて居る。一八八八年十月英領となる。

土人の傳説によると、昔カリタ及タンギタといふ二人の勇士がゐて、刳木舟に乗つて海洋へ出て互に覇を争つたことがある。或島に近くなつた頃、二人は互に其勇を誇つて鬪はんとしたが、其愚なることを知つて、兩人力を協はせ、遂にクック島に上陸して、酋長の娘を娶り、遂に一人は島王となつたと云ふ。

本島は英船長ハーヴェーの發見に係り、これにハーヴェー島の名を冠したが、その後、キャピテン・クックが來航し、遂に全島にクック群島の名を用ゆるやうになつた。一八二三年、倫敦宣教師協會のジョン・ウィリアムが來て教化運動を始め、爾來今日に至るまで百十餘年、島民の殆ど全部は基督教信者である。一九〇一年新西蘭の統治下となる。柑橘・バナナ・椰子・トマト・高瀬貝・蝶貝等を主要物産とし、一九三七年の輸出總額八萬六千三百餘磅、輸入總額八萬六千五百餘磅、我が國から二千三百六十八磅の輸入があつた。

ラロトンガ、アイツタキ及アティウ島に無電塔がある。

クック群島の西大凡五百八十海里にニウエ島がある。面積百方哩、人口約四千百、バナナ・帽子・椰子等を輸出す。一七七四年クックは之を發見しサヴェーデ島の名を冠した。新西蘭領に屬し、海拔六百米の高山があり、森林資源に富んで居る。群島内六箇所に無電塔の設けがある。

一六、ビットカイルン島

佛領パウモト群島の東南、南緯二十五度、西經百三十度附近に在り、ヘンダーソン、ドゥッシー、オネオ島と共に東

南太平洋の英國直轄植民地である。面積僅か數方哩に過ぎない。一七六七年英人カーレットは單檣帆船スワロー號に座乗して附近を航海中、發見したものである。然るに英國軍艦バウンティー號は、ブライ艦長に率ゐられ英吉利から南太平洋へ出て、タヒチ島まで來ると、島には大勢の美人が居る上に、果實が豊富且つ氣候がよいので、船員は此の島をエデンの樂園の様に思ひ半數の水夫は上陸して遊んで居る間に、殘る者共は軍艦を奪つて逃げ出してしまつた。艦長ブライは十八人の水兵と共に一隻の端艇に乗つて、遙々三千六百哩の海路を西方バタバヤまで辿つて、漸く本國へ歸つたのである。

この時、上陸した水夫や、軍艦バウンティーに乗込んで居た者共は、ソサイテー島や、パウモト群島を、唯だ當もな

英人子孫の島

く經めぐり、ビットカイルン島にも來て、此所に永住する者もあつた。されば其者共の墓は今も尙ほ島内に殘つて居る。島が小さい割合に人口が多く、殊に英人の子孫が居るといふので、珍らしい島となつて居る。

ビットカイルンといふ島の名は、スワロー號に乗込んで居た水夫ビットカイルンが逸早くこれを發見したので、その名に因んだものである。島民の數大凡二百、海拔三百米の山があつて、諸・豆・砂糖・バナナ・瓜・鳳梨・珈琲等を生産し、又家禽が飼はれて居る。二人の米國人が居て、短波ラヂオを据えて世界のニュースを島民に傳へてゐる。

一七、英領ニューギニア (舊獨逸領、濠洲委任統治) (英領バプア附圖参照)

我が委任統治ヤップ島の東南八百海里にあり、土語ビララ島といふ。東は濠洲委任統治のビスマルク群島、南は英領バプア、西は蘭領ニューギニアに對す。曾て獨逸領であつたが、歐洲大戰後、濠洲の委任統治領となり、政廳を

ニュー・ブリテン島のラバウルに置いた。然るに一九三七年五月二十九日、ラバウルに近きヴァルカン島が爆發して、ラバウル市に被害があり、土人三百、白人二名が惨死した。其れ以來、政廳移轉の輿論が高く、孰れは遠からず其の運びとなるであらう。住民は今日尙ほ首狩の如き蕃風を有し、奥地は未だ開發されて居ない。海岸に良港なく、幅二十乃至二百哩の平野に、縦列せる山脈によつて、櫛の齒の如く切斷され、その間、所々に白人が椰子を栽培して居る。

發見者

英領ニューギニアの發見は一五二七年、西班牙人サーヴェドラがモロッカス群島へ渡來の際になされたものであると云ひ傳へられて居るが、これより先き、荷人アントニオ・デ・アブレウが一五一一年に渡來し、次に一五二七年葡人メネゼスが渡來してニューギニアの名を冠したといふ。一六〇六年、一度びは西班牙領となつたことがある。一八二七年佛人デューモン・ドゥルビーユが來航し、一八八〇年頃、獨逸の銀行家達が殖民地獲得の目的を以て開發會社を組織し、遠征隊を此所に派遣したことがある。すると忽ち英吉利の抗議を受けたが、宰相ビスマルクの努力によつて、一八八四年獨逸領を宣言し、カイゼル・ウイヘルヘルムスランドと名づけ、境界を制定し、間もなく三人の宣教師が渡來した。歐洲大戰の際には、濠洲艦隊のアウストラリア號が來てラバウルを攻め、長官ハーベルを降服せしめた。その後、濠洲の委任統治下に置かるゝや、政府は、土語ルアイスといふ頭目の如き者十名を選び、其の中四人を屬島に配置し、奴隸及び強制労働法を許可し、島民の轉住や、鴉片、火藥及び酒類の輸入を禁止し、治安のため、土人憲兵四百六十四、下士四十二人が配置された。
英領ニューギニアの面積は約七萬平方哩である。

一九三八年の推定人口八十五萬、其の内、外國人の數は五千七百五十五、内譯左の通りである。

英吉利人	三、三二九	伊太利人	四二	支那人	一、五二五
日本人	四〇	獨逸人	四六九	濠洲人	二二二
和蘭人	一五五	波蘭人	二二	米國人	一五一

物産の主なるものは椰子・カカオ・棉花・ゴムの外、蝶貝及び少量の礦物であつて、一九三七年の輸出總額八十五萬八千九百九十磅、輸入總額五十三萬七千九百四十磅、差引三十二萬一千五十磅の輸出超過を示して居る。

歐洲大戰直後、モアズビー駐在の警察官カリウスと、チャンピオンの兩人は、フライ河を遡り、セビック河を下つて、印度洋岸より太平洋岸へ、大ニューギニア島中央部の横斷探検旅行を敢行したことがある。群島内に十基の無電塔が設けられてゐる。

一八、ビスマルク群島（舊獨逸領）

本群島は我が委任統治領カロリン群島の南方僅に三百海里、東經百五十度、南緯四度に在り、全面積二萬一千方哩、一九二七年の人口一三四、二五〇名、主なる島嶼左の通りである。

ニュー・ブリテン	ニュー・アイルランド	アドミラルティ	ニュー・ラウエンブルグ
ニュー・ハノーヴァー	ガルドナー	アブガリス	ウネア
			ニッサン

群島は火山岩より成り、地味瘦せ、椰子の栽培は出来るが、其の他の栽培には適しない。元獨逸領ニューギニアの

本島に支那人の多いことは殊の外目立つ。支那人は鑛石の坑夫として、又商人として多く入込み、商人は靴・煙草・布地等を土人に販賣して居る。

本島はプレザント島とも呼ばれて居る。曾て一九三五年シドニー大學のカミアア・ウエジウッド女史が来て、考古學的調査をしたことがある。地味は燐分が勝過ぎて樹木が生育しない。飲料水に乏しく、マラリヤは皆無であるが、二百餘人の癩病患者が居る。

燐礦石の採掘は一九〇〇年頃から始まり、逐次其の量を増加し、一九三六年には、實に五十四萬七千四百噸を輸出し、この中、濠洲は三十七萬四百噸、新西蘭は十五萬噸、英吉利は一萬七千噸、芬蘭は六千噸の輸入を仰いで居る。

英國の矛盾

抑も歐洲大戰の終幕に於て、其の後始末のつけ方に甚しい矛盾があつた。この猫額の大寶庫は、豫てから英吉利のねらつて居た島であつて、赤道線から僅に一步を出たのみの所に横はる。これを日本へ委任させたならば、自分の利益にならないといふ英吉利一流の老獪なる策略により、獨斷で此の島を英領委任統治に編入してしまつたと云つてもよからう。

島内に無電塔の設けがある。癩病患者は隔離され、チャウルモーグラ油を用ひて治療されて居る。

二〇、英領サモア諸島（舊獨逸領ニュージールランド委任統治）

我が委任統治ヤルト島の東南約千六百海里、南緯十三乃至十四度、西經百七十一乃至百七十三度にあつて、曾て獨逸領であつたが、歐洲大戰後英領となり、新西蘭に委任統治されて居る。東に米領サモア群島がある。依つてこれ

を西サモアとも云つて居る。面積一、二三三方哩、人口は一九三八年に於て五七、七五九人、内土人五四、一六〇人、混血兒二、七七〇人、支那人三二八人、その他、五〇一人であつた。一九一四年の頃、支那人の數は約四千にも達したが今日では激減した。しかも尙ほ商權は専ら彼等が獲得して居る。白人の數は三百に満たない。土人はマオリ族と祖先を一にするポリネシア族であつて、體格魁偉、容貌また美しいが、性甚だ懶惰、政府は十七歳以上の男子に五噓チカの土地を與へ、自作を強制して居る。

絶景の群島

アピアは政廳のある所で、美しい港でもある。ルイズ・ステヴェンソンは書を著して、サモア群島の絶景を讚美して居る。所謂太平洋の樂園の名に背かない。七百三方哩のサヴァイ、四百三方哩のウポル、その他、數個の小嶼から成り、カカオ・椰子・ゴム・綿花・バナナを主要の物産とする。一九三六年の輸出は十五萬千四百磅、輸入は十三萬七千二百磅、一九三七年中、わが國より三萬九千磅の輸入を仰ひだ、

本群島の最初の發見者は一七七二年蘭人ヤコブ・ロググヘーヴェンであると云はれてゐる。一八一二年佛人ボーガインヴィーユ來航し、土人が多數の刳木舟を操縦して來り集つたのを見て、ネヴィゲートル島の名を冠した。即ち今の東サモア群島を指すのである。一八三〇年宣教師ジョン・ウィリアム、ジョン・バーフの兩人は、メッセンジャー・オブ・ピース號に八名のタヒチ土人傳道師を乗せてサヴァイ島に上陸、そして布教を始め六年を過ぎて二千の基督敎信者を得た。本群島には約四萬の信者と、若干のモルモン宗信者が居り、就學兒童の數は一萬を超えて居る。アピアに無電塔の設けがある。

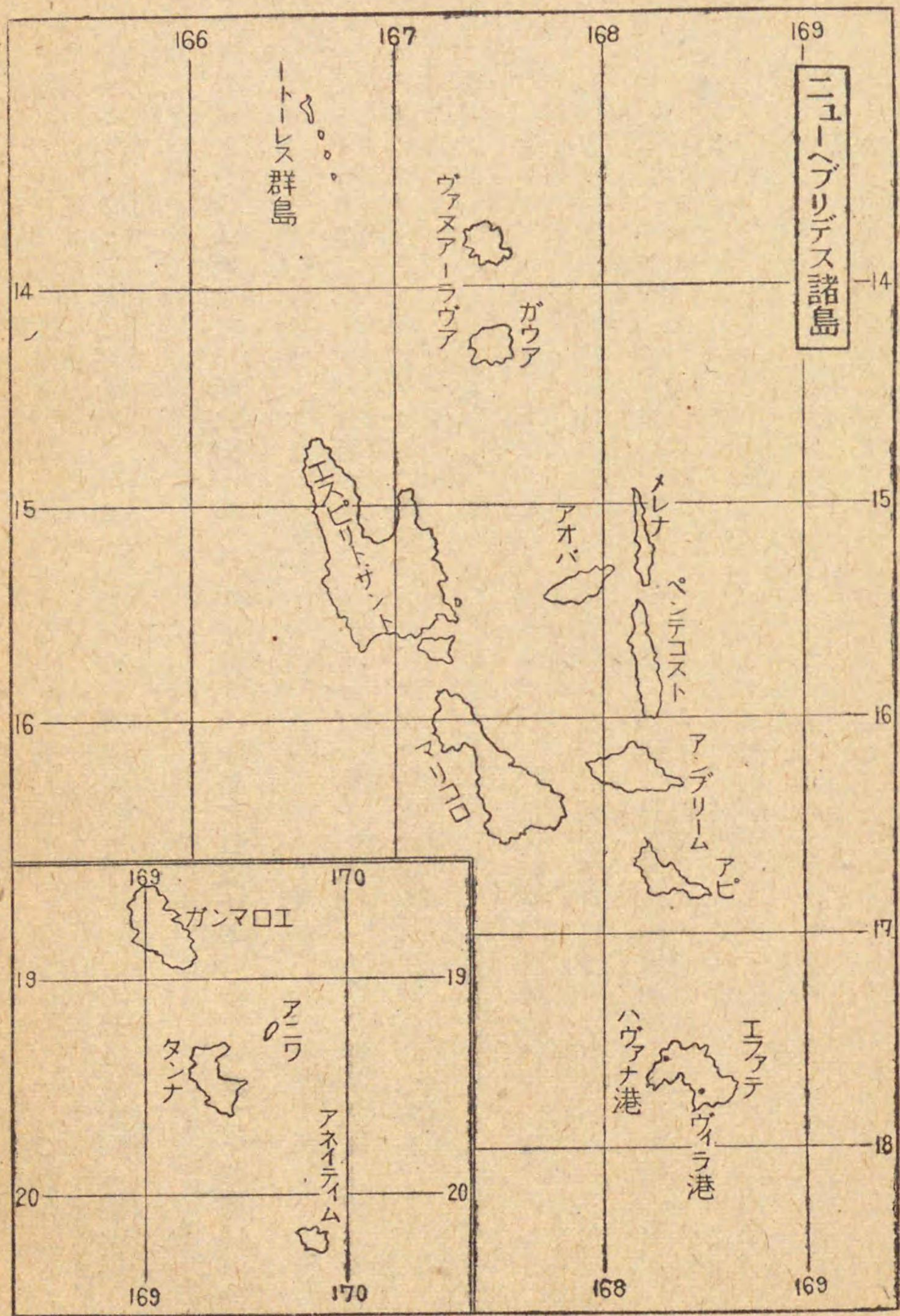
二、ニュー・ヘブリデス諸島（英佛共同委任統治）

本諸島は我が委任統治クサイ島の南千三百海里、東經百六十七度、南緯十六度に在り、約八十の島嶼から成り火山岩を以て構成され、面積五千七百方哩、一九三八年の人口約四萬一千、内英人二百六十、佛人七百五十、安南人千五十、その他土人である。主なる島嶼左の通りである。

沿革

右の中メレナ島はエスピリト・サント島とも稱し、面積千五百方哩、一六〇六年西班牙人デ・キロスは大略と誤認してこれを發見、聖オストラリアと呼んで暫らく此島に住んだことがある。その後一七六八年佛人ボーグインヴィーユは南寄りの諸島を巡航し、一七七四年キャピテン・クックは全島を周航した。又一七八八年、佛蘭西政府はラ・ペローズを隊長として探検隊を派遣した、彼は此の島にニュー・ヘブリデスの名を冠した。

一八四六年英吉利は本群島を占領し、一八五四年佛蘭西はニュー・カレドニア島を占領した。其の後、佛蘭西はニュー・ヘブリデス島の領土併合を計畫したが事成らず、遂に一九〇七年、英佛共同統治を協約するに至つた。然るに國體・宗教・その他が相違する英佛兩國が、いつ迄も圓滿に本群島を共同統治し得られやうとは思はれない。いつも英佛兩國と土人とが三つ巴となつて問題を起して居る。例へば、佛蘭西が武器彈藥酒類等を輸入しようとする、英吉利側ではこれを扼止する。宗教的軋轢も亦甚だしい。基督新舊兩派が複雑に布教されて居るから、地盤の競争が劇しく、島民中には二重の洗禮を受けたものも相當に多いといふ。



抑も共同統治といふやうなことは、世界に類の無いことであつて、其の結果の良きにせよ、悪しきにせよ、各國の注目の的となつて居る。聯合政府と、聯合法廷がある上に、土人は兩國の貨幣を通貨として居るといふ不思議な所である。エロマンゴ、タンナ等の名を有する島々があるが、是等は曾て教化のため來た宣教師の徳を偲んでその名に因んだのである。

タンナ、アネイティム兩島には活火山があり、アネイティム島には五十年の昔、一萬二千の島民が住んでゐたが、性病に斃れて今日は五百人に激減してしまつたのである。

群島の北にトールレス島、俗稱アバカ島がある。土語ヴァヴァ島といふ。一六〇六年佛人ボーグインヴィーユが発見し、エファテ島にはヴィラとハノヴァーの兩港があり、タンナ島には病院が設けられてある。

トールレス群島の東にバンク群島がある。本群島は一七九三年英人ブライの發見にかゝり、少量の硫黄を産す。モタ、ヴァルア、メリギ、ヴァヌア・ラヴァ等の小嶼から成り、孰れも英佛共同統治領である。

ニュー・ヘブリデス群島一九三六年の輸入は、英吉利から十二萬三千八百磅、佛蘭西から一千〇五萬六千法、輸出總額は僅かに十二萬二千餘磅に過ぎない。椰子・ココア・珈琲・綿花及び白檀油等を重要物産とする。エファテ島のヴィラ港に無電塔がある。

バンク群島

第六節 カナダ

一、沿革

カナダは一四九七年にイタリー人、ジョン・カボットが、カナダの探検をしたのが歴史上では有名であるが、之より前十世紀には既にノルマン人がカナダを發見したと云ふ記録がある。

一五四四年にフランス人カルティエがフランス國王の名によつてモントリオール地方を占領し、次いで一六〇八年にフランス人シャムプランはゲベック堡を創設して植民地を建設し、其の開發に懸命の努力を拂つたのである。更に一六四二年にはモントリオール府を建設した。然しながらフランス人によるカナダ開拓は永くは續かず、十七世紀の

英國の勝利

初めからイギリス人の進出が急速に活潑となり、一六二八年にはノヴァ・スコチアを占領し、一六七〇年にはハドソン灣會社を設立して、積極的にカナダの植民事業に乗出すに到つたのである。一方歐洲に於ては英佛が互に相戦ひつゝあり、これがために其の植民地戦も益々激しくなつたが、遂にイギリス側の勝利となつた。イギリスは勝利を得るために有名な七年戦争までも行つたのであるが、英系、佛系の住民は常に相争つて各地に反英叛亂が起り、完全に植民地化するには相當の期間を要したが、結局英國のカナダ自治領成立となり、一八六七年英領北アメリカ條令の發布を見、此處にカナダ自治領が誕生したのである。

二、地誌

カナダは北アメリカ大陸の北半部を占めて東西経度の差が九〇度に近い廣大な地域に亘つて居り、北西はアラスカを境として南はアメリカ北緯四九度線とスペリオール、ヒューロン、エリー、オンタリオ等の四つの大湖をもつて境として居り、西は太平洋、北は北極洋、東は大西洋に臨み其の全面積はほぼ全歐洲に比敵し、ロシア・支那の二大國に次ぐ世界第三位の大國である。

三、地帯

カナダを自然地理的に見るならば、これを次ぎの三つに分けることが出来る。即ち東部小高地帯、中部平原地帯、西部大高地帯であつて、此の三つの地帯は自然地理的に支配されながらも各々異つた經濟的發展をして居るので、地理的に分けられた三つの經濟地域とも見ることが出来るのである。

東部小高地帯は氣候が大體に溫暖で又土壤も肥沃であり、カナダの各種産業の中心地帯をなして居り、地域的にも大西洋岸に近く河川、沼湖の舟運の便が極めて良好であるから、此の地帯は早くより歐洲人が開發をして來た關係上人口も非常に稠密であつてカナダ最大の生産地帯と稱されて居る。

中部平原地帯は其の大部分が低地であつて南から順に草原帯、森林帯、ツンドラ帯となつて北極洋に通じて居り此の地方の南部は土地肥沃で一望千里の平野を成し、大農業經營地帯となつて居る。

西部大高地帯はアメリカから連絡している二つの大山脈と其の間に介在して居る高原とから成つて居り、東側の高峻な山地は有名なカナダイアン・ロッキーである。西部沿岸は日本海々流と南西風の發達のために頗る溫暖でカナダ

最良の氣候地帯を成して居る。且つ又雨量にも富んで居るため、森林も非常に繁茂し、カナダの最大産業とされるところのパルプ製紙業の原料を供給して居るのである。

地勢 東部にはラブラドル高臺があり其の南部のノヴァ・スコチア半島には北アメリカのローレンス山脈の氣勢を受けて山地が頗る多く、セントローレンス河下流の北方にローレンシア山脈、西部にはカスケード山脈が太平洋岸にあり、其の東にはロッキー山脈が走つて居る。カナダは大分水嶺が西偏するのとハドソン灣や湖水の多いために土地が廣大な割合には、大きな河川に乏しと云ふことも地勢上の一つの特徴とされる。

氣候 カナダは日本の樺太北部の北西に全土が横はつて居るため一帯に寒冷であつて、殊に北部は寒氣酷烈であり、一年の大部分は氷雪にとざされているツンドラ地帯である。東部の氣候は一月平均温度華氏二七度、七月六五度であり、西部は日本海々流と南西風の影響をうけて氣温高く一月の平均温度華氏三五度、七月（最暑期）六三度で其の差は二八度に過ぎない。中部は大陸的氣候で寒暑の差が甚だしく一月は華氏零下三度、七月平均六七度である。

面積人口 カナダは全面積が約三百四十七萬平方哩で、これを州及び地方別に見ると次の如くであり、この中ではケベック州が一番面積が廣大である。又此のうちユーコンと、西北地方を別として九州二地方に區分することもある。人口は一九一一年に七二一萬人であつたが、一九二一年には八七九萬人一九三二年の國勢調査による一、〇三八萬人と著しい増加を示して居る。各州及び地方別に其の人口數を見るならば次の如き數に達して居る。

ツンドラ地帯

州及び地方別	面積 (平方哩)	一九一一年	一九二一年	一九三一年
プリンスエドワード島	二、一八四	九三、七二八	八八、六一五	八八、〇三八
ノバスコットタイア	二〇、七四三	四九二、三三八	五二二、八三七	五一二、八四六
ニュー・ブランズウィック	二七、四七三	三五一、八八九	三八七、八七六	四〇八、二一九
ケベック	五二二、五三四	二、〇〇五、七七六	二、三六〇、六六五	二、八七四、二五五
オンタリオ	三六三、二八二	二、五二七、二九二	二、九三三、六六二	三、四三一、六八三
マニトバ	二一九、七二三	四六一、三九四	六一〇、一一八	七〇〇、一三九
英領コロンビア	三五九、二七九	三九二、四八〇	五二四、五八二	六九四、二六三
アサカチエワン	二四八、八〇〇	三七四、二九五	五八八、四五四	七三一、六〇五
サスカチエワン	二三七、九七五	四九二、四三二	七五七、五一〇	九二一、七八五
アルバータ	二〇五、三四六	八、五一二	四、一五七	四、二三〇
ニュー・フナランド	一、二五八、二一七	六、五〇七	七、九八八	九、七二三
合計	三、四六六、五六六	七、二〇六、六四三	八、七八七、九四九	一〇、三七六、七八六

住民 カナダの住民は殆んどイギリス人、フランス人を主とする白人によつて占められて居り、有色人種は極めて少数である。イギリス人は総人口の五〇%以上を占め、フランス人は舊フランス植民地であつたチベツク州に非常に多く居住してゐる。住民数の表は左記の通りである。これを種族別に見るとアイルランド系の住民はニュー・ブランズウィック州に比較的多く、ドイツ系はオンタリオ州に多く、日本人は西部海岸地方に多く、支那人も亦この地方に多く居住してゐる。

カナダに於ける種族別人口 (一九三一年調査)

種族別	人	種族別	人
イギリス人	二、七四一、四一九	ウクライナ人	二二五、一一三
スコットランド人	一、三四六、三五〇	オランダ人	一四八、九六二
アイルランド人	一、二三〇、八〇八	ポーランド人	一四五、五〇三
其他系	六二、四九四	インディアン及 Eskimo 人	一二八、八九〇
合計	五、三八一、〇七一	イタリヤ人	九八、一七三
フランス系	二、九二七、九九〇	ユダヤ人	一五六、七二六
ドイツ系	四七三、五四四	ロシア人	八八、一四八
スキャンディナヴィア人	二二八、〇四九	オースタリヤ人	四八、六三九
アルガリヤ及ルーマニア人	三二、二一六	日本人	二二、三四二
支那	四六、五一九	黒人	一九、四五六
フィリピン人	四三、八八五	エーゴスラビア人	一六、一七四
ハンガリア人	四〇、五八二	ギリシヤ人	九、四四四
チェッコ人	三〇、四〇一	其他	三五、三七四
ベルギー人	二七、五八五		

都市 カナダの都市人口は一九三一年の調査によると五百九十七萬人であつて、カナダ全土に於ける人口四萬人以上の都市は十六を算へ、十萬以上のものは七市であり、首府はオッタワである。(次表参照)

都市		人口	
都市名	人口	都市名	人口
モントリオール	八一八、五七七	カルガリー	八三、四〇七
トロント	六三一、二〇七	ロンドン	七一、一四八
ヴァンクーバー	二四六、五九三	ウインズ	六三、一〇八
ウイニペグ	二一五、八一四	バードウ	六〇、七四五
ハミルトン	一五五、五四七	ハリファックス	五九、二七五
キユーベック	一三〇、五九四	レヂ	五三、三五四
オツタワ	一二六、八七二	セント・ジョン	四七、五一四
エドモントン	八五、七七四	サスカトーン	四一、七三四
ヴァンクーバー	三九、〇八二		

三、政治

政治機構 カナガの政治機構はイギリス皇帝親任の總督統治下に二院制議會と内閣とがあつて、完全な立憲政治を行つて居る。地方は九州の聯邦制で各州は、それぞれ皇帝を代表する副總督の下に各々獨立した議會及び内閣を有して居り、頗る廣汎に互るところの自治權を有してゐる。

世界大戰後政治的にも經濟的にも又社會的にもアメリカとの關係が緊密化し、殊に最近益々それが濃厚となつて來たのである。丁度遠くの親戚より近い隣人の譬へそのまゝである。カナダは自治領として英國だけに見られる植民地の一で、内政については絶體且つ無制限な自治權を有して居る。大戰後カナダは國際聯盟に加入し、一九二三年に

はカナダ代表は聯盟總會の議長に選出され、更に一九二七年聯盟の非常任理事國に選出されて此處にカナダの國際的地位が公認されるに至つたのである。カナダ總督は英國皇帝の代表者であるが英國政府の代表者ではないのである。そして總督は實際上の政治權力を行使しないことが定例となつて居る。現總督はトウウキーズミア男爵である。

行政 總督の下には樞密會議が設けられて居り、之が總督を補佐して總ての行政を行ふのである。内閣總理大臣は下院に於ける多數黨の首領であつて、之は總督が其の任命をする。そして一般の政務は次の各省によつて之れを行ふのである。

各省と議會

其の各省は外務・政務・司法・貿易商業・鐵道運河・年金保健・労働・鑛山・農業・移植民・郵政・稅務・工務・國務・國防・海務・漁撈・内務の諸省である。

立法 立法權は總督の下に上院、下院があつて之を掌握して居り、上院は總督が其の議員を任命し議員は終身である。下院は民選議員をもつて構成されて居る。

司法 オツタワには大審院があり全カナダの民事・刑事訴訟裁判を行ひ、又各州には高等法院が一つあつて其の下に郡裁判所がある。

地方行政 カナダが九州に分れて各州には總督によつて任命された副總督があることは既に述べた所であるが、此の副總督の下には議會と行政政府があつて各々政務を分擔して居り、其の組織は殆んど中央政府同様である。一八六七年にドミニオン・オブ・カナダを組織する以前には各州は獨立の植民地であつて、各州とも自治權を有して居つて、其の地方に特殊の法制が有つたので現在でも相當廣汎な自治權を有して居るのである。

政黨 カナダの政黨は保守黨・自由黨・協同聯邦黨・復興黨・共產黨等五つの政黨があるが、この中では保守黨・自由黨が二大政黨として常に對立して政權を掌握して居る。英本國の立場から見るとは保守黨は傳統的に英本國の好伴侶であり、英帝國主義に對し強力な支持者である。自由黨はこれと相對的に親米主義者であることは當然であらう。

財政 先きの世界大戰後カナダは經濟的發展をなし、其の財政は極めて健全であつたが、世界恐慌とこれに引續く經濟界不況のため、非常な赤字財政状態を永らく續けて居つたのであるが、近年舊態に戻り黒字を見る様になつたのである。最近の歳出入統計は左表の通りである。

カナダの歳出入 (單位ドル)

歳	入	出	差
一九三五—三六	三七二、二二二、二〇六	三七二、五三九、一四九	(-) 三一六、九四三
一九三六—三七	四四五、〇二八、九五五	三八七、一一二、〇七二	(+) 五七、九一六、八八三
一九三七—三八	五〇一、二九七、五八一	四一四、八九一、四一〇	(+) 八六、四〇六、一七一
一九三八—三九	五〇一、七〇〇、〇〇〇	四一八、九六八、四五六	(+) 八二、七三一、五四四
一九三九—四〇	—	四五七、二四一、二一五	—

歳入

カナダの歳入の主なものには戦時税であるが、戦時税と云ふのは第一次世界大戰の際に戦時の税法を設けて銀行税・信託會社税・保險會社税・營業收益税・戦時所得稅・賣上税・小切手税・運輸税等を戦時税として戦費を徵集し、こ

れを今日でも引續き行つて居るわけで、カナダの歳入の中で最も重要なものとされて居ることは左表で明らかにされる。

主要歳入 (單位ドル) (一九三七—三八年度)

種	類	金	種	類	金
關	稅	九三、四五五、七五〇	土	木事業收入	一三、一二〇、五二三
郵	便收	三五、五四六、一六一	其	の他	一二、九七九、八三七
戰	時稅	三〇三、一五七、九七七	計	計	五一〇、二九七、五八一
消	費稅	五二、〇三七、三三三			

歳出

歳出の方で最も多額なるは公債費であり年歳出の三分の一を占めて居る。(表参照)

主要歳出 (單位ドル) (一九三七—一九三八年度)

種	類	金	種	類	金
公	債費	一三八、一六五、一五二	郵	政費	三二、二三七、九三八
民	政費	一〇、二五三、七四一	土	木事業費	一一、八二一、五七〇
關	稅、消費稅	一〇、六三一、〇〇〇	鐵	道運河費	一三、一八九、八四五
航	空事業費	一一、七五二、六五〇	農	務省費	七、四五七、五三一
年	金費	五六、九六八、一五〇	州	補助費	一三、七三九、七九二
軍	事費	二二、三三九、二二三	計	(其他も含む)	三七五、四〇三、三四四

投資 カナダに於ける外國資本の投資問題につき簡単に説明するならば、カナダと英本國及び米國との關係が或る程度理解されるのである。今から二十年程前迄はカナダの經濟的な進展は主として英國の資本で行はれて來たのであるが、世界大戦中にカナダは始めて自力により募債した約二十億弗の資金により大規模な開發を行つたのである。そして更にまた戦争後の大發展は米國資本の増大によつて遂行された。此の米國資本の大部分は米國會社の直接の投資であり、一九三〇年までに實に四十二億九千八百萬弗に達したのである。一九三六年の投資を見ても英國の二十七億余弗に對し米國は四十億弗である。此様な状態であるから投下資本の關係からみて米國の方が英國よりも遙に密接な關係にあることが判然とするであらう。

職業の種別

社會 カナダの有職人口を其の職業別に見ると、農漁業に従事して居るものが絶對多數で三二・一%を占め、これに次ぐものは二八・五%の工業人口である。カナダの民族關係は先きに住民の項で述べた如く、白人が壓倒的多數で約九九%まで白人である。東洋民族に對しては、米國同様に色々な排斥方法をとつて其の門戸閉鎖を計つて居るのである。

教育 カナダの教育制度は各州の立法權に歸屬して居るので、其の教育方針は各州によつて異つて居る。又教育は宗教とも密接な關係にあるため極めて複雑で、殊にカトリックと新教は常に其の教育方針について對立して居る。然しながら教育機關は各州とも非常に進歩して居り、殆んど州立の初等、中等學校によつて教育が與へられて居るのである。一九三七年現在の學校數は大學を除き約三萬三千四百校、教師數は七萬四千、生徒數二百二十萬人である。カナダ政府は土人の教育に對しても特殊な學校を設けて最善の方法をつくして居る。大學は十八校あり、このうちの六

校は州立大學である。大學生徒數は九萬六千人、教師及び講師數は六千人である。

宗教 一九三一年の調査によるとカナダは完全なキリスト教國であつて、總人口を宗教別に區分すると次の様になる。

ローマンカトリック 四百萬人、統一教會 二百萬人、イギリス國教 一六〇萬人、長老教會 八七萬人、バプテリスト 四四萬人、ルーテル教會 四〇萬人、ギリシヤカトリック 一九萬人、ユダヤ教 一六萬人、ギリシヤ正教 この外日本人の佛教徒等である。この中で最も勢力を占めて居るのは絶對多數を誇るカトリック教徒である。

新聞 カナダの新聞は約六〇種近くあるが、其の殆んどが保守黨、自由黨の二大政黨系のものであつて、僅かに週刊新聞の一、二が急進思想を代表して居るのみである。カナダの思想は一體に穩和な進歩主義であつて政府も思想言論等に對しては自由主義を採つて居る。

カナダの思想

四、軍 備

カナダは英本國とは獨立した海・陸・空の三軍を有してゐる。

陸軍 常備兵力約十六萬六千と稱せられる。

海軍 常備隊・豫備隊・義勇豫備隊の三部隊から成り、常備隊は現役部隊で編成し、ハリファックス、及エスクワイモルトを東西の根據地とし、現在の艦船は次の通りである。

驅逐艦 六隻（内四隻はエスクワイモルト、二隻はハリファックスに配備してゐる。）

掃海艇 六隻(三隻宛兩根據地に配備して居る。)

海軍豫備隊は海上生活者及び特種の陸上職務者たるカナダ人より採用し、義勇豫備隊は海上生活以外のカナダ人より採用する。

空軍 軍用機數二百十機(七箇中隊)兵員千百名と稱せられる。

五、産 業

資源無盡藏

カナダの産業は廣大な國土と豊富な天恵とによるところの原料生産國であつて、殊に農業が最も盛んである。各々の産業については順々に述べるが、カナダの産業は非常に活潑な状態であり、これは一に殆んど無盡藏なその天然資源を英米兩國の巨大な資本の力によりて開發せるもので、殊に工業部内の如きはその半額までが米國資本によつて占められて居るのである。

農業 カナダは小麥の國、木材の國として一口に云はれる程の農林業國であり、總人口の三四%は農林業に従事して居る。カナダの現在の經濟の支柱となつて居るのは何んと云つても小麥である。一九三六年の農産物總産額約六億弗のうち大半は小麥によつて居る。小麥の收穫期になれば全世界の經濟人の耳目はカナダの小麥に集中する。これは小麥の良、不良が世界の小麦相場を支配する程で、全額二億五千萬ブツシユのうち約八〇%が輸出されて居る。三百數萬方哩に上る廣大な國土の約五%の可耕地を有して居り、このうち約八、五〇〇萬エーカーが森林帶である。現在の耕作面積は約九千萬エーカーにしか過ぎず、更に發展の餘地がある。農作物の主なもの小麥、ライ麥、亞麻、其の

他で一九三八年の産額は左表の如くである。

主要農産物生産額(一九三八年調査)

種 類	耕地面積(エーカー)	生産額(ブツシユ)
小 麥	二五、五七〇、二〇〇	一八二、四一〇
燕 麥	一三、〇四八、五〇〇	二六八、四四二
大 麥	四、三三一、四〇〇	八三、一二四
ラ イ 麥	八九三、七〇〇	五、七七一
亞 麻	二四一、三〇〇	六九八
雜 穀	一、一二八、二〇〇	三六、一二九
其の他雜穀	五四七、一〇〇	一〇、二四〇

木材も小麥につぐ大きなもので、カナダの全木材數量は二、七三六億立方呎と云ふ莫大なものであり、地域的に見て採伐の多いのはブリティッシュ・コロンビア州で、カナダ全産額の約五四%と云ふ莫大な量を占めて居るのである。

畜産 農林業につぐ大きなものであつて、中部オンタリオ、サスカチワン、東部ケベックの各州の雨量の比較的少ない地方で盛んに行はれて居る。最も多いの

は乳牛でこれには約三、八七四千頭に達して居る。

乳牛が多い爲めに酪農事業が非常に發達して居り、この産額のみでも年額一億一千餘萬弗に達して居るのである。

この外各種の動物の毛皮産額も世界第一を誇るに足るものであり、農業、畜産事等何れも世界的優位にある。

漁業 カナダが東は大西洋、西は太平洋に北は北氷洋に面して居ることは既に述べた如くであるが、廣大な海岸線を有して居るので、漁場も非常に豊富であり、世界屈指の水産國である。カナダ水産業への投資は約五千萬弗に達して居り、そして其の年産額は四千萬ドルである。魚類の主なもの鱈の種類に屬するもの、鮭等を始め、蟹及び鰈類等が多く、五千萬ドルの投資額のあるカナダ漁業が今日に至つたのは日本人漁夫の力であることを吾々は注視しなく

水産國

てはならず、日本人漁夫の問題を除外してはカナダの漁業は今日に至らなかつたとすら云へるのである。

邦人排撃

日本人漁夫問題 カナダに居住する日本人漁夫は殆んど太平洋岸（殊にブリテイッシュ・コロンビア）に多く、この地で鮭、鯨の漁獲をして居り、邦人がカナダの漁業に従事したのは今を去る四十餘年前からであつて、一九〇三年には鹽鯨を邦人の手によつて在留支那人に供給し、更に上海にまで之を輸出し、カナダの對外貿易に盡したのである。邦人漁夫は仕事に忠實で勤勉である所から頗る業績が上つたのであるが、これはカナダ人漁夫にとつては死活問題であるとして、邦人の進出を阻害するために州内に排日運動が起され、一九二二年には漁業鑑札下附制限が設定されて、漁業に従ふものは白系カナダ人及カナダに歸化したものと云ふ制度により邦人の徹底的な排撃に努めたのである。邦人の歸化について種々の條件をつけて事實上には歸化することが殆んど不可能に近い方法をとつたのである。

其後一九二六年一月に至り、ヴァンクーパー駐在ブリテイッシュ・コロンビア漁業官は日系の漁業組合に對して、漁業に従事するものは一九二六年一月以降、白人及カナダ・インディアンに限るとの通告を發し、更にまた同年の四月海事漁業委員會は一九二七年以降東洋人（日支人）に對する漁業免許を一ケ年に一割づつ減じて十ヶ年後にはこれを全廢することを決議採決するに至つたのである。これに對し日系漁業組合ではこの通告を違法とする行政訴訟を起し遂に大審院で、結局カナダ憲法の解釋上、ブリテイッシュ・コロンビア州政府は歸化人の漁業禁止の權限なきものとして判決が確定し、此處邦人側の勝利とならんとしたのであるが、州政府はこの判決に對し不服を唱へ、更に本國樞密院に之を上告したのであるが、遂に一九三〇年十月十五日これも樞密院から却下された。然しながら州政府の排日漁夫運動は頗る根強く行はれて居るので、邦人漁夫の地位も安定することは仲々困難な現狀である。カナダの水産業

が今日の地位を築くに至つたのは、勤勉な邦人漁夫の不斷の努力の賜であることを忘れて、排日にのみ専念することは吾々にとつて無關心で居ることの出来ない重大問題なのである。

鑛業 カナダの重要鑛産物は左表の通りであり、石炭を除けば他は何れも極めて豊富である。北部地方は氷山や雪溪のために、調査が充分に出来て居らぬので未知數であるが、豊富にあることは充分に豫想されて居る。

主要鑛産物（一九三八年）

種別	産出額	價格（單位ドル）
銅	五八五、五二一、五三八ポンド	五八、八七六、〇〇〇
金	四、六七九、六八五オンス	九六、七三八、〇〇〇
鉛	四一七、三九九、八〇〇ポンド	二三、九八七、〇〇〇
ニッケル	二〇九、三〇五、九五一ポンド	五三、六六六、〇〇〇
銀	二一、九〇六、七〇九オンス	九、五二七、〇〇〇
石炭	一四、三七九、〇〇〇トン	四四、六二六、〇〇〇
天然ガス	三三、三五一、〇〇〇立方呎	一一、九一五、〇〇〇

工業原料と水力電氣

てこのうち既に開發されているものが八十一萬二千馬力で、僅かに一八%にしか過ぎぬが、それだけに今後の開發が大いに期待されるのである。カナダが人口の稀薄なるにも拘はらず工業が發達して居ることは、此の八十萬馬力の電力によるもので、今後電力の開發はカナダ工業の躍進を來たすものとし注目されて居る。此の豊富な電氣事業の投下資本額は一九三八年現在とし、十四億八千餘萬弗である。その他の主なる工業の資本額は左表の通りであり、電氣工

一九三三年の鑛産額は三億七千萬ドルに達して居り、上表に示すが如きである。

工業 カナダの工業は原料の豊富さと水力電氣事業の著しい發達により、異常に發展して居る。米國に次いで第一の電力資源國と云はれるカナダは其の水力資源約四、三七〇萬馬力であつ

業を加へるならば、工業への資本投下は實に五十億に達する程である。カナダが木材の國であることによりパルプと紙の工業が極めて盛んである。

カナダに於ける一九三六年工業統計

工業部門別	工場數	資本額	従業員數	總生産價格
植物性製造業	五、八二四	五二四、一六四、四九三	八七、〇七一	五九七、四六一、六三五
動物性製造業	四、四三三	二二二、二九九、八四四	六三、六〇九	三九七、九五五、二四一
織維工業	一、八七九	三一六、二七三、〇〇三	一一四、九六六	三六六、二一五、〇〇八
木材製紙工業	八、一七五	八七四、五九二、七八一	一三二、三七四	四九七、一〇三、六六六
鐵及鐵加工工業	一、三一七	六〇〇、四二四、三二二	一〇七、二〇三	四五三、三八五、五五三
非鐵金屬工業	五一二	二六六、三二二、〇七四	三六、九三五	三五一、一六四、八六〇
非金屬工業	八〇三	二八二、五九六、五三五	二一、九七四	一七七、七七一、五九七
化學工業	七四五	一四七、六六四、五三三	一九、九一〇	一七六、八七四、七九一
其他産業	五一四	三六、九二五、九四六	一〇、三一七	三四、四〇一、四六三

一九三三年のパルプ生産高は四四八萬トン（九千二百萬弗）のうち其の八〇％が紙となるのである。即ち同年三八〇萬トンの紙生産高で（一億四、七八〇萬ドル）あつて、更にこの八五％が新聞用紙であつて、新聞用紙の輸出は小麦について第二位を占めて居る。

六、貿易

輸入

カナダの外國貿易の詳細な統計表は左表の通りであるが、カナダの輸入貿易では米國が壓倒的に第一位にあり、カナダ總輸入額の約六〇％を占めて居る。一九三七年—三八年の會計年度における米國からの輸入は約四億八千七百萬弗であつて、之に對して英國からの輸入は總輸入額の約二〇％に當り、一九三七年—三八年度には約一億四千五百萬弗であつた。

最近拾ヶ年内のカナダ對外貿易表（單位カナダ弗）

年 度	輸 入 總 計	輸 入 總 額	輸 出 總 額	輸 出 又 は 輸 入 超 過
一九二八—二九	二、六九、二四、六五	一、二五、六九、〇九	一、三三、四三、五五	出 二七、七六、四三
一九二九—三〇	三、三九、二二、六三	一、三六、二七、五二	一、一四、九八、〇七	入 一〇三、三三、五二
一九三〇—三一	一、七三、四〇、七三	九〇、六二、六五	八二七、〇八、〇四	入 八九、五六、四七
一九三一—三二	一、八九、七六、九三	五七、〇三、九四	六、一一、五三、七	出 三、七四、九、三三
一九三二—三三	九、三六、八六四	四〇、三三、七四四	五三、四、九七六、二三〇	出 二八、五九四、二七六
一九三三—三四	一、一〇、〇六、四〇	四三、七九、六五	六七、三六、三九五	出 二二、四六、七七〇
一九三四—三五	一、二六、七六、四〇	五三、四三、一五三	七四、二四、八八	出 二四、八五三、七三五
一九三五—三六	一、四三、九、三九	五三、七九、〇三	八三、四三、〇六	出 二九、七三三、〇一三
一九三六—三七	一、七四、二九、七六	六七、八五、五六	一、〇七、四四、四四	出 四〇三、三六八、六五四
一九三七—三八	一、八三、八九、二二	七九、〇九、九八	一、〇六、四、二二	出 二八五、七五二、二六六

此の様に米國からの輸入が英國を斷然凌いで居ることは最近十年間の統計を通じて検討しても明らかなことであり、この間僅かに一九三二年のオッタワ會議後兩三年の貿易がやゝ米國よりの輸入の方に蠶食しかけたのであるが、

輸出

遂に大勢を動かすことは出来ず、依然として米國が第一位を占めて居るのである。カナダの主要な輸入品は石炭・石油・鐵類及び其の製品・機械類とか又半製品完成品が多いのである。米國からの輸入品を見ると機械類・重油・石炭・自動車部分品・銅鐵製品・棉花・果實・自動車・電氣器具・輕油等が主なものとなつて居り、英國からの輸入品は鐵板・毛糸・毛織物・石炭・羊毛・植物油・器械類等が其の主要輸入品となつて居る。

次にカナダの輸出貿易は如何なる状態を示して居るか云へば、第一の顧客は矢張り米國であつて、對米輸出額は年々カナダ總輸出額の四〇%内外を占めて居り、之に對し英國への輸出も最近數年間殊にオッタワ協定後は相當に増加し、大體カナダ總輸出額の三三%を占めて居る、其の主なる輸出品は米國に對しては新聞用紙・パルプ・金塊・ニッケル・木板・魚類・牛・銅及び銅製品等であり、英國に對しては小麥・小麥粉・チーズ・アルミニウム・紙・木材・ニッケル・銅及び銅製品・ハム・ベーコン等である。

對日貿易

日本とカナダは移民と漁業との關聯性の外に貿易上にも多くの關聯性を持つて居り、明治二十年大藏省發行の貿易統計には既にカナダの名前が對外貿易國として記載されて居る。

年 度	輸 出	輸 入
一九三八	一五、二四四	九一、二六〇
一九三七	二〇、〇三六	一〇四、六九二
一九三六	一四、五五四	七三、一七九

カナダの對日貿易は一九二九年以來年毎に減少する傾向を示し、而もカナダの有利な片貿易を特徴として居る。この日本にとつて不利な現象はカナダ政府が國內産業保護のために課したダンピング税と一九三一年以來爲替下落國に對して爲替ダンピング税を課し

日カ新通商協定

た結果である。カナダ政府のこの方針は邦品に大打撃を與へ、邦品の輸出は激減するに至つたのである。此の對策として日本政府は一九三五年初カナダ政府に對し、此の高率課税の撤廢を要求したのであるが、時の政府（保守黨）はこれに全く應ぜず、止むを得ず日本政府も報復處置として對日カナダ商品の或る種に對して五〇%の税を課するに至つた。處がカナダ政府も亦報復的に日本商品に對して三三、三%の新附加税を課すに至り、これがため遂に日カ貿易の減少は著しいものとなつたのである。

一九三五年十月に至りてカナダ政府が保守黨から自由黨と代るや、新政府は外國貿易の發展がカナダの不況打開の最善方法であるとの考への下に高率課税を撤廢し、一九三五年十二月になつてから日カ新通商協定が出来上つたのである。而して同年後、日カ貿易は大いに改善されてカナダの日本からの輸入も密柑・米・茶・絹及び絹製品・陶磁器・玩具等百三十萬ドルに達し、又日本もカナダから小麥・小麥粉・木材・新聞用紙・パルプ・アルミニウム・ニッケル・鉛等七百萬ドルの輸入をしたのである。（日本對カナダ貿易表参照）

日本對カナダ貿易（單位千圓）

年 度	輸 出 總 額	輸 入 總 額	日 本 入 超 額
昭和十三年	一五、二四四	九一、二六〇	七六、〇一六
昭和十二年	二〇、〇三六	一〇四、六九二	八四、六五六
昭和十一年	一四、五五四	七三、一七九	五八、六二五

七、交通、通信

道路 カナダの道路は延長約四一萬哩で、このうち舗装してあるものは約九萬三千哩、砂利又は石舗道が一七萬二千餘哩であり、自動車の利用が非常に多く、約一二〇萬臺の自動車数である。

鐵道 カナダの鐵道總延長は約四二、五五二哩で、この外に各種の軌道が約一萬餘哩ある。カナダの鐵道の約半數はカナダ國有鐵道と呼ばれて政府の手で運轉經營されて居る。カナダの鐵道中で最も主要なものは太平洋岸のプリンス・ルパートからロッキーマウンテンを越えてハリファックスに達する大陸横斷鐵道である。ヴァンクーヴァーから大西洋岸のセント・ジョンに至る鐵道、及び其の他を所有して居るところのカナダ太平洋鐵道會社は、私設會社ではあるが有名な會社である。

出入港船舶

船舶 一九三三年十二月三十一日現在の登録船舶は内河湖航路船をも加へて九、三七二隻、其の噸數は一、三三七、八〇七噸である。同年の入港船舶は九二、六四四隻で、このうち太平洋航路は二二、八三五隻、沿岸航行船は三九、八〇九隻である。出港船は九二、九二一隻のうち太平洋航路は二二、三二八隻であつた。カナダの内河湖航路は其の地理的關係から頗る發達して居り、其の水運路は二、七〇〇哩に達して居る。

航空 民間航空は國防省航空局の統制下にあり、個人及び商業用航空機は四五〇機である。一九三三年の定期航空總飛行距離數は一二、九五九、一〇〇浬であつた。

通信 電信事業は官營及び特許會社によるところの私營との二つで、電信局は四、二二二局其の電信線は五二、九〇

七哩であり、この總延長は三十六萬三千哩である。無線電信も非常によく發達して居り、沿岸内陸局二、八六二と船舶無線電局二六八とを有して居る。

第五章 北米合衆國及び同領有地

第一節 北米太平洋岸

一、太平洋岸三州

沿革

一四九二年(天長九年)八月三日の朝、サンタ・マリナ、ピンタ、ニニアの三帆船を率ゐて、西班牙パロス港を出帆したコロンブスが、同年十月十二日バハマス群島サン・サルヴァドル島に到着して以來、新世界の發見となり、他の歐洲列國は約一世紀間之を顧みなかつたが、西班牙のみは大なる關心を持つて、キューバに植民したのを始めとして、漸次米大陸に深く進出し、南は遠くメキシコ、ペルー等にまで及んだが、一五七六年(天正四年)英國の航路發見による米大陸進出に伴ひ、西班牙は植民政策の失敗が主となつて、終に英國に實力を奪はれ敗退した。然し英國も本國商業を援助せんとして、印紙稅其の他の課稅により植民地から重稅を求めた爲、植民地の革命となり一七七五年(安永四年)北米十三州の獨立戰爭となり、翌年七月四日米國は獨立を宣言し、終に一七八三年(天明三年)九月三日パリ會議に於て、アメリカ合衆國の獨立が承認された。

當時合衆國聯邦は十三州であつたが、其の後一八五〇年(嘉永三年)十二月九日加州、一八五九年(安政六年)二月十四日オレゴン州、一八八九年(明治二十二年)十一月十一日ワシントン州等が聯邦に加入して、現在四十八州と

なり、其の領土擴張の有様は次の通である。

北米合衆國領土擴張一覽 (自一八〇〇年至一九二九年)

地名	年號	面積(方哩)	價格(弗)	記事
ルイジアナ	一八〇三	八二七、九八七	一五、〇〇〇、〇〇〇	佛國ナポレオンより購入
フロリダ	一八一九 (文政二)	五八、六六六	五、四九九、七六八	西班牙より購入
同	同	一三、四三五		西班牙條約により獲得
ニューイングランド	一八二〇	六六、〇〇〇		併合、現在メイン州地方の六州
テキサス州	一八四五 (弘化二)	三八九、一六六		メキシコより分離併合
オレゴン州	一八四六	二八六、五四一		英國より分割
カリフォルニア州	一八四八 (嘉永三)	五二九、一八九	一六、八〇〇、〇〇〇	メキシコより割取し後購買の形式とする
ガズデン	一八五三 (嘉永六)	二九、六七〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	メキシコより購入
アラカ	一八六七 (慶應三)	五九〇、八八四	七、二〇〇、〇〇〇	露國より購入
布哇	一八九八 (明治三)	六、四四九		米西戰爭に乘じ併合
ソラ	一八九九	四〇		西班牙より獲得
ポルトリ	同	三、四三五		同右此の三地利權放棄の條件
グアム島	同	二一〇		後に此の三州に二千萬弗を支拂ひ
比賓島	同	一一四、四〇〇		含むパラワン及附近諸島に對し
サモア島	一九〇〇 (明治三三)	七七		十萬弗を支拂ふ 米・英・獨三國條約により西班牙より獲得

第一節 北米太平洋岸

パナマ運河地帯	一九〇四 (明治三十七)	五二七	永代租借權	租借中九年後より年額二十五萬 弗支拂ふ一九三四年條約を改正 し四十三萬バルボアとす 丁抹より購入
ヴァージン諸島	一九一七 (大正六)	一三二	二五、〇〇〇、〇〇〇	
合計		二、九一六、七六八		
一七八三年 獨立當時の十三州合計		三二二、五〇〇		
其の後も聯邦加入の三 十五州其他合計		三、三六一、八八二		
總計		三、六八五、三八二		

此の外米國勢力下に、キニーバ(一八九八年) 明治三十一年、パナマ共和國(一九〇三年) 明治三十六年、ハイチ(一九一五年) 大正四年、サンドミンゴ(一九一六年) ニカラガア(一九一三年) 大正二年がある。

地誌

太平洋岸三州は北緯三十二度から四十九度に到る亞熱帶地方で、東にロッキーマウンテン脈、西に太平洋を控へ、最も豊富な資源を有し、平野・湖水・沙漠等地勢と氣候との變化が多い地方である。面積人口等は次の如く、特に一八四四年(弘化元年)加州の金鑛發見が動機となり、同地方が急速に發展した爲、人口の増加したのは注目に價する。

州	面積 (方哩)	一九三五年人口 (千人)	一方哩の人口 (人)
ワシントン州	六六、八三六	一、六三三	二四
オレゴン州	九五、六〇七	一、〇〇八	一〇
カリフォルニア州	一五五、六五二	五、九九七	四〇

全計	三、一八、〇九五	八、六三八	二九
三州對合衆國	二、九七三、七七六	一二七、五二一	四三
	一〇・七%	六・八%	

(加州の日本人及び支那人は白人の三%強で、日本人は在米邦人の七〇%であり、此の三州に居住の邦人は八六・三%に當る) 又在留邦人の數は一九三六(昭和十一)年末調によると次の通りである。

邦人	加州	ワシントン州	オレゴン州	其他諸州	計
邦人	一一二、〇〇〇	一五、〇〇〇	五、四〇〇	一七、六〇〇	一五〇、〇〇〇
内 二世	五四、三〇〇	八、六〇〇	三、四〇〇	六、七〇〇	七三、〇〇〇

右の内大部分は都市生活者であつて、加州は四三%(内ロスアンゼルス市二一、〇八一) ワシントン州は五四%(シヤトル、タコマ其他)が都市に在住してゐる。

由來此の地方は移民問題を廻つて、排日の本場であり、一九一三年(大正二年)土地所有禁止法、一九二四年(大正十三年)移民法が實施せられ、又最近沖仲仕罷業が頻發する等、概して左翼分子の多いに拘らず、在留邦人が多し、所以は、太平洋を隔て、我國と相對する關係上、密接な貿易關係があり、且つは大陸横斷の鐵道運賃よりも太平洋を渡る海運運賃が低廉な爲、諸種の障礙を突破してゐる一つの原因である。

アメリカが世界人種の坩堝であることは、建國の歴史によつて明かであるが、然かも所謂アメリカ人と云ふ特別の國民的性格を作り、自由を愛し、獨立を尊び、明朗率直にして冒險進取的な強い國民的團結の熱情を持ち、又全國民

政治

の食糧物資は、自給自足が出来る所謂「持てる國」で、地球總面積の十八分の一に當る土地に、其の産額全世界の石油六〇%、石炭三〇%、鐵五〇%の資源と、自動車五人に一臺、電話七人に一個と云ふ工業力がある上に、富は世界の三分の一を占め、一億以上の國民が、二百萬噸の大海軍、四千機以上の精銳空軍を持つて、歐・亞の兩方面に對してゐるから、歐洲大戰の當時すら、合衆國の参加が最後の勝利を左右したのを見ても判るのである。其の上、平時でも世界貿易の一割以上を占め、歐洲十八ヶ國の戦債を持ち、世界各地に百七十億弗の投資を行つてゐるから、世界の問題に合衆國の動きが重視せらるゝのは當然である。

モンロー主義

従つて政治情勢も亦特徴があり、其の建國の精神たる自由と獨立との理想から、一八二三年（文政六年）十二月二日、時の五代目大統領モンローが「モンロー」主義の宣言をして、中立政策と海洋の自由とを國是としたが、一八九九年（明治三十二年）國務長官ヘイが、日・英・露・獨・伊等支那に關係を有する各國に對して、門戸開放機會均等の宣言を爲して以來、東洋に容喙することになり、一九〇九年（明治四十二年）我が南滿鐵道の中立を提唱し、一九二一年（大正十年）九國條約及び華府軍縮會議と結び、一九二八年（昭和三年）ケロッグ不戰條約、一九三三年（昭和八年）ルーズヴェルト大統領の世界經濟會議提唱等の變遷を見たのである。

合衆國の政府は、人民の利益の爲に組織されたものと云ふ精神であり、所謂アメリカン・デモクラシーが之であつて、リンカーンの云へる「人民の爲に、人民によつて行はるゝ、人民の政治」なる言葉が金科玉條とされてゐる。

従つて、各州各々法律があり、行政・立法・司法の三權は、嚴に獨立し其の特色を發揮してゐる。即ち、行政は大統領の下に、國務・大藏・陸軍・司法・逓信・海軍・内務・農務・商務・労働の十長官があり、毎

火・金曜日午後二時から會議を開くが、協議のみで議決する權能はない。

立法は上、下兩院の議會で行はれ、定員上院九六名、（任期六年）下院四三五名、（任期二年）である。

上院下院共に立法及び聯邦豫算の審議の外、大統領が外國と締結した一切の條約を批准し、又は拒絶する權能を持つてゐる。

司法は聯邦政府に、合衆國裁判所、合衆國大審院及び議會の組織する下級裁判所があつて、憲法規定の聯邦及び州の公法上の裁判を行ふ。

各州の政治は、各州各々憲法があり、行政機關として知事以下が居る。立法も、州に上、下兩院があり、知事・議員は何れも普通選挙により選挙される。又州の下に郡・市・町・村・その他の自治制があるのは、我國と大體同じ構成である。

政黨
以上の様に民主的組織の政治であるから、政黨は法律によつて定められた公の團體で、現在は民主・共和兩黨の外に、急進・農民・労働の三黨その他があるが、前二黨は格段の勢力があり、所謂「輿論政治」は之によつて行はれてゐる。

民主黨は一八二八年（文政十一年）、共和黨は一九五六（安政三年）に組織され、共に古い政黨で各々分權・集權兩主義の後身である。即ち、分權主義派の後身である民主黨は、南方農業地を本據として、自由貿易主義を主張し奴隸制度の制限に反對し、集權派の後身である共和黨は、奴隸解放を主張し、リンカーンの下に東北部工業地を本據として、保護貿易政策を主張して來たのである。

世界大戦前後は、大政治家ウイルソン大統領（二十八代在職自一九一三年）により、民主黨全盛であつたが、大戦後その反動として、ハーディング（二十九代自一九二一年）クリッヂ（三十代自一九二三年）フーヴァー（三十一代自一九三二年）の三代は共和黨に占められ、次で歐洲恐慌の影響にて不況時代となり、フーヴァー景氣も其の甲斐なく、民心も亦共和黨に厭き、ルーズヴェルト（三十二代自一九三二年）大統領が民主黨より選出せられた。然も一九三六年（昭和十一年）には、更に絶對多數を以て再選されてゐる。

現在議員の黨派別は左の通である。

	(上院)	(下院)	(合計)
民主黨	七五	三三四	四〇九
共和黨	一七	八九	一〇六
急進黨其他	四	一二	一六
計	九六	四三五	五三一

國防・軍備

參謀總長パーシング大將が一九二二年（大正十一年）發表した國防方針によると、「開戦の當初は、平時常設の正規軍を動員し、之に護國軍を加へて、先づ國境及び海岸を守備し、その掩護下に國內の大動員を行ひ、海軍は合衆國本國に對する敵軍來襲の防衛を陸軍に任せ、獨立して作戰する。各軍の動員が完成すれば、陸軍は遠征軍を編成して攻勢作戰を敢行する」との事である。

合衆國の建軍方針は建國以來、志願兵制度で、體格適當な合衆國市民の男子は、總て合衆國民兵たるの義務がある

と定めてゐる。

然るに、歐洲大戦の時は徴兵令を制定して、僅に十二萬の陸軍を一躍三百五十餘萬に整備したが、大戦後軍事當局及び専門家の大反對を排して、徴兵制度を止め、從來の志願兵制度に復した。

合衆國陸海軍の統帥權は大統領に屬し、陸軍は陸軍長官により統率せられ、その下に次官があり軍需品の補給及び戦時産業動員を統制し、又參謀總長があつて作戰及び軍隊の監督に當り、正規軍・護國軍・編成豫備軍等を設けて居り、其の概數は次の通りである。

米 國 陸 軍 (一九三七年六月末調)

軍 別	將 校	准 士 官	下 士 官 兵	計	編 制	
					(步)	(騎)(砲、空、其他)
正規軍 國防法規定 現在	一七、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	二九七、〇〇〇	二九七、〇〇〇	九師三師	若干
護國軍 法定 現在	一一、三一四	七九四	一六四、九九三	一七八、一〇一		
編成豫備軍	一四、一一〇		一七八、〇五一	一九二、一六一	一八師四師	
合計	一一五、一六九		一三三、五〇二	二四八、六七一		

服役は現役三ヶ年、豫備役一―三ヶ年で、外に義勇軍（一八歳以上四五歳以下の市民）がある。

空軍は我國と同様、陸海軍各別に屬して、獨立の空軍はないが、特に參謀總長直屬の航空隊があり、百二十箇中隊、

陸軍